

2010 平成22年 教室年報

岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine
Department of Surgery: Annual Report 2010

巖刀会 (外科学講座同門会)



外科学講座の沿革

当外科学講座の歴史は古く、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校創立1年後の昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡ります。その後、昭和5年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹が教授となり、昭和19年には瀬田孝一が教授に就任しました。昭和24年に医科大学に昇格し、昭和31年第2外科の開講に伴い外科学第一講座となった後も、瀬田は在任35年間にわたり当教室の基礎を築き、現在まで続く大いなる発展をもたらしました。昭和54年の瀬田の退職後には、東北大学第2外科助教授の森昌造が教授に赴任し、疾患別のグループ体制を確立することで、研究活動の躍進がみられるようになりました。昭和61年森が東北大学第2外科教授へ転任するにあたり、昭和62年6月に斎藤和が外科・内科では初の母校出身の教授に昇任しました。本学の良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承し、内視鏡手術の積極的な導入など外科学の更なる進歩に貢献しました。平成17年に斎藤の退職後、同年9月に慶應義塾大学外科学専任講師の若林剛が教授として就任しました。患者中心の最良の治療が選択・実践可能な、「チーム医療」を充実させつつ、内視鏡外科治療の指導的施設としての発展、北東北での肝移植の実現に着手してきました。平成18年には小児外科と合併し、外科学講座と名称を変更しました。平成19年1月に第1例目の生体肝移植を成功させ、平成22年3月までに20例の肝移植を順調に実施しています。内視鏡手術も、胃、大腸、食道、肝胆膵領域、乳腺、甲状腺等すべての分野で充実、発展しており、2009年は、総手術数約1300件の内、実に600件を超える内視鏡手術を施行しました。



外科学講座の 広報活動

当科では我々が行っている最新医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとする様々な医療関係の方々にご理解いただくために、ホームページの充実を図っております。平成18年9月の開設以来35,000回以上のアクセスを頂いており、ホームページをご覧になった方が「新しい医療を受けてみたい」と受診されることも増えて参りました。先進医療の内容をトピックスとしてアピールするとともに、スタッフのプロフィールも公開しており「主治医の顔と人となり」が少しでもお分かり頂けることで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内やイベント終了後のレポートも随時掲載しております。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。

C O N T E N T S

2010

巻頭言

Standard of care — 標準治療か個別化治療か？…………… 外科学講座教授 若林 剛
2009年を振り返って・・・腫瘍センター 区切りの1年…………… 池田外科・消化器内科医院院長
前 外科学講座准教授 腫瘍センター長 池田健一郎
今年一年を振り返って・・・数字では見えない発展…………… 外科学講座准教授 水野 大
今年の教室活動と医局長を終えるにあたり…………… 外科学講座准教授 医局長 佐々木 章

009 外科学講座スタッフ紹介

011 グループ紹介

上部消化管グループ《食道》・上部消化管グループ《胃》・内分泌グループ《乳腺》・内分泌グループ《甲状腺》・
内視鏡外科グループ・肝胆膵グループ・ヘルニアグループ・下部消化管グループ・小児外科グループ・
高度救命救急センター・リサーチグループ《分子治療研究室》・岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

025 平成21年診療状況

入院患者分類／手術件数／関連病院手術件数／外科専門医制度修練指定施設・関連施設／日本消化器外科
学会専門医制度認定施設

027 新教室員紹介

藤井 大和／片桐 弘勝／西成 悠／梅邑 晃／遠藤 史隆
秋山 聖華／小林めぐみ／八重樫瑞典／眞壁 健二／渡辺陽太郎

031 寄稿

平成21年巖刀会集談会報告……………大塚 幸喜
留学先から がんばってます……………小笠原 聡／MIAMI Times……………高橋 正浩
受賞 ライセートアレイによる蛋白定量を用いた癌細胞薬剤反応の評価……………西塚 哲

037 卒後臨床研修プログラム

岩手医科大学医学部 外科学講座 卒後臨床研修プログラム……………卒後研修担当 水野 大

039 平成21年アルバム紹介

045 関連病院だより

岩手県立二戸病院・岩手県立一戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・内丸病
院・盛岡友愛病院・盛岡市立病院・岩手県立宮古病院・岩手県立釜石病院・岩手県立大船渡病院・北上済
生会病院・岩手県立江刺病院・岩手県立千厩病院・函館五稜郭病院・八戸赤十字病院・山本組合総合病院・
鹿角組合総合病院

059 外科紹介医療機関

065 研修業績

086 編集後記

087 協賛広告

Standard of care — 標準治療か個別化治療か？



岩手医科大学医学部外科学講座
教授

若林 剛

Go Wakabayashi, M.D., Ph.D.
Professor and Chairman

今年の教室年報を発行するにあたり、最初に私の感謝の気持ちを皆様にお伝えしたいと思います。教室員を始め、関連病院と巖刀会の先生、患者紹介元と紹介先の先生、ご講演をいただいた先生、逆にお招きいただいた先生、学会や研究会でお世話になった先生、外科病棟とオベ室／ICUの看護師を始め病院のコメディカル、教室担当のMRさん達、手術器具メーカー担当者、病院事務、その他多くの方々のお力により、2009年は前年に比し手術件数、入院患者数、入院および外来稼働額、学会発表数、論文発表数、講演会数など、全てにおいてまた数を増やしました。結果として数が増えたと書いても、その過程で払われた労力は見えてきません。しかし、少し想像力を働かせれば、この教室の長として皆様の努力に自然と頭が下がります。この場を借りて、心より御礼申し上げます。昨年の教室年報の巻頭言で、私自身は「成長から成熟へ」とのギアチェンジを予測したのですが、結果は嬉しい誤算でした。ただ、今年こそ「患者満足度の高い外科治療」を合い言葉に、量より質を重視したいと思います。

医療の変化には目を見張るものがあります。私が慶應病院で助手だった17－8年前には、癌の告知はまだ早期癌だけだったように記憶しています。胃癌をはじめ各種癌治療にガイドラインが導入され、現時点でのエビデンスに基づいた標準治療が確立されてきました。今春からは施設認定が必要ではありますが、腹腔鏡下肝切除が保険収載されたことは個人的に感慨深いものがあります。また、DPCの導入や各病院間での入院期間や医療費の比較など、ますます標準的治療を追求する方向性が明確化されてきました。

このような流れの中で、大学病院の役割とは何でしょう。卒前・卒後教育の場、高度医療の提供、そして新しい医療の創成だと理解しております。卒前・卒後教育の場としては、標準的治療を実践していれば、大体ことは済むと思います。また、初期臨床研修医を育てる中核的一般病院では保険診療で認められた標準的治療、つまりstandard of careを実践しているはずで。それではstandard of careに対して、大学病院で行なうべき医療とは何でしょうか？もちろん、将来的には標準的治療になるべき新しい治療、すなわち先進医療や高度医療が最初に挙げられます。例えば、教室でも先進医療として「腹腔鏡下肝切除」、「SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験」、「肝切除手術における画像支援ナビゲーション」「腹腔鏡下スリーブ状胃切除」を行っており、また「腹腔鏡補助下肝切除（部分切除、外側区域切除を除く）」と「内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術」が高度医療として認可されております。「腹腔鏡下肝切除」はこの春に先進医療から保険医療になりましたが、そのポイントは同術式の普及性と安全性が先進医療専門家会議で認められたからであります。現在、「腹腔鏡補助下肝切除」は高度医療（薬事未承認の手術器具を使用し、まだあまり普及していない術式）ではありますが、将来的には保険収載を目指して、その手前である先進医療にすべく多施設共同試験を計画しております。

私はレストランで料理を食べる時、コースメニューよりアラカルトをオーダーする方が好きです。自由度の高い選択を好む自分が、大学病院で肝胆膵領域の外科治療を行う道を選んだのは正解だったと思います。標準的手術を画一的に行なうことより、個々の患者に合わせapproach法を変え切除範囲を決める方がより洗練されていると感じています。個々の患者に合わせて、最も適切な治療法を提供することが、大学病院のもう一つの役割でもあると思います。教室では切除不能膵癌に放射線化学療法を行なった後に切除したり、生体肝移植ドナー手術に腹腔鏡補助下肝切除を応用したり、次の世代での標準的治療を目指して新しい試みを積極的に行なっています。標準化と個別化は、相反する言葉です。しかし、外科学の歴史を振り返っても明らかなように、標準化の先に個別化があり、個別化の先にまた標準化があります。乳癌の手術が定型的乳房切断術から乳房温存手術、そしてセンチネルリンパ節生検による腋下廓清の省略と変遷する過程で、個別化治療であるセンチネルリンパ節生検はすでに標準治療となっています。

大切なことは個々の患者に合わせて最も適切な治療を提供することが、将来の標準治療を創成することになると理解することだと思います。何が「患者満足度の高い外科治療」であるかを常に考え、教室員とコメディカルスタッフとともにアラカルトメニューの外科治療を実践していきたいと思います。

2009年を振り返って・・・腫瘍センター 区切りの1年



池田外科・消化器内科医院院長
(前 外科学講座准教授・腫瘍センター長)

池田 健一郎

Kenichiro Ikeda, M.D., Ph.D.
Associate Professor

2009年は、腫瘍センターにとって様々な意味で区切りとなる年でした。岩手県がん診療連携拠点病院の指定を目指すために「まず組織図ありき」という中でスタートしたバーチャル腫瘍センターですが、4月に院内改装を終え、ハード面での整備が終了しました。主なものは腫瘍センター事務室（本体）、化学療法専門病室（計14床）と抗癌剤専門調剤室（中・西病棟）、緩和ケア外来診察室、そして「がん患者・家族サロン」です。手狭な院内を改装して、これだけの新たな組織を設置して頂き、大学・病院関係者の方々に厚く御礼申し上げます。以下にそれぞれについて解説します。

- センター事務室は西3階に開設されました。専従の看護系・事務系スタッフの作業スペースと備品を備え、センター6部門を統括する実体のある組織になりました。また、緩和ケアチームや化学療法委員会などの小カンファランスにも頻繁に利用されています。さらに隣接して「がん患者・家族サロン」が開設されました（後述）。
- 化学療法専門病室は中7階病棟を一部改装しました。室長は日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医の伊藤血液内科准教授で、専門的な看護スタッフとともに化学療法を施行する体制が整いました。この専門病室の利用対象患者は、①原発不明癌、②オンコロジーエマージェンシー、③化学（放射線）療法施行患者です。
- 専門病室の稼働と同時に、専門調剤室も稼働を開始しました。従来まで抗癌剤調剤は各病棟で行われており、この不都合を解消しました。また、レジメン審査委員会をバージョンアップさせた化学療法委員会が設立され、院内で施行する化学療法に関して新たな取り決めが決定されました。レジメンの登録制・審査制とオーダーリング画面への反映は当然ですが、さらに本学独自の取り決めとして、説明・同意文書、入院中のクリニカルパスをレジメン毎に作成して化学療法委員会とパス委員会の審査を受けることを必須とすることで、医学的根拠のある化学療法を診療チーム全体が理解でき、安全に施行可能な体制が確立されました。多くの医師・看護・事務スタッフの努力に敬意を表する次第です。

- また、岩手県独自の先進的な試みである「合同がんサードミーティング」も定期開催されるようになりました。これは、岩手県がん診療連携協議会が主催する県内11拠点・基幹病院を結んだテレカンファランスであり、腫瘍センターと化学療法委員会の主導で4ヶ月に一度行われます。
- 緩和ケア外来は週一回月曜日のみですが、木村祐輔講師が担当しています。木村先生は食道癌グループのチーフだけでも多忙なのに、緩和ケアチームの室長として入院と外来の両方をカバーしていて、まさに獅子奮迅の活躍です。早急な緩和ケア専従医の招聘が望まれています。
- 「がん患者・家族サロン」は、個人的にも思い入れのある組織です。「がん患者と家族に対する精神的ケアの充実」を目的とし、①情報交換と親睦 ②情報収集 ③よろず相談の3つの機能を有しています。本学の看護師長OG 2名を専従スタッフとして配置し、サロンが円滑に機能するよう配慮しています。非収益部門に対し専従スタッフを雇用する英断を下された病院長をはじめとする関係者に御礼申し上げます。サロンにはボランティアワークショップを受講した患者団体の方々もスタッフとして参加しています。インターネットや各種リーフレット、書籍、DVDなども準備し、無料でコピーも出来ます。よろず相談は日替わりで、看護師、薬剤師、栄養士、MSWが簡単な相談を受け付けています。当院受診の有無に関わらず利用でき、1日平均10名以上の利用があります。今後はクリニカルパスにサロン訪問を組み込むことで、患者目線の新たながん医療が可能になると考えます。

以上、大まかに腫瘍センター関連の出来事を振り返ってみました。今年はハード面を含め大きく進歩しました。これも諸先生の御指導・御鞭撻の賜と思っております。心から感謝申し上げますとともに、「がん患者・家族サロン」を是非一度ご覧頂き、多くの患者さんに来訪をお勧め頂ければと思います。

最後になりましたが、腫瘍センターのハード部分の完成とすべての部門の業務が軌道に乗り、円滑な活動が確認出来ましたので、大堀理事長、小川学長、鈴木医学部長、小林病院長および若林教授のお許しを得て、大学を辞し、亡父の医院を継承させて頂きました。新腫瘍センター長の藤岡教授のもと、新たに柏葉、伊藤の両副腫瘍センター長が任命され、新体制での腫瘍センターがスタートしました。正に一区切りということになります。24年半の長きに渡りお世話になった岩手医科大学外科学講座および同門の先生方、ならびに学内外の諸先生方に心より御礼申し上げます。

今年一年を振り返って・・・数字では見えない発展



岩手医科大学外科学講座准教授

水野 大

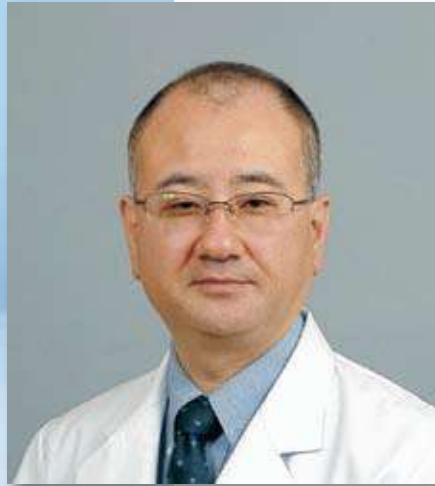
Masaru Mizuno, M.D., Ph.D.
Associate Professor

昨年一年を振り返りますと、海外では年明け早々にオバマ氏が黒人初の米大統領に就任し、よい意味での変化の年になるかと思いきや、4月にはその米国でGM、クライスラーがまさかの経営破綻、6月には世界的スーパースターマイケル・ジャクソンが急死、7月には中国ウイグル自治区で暴動勃発。その後年末にかけてもあまり明るいニュースはありませんでした。一方、国内に目を向けますと相変わらずの景気低迷の中、3月にWorld Baseball Classic連覇という明るいニュースがありましたが、5月には水際作戦の甲斐無く新型インフルエンザが国内で発症し、驚くべきスピードで日本中に広まり、発熱外来の設置や面会制限など、同門の先生方も大変な御苦労されたのではないのでしょうか。8月には多くの国民の支持を得て民主党に政権が交代するという大きな変化があり、新たな政策を次々と打ち出してきましたが結果はどうなることでしょうか。このようにけっして明るいニュースが多かったとは言えない一年でしたが、教室の一年はどうだったのでしょうか。単純に数字だけに目を向けますと手術件数、学会発表数、入局者数等々数字的には前年までの右肩上がりからそろそろプラトーに達しつつあるように思われます。これは、国内外の出来事同様にともすればネガティブに捉えられかねない表現ですが、内容に詳細に目を向けますとそのようなことはありません。手術に関しては手術室のキャパシティがもはや限界に足しいているため、当科としては年々手術数が増加しているにもかかわらず従前からの手術枠しか割り振られていないという厳しい環境が続いています。そのような環境下にありながら各グループとも全体の手術数を維持しながら、より難易度の高い手術を施行する、より低侵襲な術式を取り入れ

るなど内容的には進化が続いております。肝胆膵グループは腹腔鏡下あるいは腹腔鏡補助下肝切除を中心に着実に症例数を増やしたほか、他のグループも一つの切開創からスコープ、デバイスを挿入して行う腹腔鏡下手術＝単孔式腹腔鏡下手術を導入するなど新たな試みを行っています。学会発表に関しましても多忙な臨床活動の中、各スタッフが研究成果、臨床成果を各学会・研究会で積極的に発表を行った結果、数的には劇的な変化はみられないものの、シンポジウム、パネルディスカッションなどのいわゆる上級演題として多く採用されました。入局者ですが本学出身者に関しましては相変わらずの大学離れに歯止めがかからず厳しい状況が続いています。とくに最近の学生は内科指向、マイナー指向が強いように感じられ今後に不安が残ります。幸い、昨年は県内他病院で研修終了した本学出身者の他、他大学出身の入局者もありマンパワーを維持することができました。

さて、一昨年同様、私の昨年の医局内での大きな仕事は卒後研修プログラムの作成でした。一昨年は卒後臨床研修医制度修了者を対象とした後期研修に絞って作成しましたが、それだけでは入局者が殺到する?プログラムとは言えないと考え、昨年の本誌で紹介した後期研修プログラムを基本にしつつ、医学部新卒者にアピールすべく本学での卒後初期臨床研修制度に新たに「外科専門医コース」を加えるとともに、他病院で初期臨床研修を終了したあるいは後期研修まで終わらせた若手医師にアピールすべく慶應義塾大学を主幹とする大学病院連携型高度医療人養成推進事業による専門教育をスタートしました。詳細は別項で説明させていただきますが、外科医を目指す医学部新卒者あるいは若い医師にとって日本外科学会専門医あるいは更なる上の資格を効率よく取得できるプログラムになっております。講座発展のためには安定した入局者数が必要条件ですので、同門の先生方の御子弟あるいはお知り合いに医学部卒業生や研修医がおられましたら、是非とも当教室への入局を勧めていただきたいとおもいます。

今年の教室活動と医局長を終えるにあたり



岩手医科大学外科学講座准教授
医局長

佐々木 章

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.
Associate Professor

2009年の教室活動についてご報告いたします。臨床面では、年間の手術件数（小児外科手術件数）は、2007年1,160例（203例）、2008年1,280例（216例）、2009年1,288例（190例）と年々増加しており、大学内での手術枠の不足のため、盛岡市立病院などの関連病院を活用して手術を行っているのが現状です。今後は、大学近郊の関連病院での大学患者の手術に対するご協力、さらに関連病院・医院との円滑な後方連携パスを、引き続き宜しくお願い申し上げます。研究面では、2009年（2008年）の業績は、英文論文15（10）編、和文論文38（43）編、著書15（8）編、国際学会発表37（36）回、国内学会発表187（189）回、研究会発表140（57）回、講演76（39）回でありました。15編の英文論文（impact factor）を詳細に評価すると、外科学講座10編（17.8点）、共同研究による共著5編（16.6点）でありましたが、若手・中堅医師の業績は横ばいでした。手術件数の増加に伴う多忙が原因と考えておりますので、対処法を考える必要があります。

2010年3月で4年間の医局長を終えることになりました。人事では、教室員の不公平感をなくすために、特に長期出張では、盛岡近郊病院と地域病院を交互に出張させる体制を取りました。また、関連病院の人員配置は、主に全手術

件数、全身麻酔手術件数/医師数、若手医師への手術件数と内容で判断いたしました。そして、実際には日本外科学会・消化器外科学会専門医取得への配慮、学会発表・論文執筆の指導、教室行事への参加状態、出張医師と受け入れ病院との人間性のマッチングなども人事の判断項目といたしました。しかしながら、実際には最善の評価方法ではないとの批判もあると思います。次期医局長は、敏腕の肥田圭介先生ですので、教室環境をさらに改善してくれることと思いますので、宜しくお願い申し上げます。

私の今後の役割として、大学院指導責任者（臨床分野）に拝命されました。雪解けとともに研究に専念できる環境を取り戻せそうで、同時に再認識していることがあります。大学病院に残る医師に求められることは？ もちろん患者目線に立った診療、先進的な手術を安全に患者に提供することは当然のことです。問題は、いかに自分の時間を犠牲にして学生と若手外科医を教育し、全国の医師との親密な交流を構築させてあげられるかが重要と考えております。そして、研究も同時に行える大学マインドを持ったバランスの良い医師の育成が今後の課題です。関連施設の先生方には、大学病院では経験できない日常診療と地域医療、外科診療の基礎と開腹手術の経験、学会発表と論文執筆の継続、そして、大学病院を離れたリフレッシュとともに、円満な家庭生活へのご配慮にご協力いただくことを切望いたします。



助教
鴻巣 正史
〔平成13年卒〕

助教
高原 武志
〔平成12年卒〕

研修医
山下 武志
〔平成20年卒〕

助教
板橋 英教
〔平成15年卒〕

御供 真吾
〔平成15年卒〕

助教
藤原 久貴
〔平成10年卒〕

助教
箱崎 将規
〔平成15年卒〕

助教
星川 浩一
〔平成12年卒〕

大学院生
片桐 弘勝
〔平成16年卒〕

大学院生
梅邑 晃
〔平成17年卒〕

助教
野田 芳範
〔平成12年卒〕

大学院生
松尾 鉄平
〔平成17年卒〕

助教
加藤 久仁之
〔平成16年卒〕

助教
石田 和茂
〔平成17年卒〕

大学院生
西成 悠
〔平成19年卒〕

助教
稲葉 亨
〔平成9年卒〕

助教
中嶋 潤
〔平成9年卒〕

助教
富澤 勇貴
〔平成12年卒〕

大学院生
石田 馨
〔平成18年卒〕

助教
武田 雄一郎
〔平成12年卒〕

講師
新田 浩幸
〔平成5年卒〕

非常勤講師
杉立 彰夫

助教
板橋 哲也
〔平成12年卒〕

秘書
菊池 寿里

秘書
井上 かおり

秘書
入月 友香

講師
西塚 哲
〔平成6年卒〕

講師
木村 祐輔
〔平成6年卒〕

講師
大塚 幸喜
〔平成5年卒〕

講師
柏葉 匡寛
〔平成3年卒〕

准教授
佐々木 章
〔昭和63年卒〕

外科学講座教授
若林 剛
〔昭和59年卒〕

准教授
水野 大
〔昭和62年卒〕

講師
肥田 圭介
〔平成元年卒〕

秘書
梅澤 華世子

研究補手
池田 めぐみ

助教
伊藤 直子
〔平成12年卒〕

大学院生
小林 めぐみ
〔平成19年卒〕

研修医
秋山 聖華
〔平成20年卒〕

秘書
菊池 知美

上部消化管グループ《食道》

STAFF：木村祐輔・岩谷 岳・野田芳範

専門外来

火曜
8時30分-13時30分



食道癌の集学的治療を担当しています。毎週火曜日の「食道専門外来」では、主に治療後のフォローアップや、ご紹介いただいた患者様の診察を行います。治療後の定期的なフォローアップとともに、外来化学療法室と放射線科と連携し、外来通院での化学療法や放射線治療を積極的に導入しております。入院治療では、手術治療を中心に早期癌から高度進行癌まで、消化器・肝臓内科や放射線科と連携して治療にあたっており、特に手術不能の高度進行癌に対しては化学・放射線療法を組み合わせた治療を積極的に行うことにより治療成績の向上を目指しております。また、われわれは日本臨床腫瘍グループ（JCOG）の食道がんグループのメンバーであり、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発・実践を行っています。

食道癌の治療につきまして、いつでもご相談をお受けいたしております。是非お気軽にご連絡下さい。

連絡先 木村祐輔 E-mail: ykimura@iwate-med.ac.jp

平成21年の
ニュース

- 1月 ▶ ASCO-GIにて演題発表（木村祐輔）
- 9月 ▶ ISWにて演題発表（野田芳範）
- 10月 ▶ 池田健一郎准教授が退職
- 12月 ▶ 食道癌手術件数32件と、目標の30件/年を達成。

平成21年 診療・研究状況報告

- 入院数：69例
- 手術数：32例（胸腔鏡下食道切除術：20例）
その他 空腸瘻造設術4件、人工肛門造設術2件、直腸癌手術1件、十二指腸空腸バイパス1件、回腸部分切除術1件、腋窩リンパ節郭清1件。
- 食道癌手術年次推移 全切除数（うち胸腔鏡下手術）
2007年 28(7)例、2008年 28(17)例、2009年 32(20)件
- 平成21年研究報告
【教室内】
 - ・「腫瘍外科領域からみたマイコプラズマ感染の意義」岩手大学農学部獣医微生物学研究室との共同研究。現在症例集積中。
 - ・TRICE06「食道癌生検標本の遺伝子プロファイル解析による化学放射線療法感受性予測に関する探求的研究」症例登録中。
 - ・「分子標的治療薬ZD1839を用いた老化誘導療法による食道癌治療戦略の開発」文部科学省科学研究費 基盤研究C
 - ・「胸部食道癌術後感染性合併症と血糖値に関する研究」
 - ・「17番染色体長腕上の食道扁平上皮癌原因遺伝子の同

- 定」
- ・「CDDPを用いた術前化学療法を施行した食道癌患者における、イオンビーム励起エックス線分光分析によるシスプラチン体内動態の検討」
- ・「食道扁平上皮癌の発生・進展に関するフォスファターゼの変異・機能解析」
- ・「食道癌切除術後、末梢静脈栄養補助療法の検討【全国規模】
- ・JCOG0303「局所進行食道癌に対するLow Dose Cisplatin/5-FU・放射線同時併用療法とStandard Dose Cisplatin/5-FU・放射線同時併用療法とのランダム化第Ⅱ/Ⅲ相試験」2009年症例登録終了。
- ・JCOG0502「臨床病期Ⅰ（Clinical-T1N0M0）食道癌に対する食道切除術と化学放射線療法同時併用療法（CDDP+5-FU）のランダム化比較試験」症例登録中。
- 今後の研究課題
 - ・根治的放射線化学療法後のSalvage surgeryの積極的な実施。
 - ・腹臥位胸腔鏡下食道切除術の実施。

上部消化管グループ《胃》

STAFF：肥田圭介・高橋正統

専門外来

木曜
8時30分-16時



今年も固定スタッフ肥田、高橋の2名に、交代メンバーを加えた3名体制で診療を行いました。この体制での診療も2年目を迎え、症例数が下記のごとく年々増加傾向にありますが、手術の定型化、周術期バスの適応、化学療法の標準化などの工夫によりなんとか大きなトラブルもなく過ごすことができました。

次年は①腹腔鏡下手術の適応拡大、②術前術後化学療法による高度進行胃がんに対する集学的治療、③癌性腹水に対する抗癌剤感受性試験を用いた化学療法を当教室での胃がん治療の特色として推進していきたいと考えております。

またJCOGをはじめとする多施設共同研究に積極的に登録し胃がんの標準治療の確立に貢献していきたいと思っておりますので、更なる御紹介をお待ちしております。

平成21年の
ニュース

- 1月 ▶ 日本内視鏡外科学会技術認定試験（胃）合格（肥田）
- 3月 ▶ ASCO GI参加（サンフランシスコ）（肥田）
- 6月 ▶ 国際胃癌学会参加（ポーランド、クラクフ）アウシュビッツ見学（肥田、高橋）
- 12月 ▶ 胃癌切除例 111例、腹腔鏡下手術 49例と年々増加。

平成21年 診療・研究状況報告

- 入院数：231例
- 手術数：134例
《内訳》
胃癌 開腹切除 62例 腹腔鏡下切除 49例
その他（非切除バイパス、GIST等） 23例
- 胃癌手術年次推移
切除数 2007年 94例、2008年 104例、2009年 111例
腹腔鏡下手術数 2007年 33例、2008年 45例、2009年 49例
- 平成21年研究報告
 - ・JCOG 0110「上部進行胃癌に対する胃全摘術における脾合併切除の意義に関するランダム化比較試験」症例登録終了、解析中。
 - ・JCOG 0501「根治切除可能な大型3型・4型胃癌に対する術前TS-1+CDDP併用療法による第Ⅲ相試験」症例登録中。
 - ・JCOG 0705「治療切除不能進行胃癌に対する胃切除術の意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験」症例登録中。
 - ・JCOG0912「臨床病期Ⅰ期胃がんに対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の開腹幽門側胃切除術に対する非劣性を検証するランダム化比較試験」症例登録中。
 - ・JACCRO GC-03「進行・再発胃癌患者を対象としたタキソテル注／ティーエスワンカプセル併用療法とティーエスワンカプセル単独療法の第Ⅲ相試験」症例登録終了、解析中。
 - ・JACCRO GC-04「胃癌術後補助化学療法（S-1）における抗癌剤感受性試験の検証」症例登録中。
 - ・JACCRO GC-05「初回TS-1療法に治療抵抗性を示した進行・再発胃癌に対する二次化学療法－CPT-11単独療法vs TS-1+CPT-11併用化学療法の無作為化比較第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験－」症例登録中。
 - ・日本外科感染症学会多施設共同試験「胃全摘手術における術後感染予防薬の投与期間に関する比較試験」症例登録中。
 - ・JFMC36-0701「進行・再発胃癌に対するTS-1単独療法／TS-1+レンチナン併用療法による第Ⅲ相試験」症例登録中。
 - ・GIST研究会「切除可能な消化管間質腫瘍（GIST）肝転移患者の治療方法に関する第Ⅱ相試験＜手術療法＞」症例登録中。
 - ・「胃癌術後評価を考える」ワーキンググループ「胃切除術式と胃術後障害に関する研究」症例登録中。
 - ・「胃癌幽門側胃切除術後栄養補助療法の検討」症例登録中。
 - ・平成20年度科学研究費補助金「進行胃癌化学療法後切除例における組織マイクロアレイを用いた網羅的蛋白解析」進行中。
 - 今後の研究課題
 - ・進行胃癌術前化学療法（TS-1/CDDP）療法後切除検体を用いた薬物動態の解析
 - ・腹腔鏡補助下胃癌手術の定型化および短期／長期手術成績 など
 - ・S-1/DOC併用療法における効果予測因子の探索的研究
 - ・十二指腸球部可及的温存Billroth-I法再建術の有用性の検討
 - ・癌性腹水に対する抗癌剤感受性試験を用いた化学療法

内分泌グループ《乳腺》

STAFF：柏葉匡寛・稲葉 亨・滝山郁雄(非常勤講師)
武田雄一郎・小松英明・川岸涼子・三浦一穂(乳がん看護認定看護師)

専門外来
火・水曜日
8時30分-17時
(紹介新患13時～)



グループのPR：乳腺チーム計12名（専門常勤医師3名＋研修医、薬剤師4名、看護師5名（乳がん看護認定看護師1名を含む）でパスに沿った標準治療の実践と術前化学療法後、センチネル等の縮小手術の安全な実践を心懸けています。医師だけでなく看護師、薬剤師による親身な患者サポートによりチーム医療を実践、患者さん中心の医療をモットーとしています。セカンドオピニオン、薬物療法の相談、再発治療からの紹介も承っています。幾つもの医師主導型試験だけでなく、ドラッグラグ解消を目指し国際第3相試験にも参入しました。

平成21年の
ニュース

- 1 月 ▶スペイン・セビリアの国際会議に招聘（柏葉）
- 3 月 ▶第6回乳癌学会東北地方会にて発表
▶稲葉先生 第109回日本外科学会総会でシンポジスト
▶St.Gallen 2009に参加（柏葉）
- 4 月 ▶スペイン・マドリッドの会議に招聘（柏葉）
▶柏葉 外来化学療法室長 就任
- 5 月 ▶台湾・台北の会議に招聘（柏葉）
- 7 月 ▶第17回日本乳癌学会総会で過去最多の演題発表
- 9 月 ▶東北大学 大内憲明教授をお迎えし乳癌講演会
- 10月 ▶ASCO-BCにて発表（柏葉）
▶稲葉先生 乳癌学会乳腺専門医試験を受験
▶武田先生 癌研病院に研修へ
▶柏葉 腫瘍センター副センター長 就任
▶第1回岩手ピンクリオンウォーキング開催
- 11月 ▶韓国の乳癌シンポジウムに招聘（柏葉）
- 12月 ▶San Antonio Breast Cancer Symposiumに参加（柏葉）
▶稲葉先生、見事に乳腺専門医合格！
▶武田先生、癌研よりパワーアップして帰任
▶過去最高134例の原発乳癌手術

平成21年 診療・研究状況報告

- 入院数：150例
- 手術数：134例

《内訳》

疾患	術式	症例数
乳癌	乳房部分切除	106例（温存率79.1％）
	うち内視鏡補助下	9例
	胸筋温存乳房切除	28例
計		134例

《年次手術数推移》

	2007年	2008年	2009年
原発乳癌	98件	128件	134件

●平成21年研究報告

《臨床研究》

- ・原発乳癌におけるHER2可溶性抗原の変動 「乳癌の臨床」優秀論文賞受賞
- ・Trastuzumab/taxane先行術前化学療法の有用性とAntracyclineの必要性の検討

- ・術前化学療法後のsentinel node biopsyの適応に関する validation study
- ・術前化学療法後の遺残腫瘍の超音波での効果予測 《医師主導研究と治験》
- ・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）-04「術前化学療法、原発巣手術施行後、病理学的に腫瘍が残存している乳がん患者を対象にした術後補助療法におけるCapecitabine単独療法の検討」第Ⅲ相比較試験
- ・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）-06「閉経後・ホルモン感受性・neo-adjuvant anthracycline 不応性の原発性乳癌に対する術前 Letrozole 療法の第Ⅱ相試験
- ・OOTR（Organization of Oncology and Traslational Research）-N003「手術可能な女性乳がんに対する術前化学療法としての5-フルオロウラシル+エピルビシン +シクロホスファミド（FEC）療法に連続するドセタキセル（T）療法とドセタキセル+カペシタビン（TX）療法のランダム化 比較試験」
- ・「アンスラサイクリンによる術前/術後補助化学療法後の転移・再発乳癌患者を対象としたLY188011（Gemzar）及びバクリタキセルの併用試験（B9E-JE-MB22）」
- ・「転移・再発乳癌患者を対象としたRO4876646（Avastin）とバクリタキセルの併用第Ⅱ相試験」
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「転移・再発乳がんに対するタキ

- サン系薬剤とティーエスワンのランダム化比較試験（SELECT-BC）」
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験（NSAS-BC06）」
- ・前治療なしのHER2陽性転移性乳癌患者におけるPertuzumab +Trastuzumab + DocetaxelとPlacebo + Trastuzumab + Docetaxelの有効性及び安全性を評価する国際第Ⅲ相無作為化二重盲検プラセボ対照比較試験（CLEOPATRA試験）
- ・KRN125第Ⅱ相臨床試験（乳癌の癌化学療法による好中球減少症に対するKRN125の用量設定試験）
- 今後の研究課題
- ・Triple-negative（ER/PgR/HER2陰性）乳癌の抗癌剤感受性予測因子の検討
- ・術前化学療法後、転移巣における乳癌幹細胞の同定
- ・再発予測因子としてのKi67の有用性の検証
- ・Trastuzumab耐性に対するProteomixによる検証
- ・看護師・薬剤師による術後化学療法におけるPatterns of Care研究の指導・支援
- ・癌化学療法専門薬剤師、乳がん看護認定看護師の育成補助

内分泌グループ《甲状腺》

STAFF：小笠原 聡・富澤勇貴

専門外来

水曜
9時-17時



甲状腺グループは、少数(!!)精鋭(?)ではありますが、新たに谷村武宏が加入することにより、戦力アップとなりました。甲状腺の診療では、①リコンビナントTSH製剤が2009年より当院にて使用可能。②今後外来にて¹³¹Iが30mCiまで使用できるためアブレーションも可能。③学会主体に甲状腺ガイドラインの作成中。と新たな展開となってきました。また以前より、術中の反回神経モニタリングやiPTH測定、内視鏡外科グループにて内視鏡下甲状腺手術など特徴ある治療を行っております。さらに、2009年より全国規模で甲状腺未分化癌の登録がはじまり、当科の登録は現在6番目に多い施設であります。これからも未分化癌の研究・治療に力を入れていきたいと考えておりますので、未分化癌疑いの時点でも構いませんのでご連絡いただけると幸いです。

平成21年の
ニュース

- 9月 ▶留学先の研究施設移籍（小笠原）
▶今回は指の骨折（富澤）
- 12月 ▶内分泌・甲状腺外科専門医取得（富澤）
▶甲状腺学会専門医取得（富澤）

平成21年 診療・研究状況報告

- 入院数：54例
- 手術数：67例

《内訳》

疾患	術式	症例数
甲状腺癌	甲状腺（亜）全摘術	13例
	甲状腺片葉切除術	6例
甲状腺良性疾患	甲状腺（亜）全摘術	12例
	甲状腺片葉切除術	9例
副甲状腺疾患	副甲状腺摘出術	7例
その他		20例

《年次手術数推移》

	2007年	2008年	2009年
甲状腺癌	27	33	32
甲状腺良性、その他	11	23	35
計	38	55	67

●平成21年研究報告

《教室内》

- ・「甲状腺未分化癌の白血球増多とサイトカインの検討」

- ・「抗癌剤感受性試験に基づいた甲状腺未分化癌の化学療法」

《全国規模》

- ・甲状腺未分化癌コンソーシアム
「未分化癌症例登録：24例登録」
- ・「リコンビナントTSHを用いたヨードシンチグラフィー」（市販後調査）

●今後の研究課題

- ・「甲状腺癌全摘術後の外来アブレーションの治療成績」
- ・「術中反回神経モニタリングを用いた反回神経温存の治療成績」
- ・「甲状腺超音波エラストグラフィーの有用性の検討」
- ・「PIXEを用いた甲状腺未分化癌EP療法におけるシスプラチンの腫瘍内濃度の検討」
- ・「甲状腺未分化癌におけるG-CSF細胞内シグナル伝達の検討」

内視鏡外科グループ

STAFF：佐々木 章・中嶋 潤・大淵 徹・馬場誠朗

専門外来

水曜
8時30分-12時



英文論文（筆頭者）は、online firstも含め12編（Impact Factor 20点）と前年度に比較して増加し、研究面で充実した1年でした。臨床面では、単孔式腹腔鏡下手術の適応拡大（胃局所切除術、脾臓摘出術、左副腎摘出術、肝嚢胞手術、肝生検）が中心となりました。2010年は、単孔式腹腔鏡下手術の成績と利点を従来の腹腔鏡下手術と比較し、更なる低侵襲手術を目指したいと思います。

平成21年の
ニュース

- 3月 ▶単孔式腹腔鏡下胃局所切除術を実施
- 4月 ▶内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術が高度医療に承認
- 9月 ▶肥満症に対して腹腔鏡下調節性胃バンディング術を開始
- 10月 ▶梅邑先生（福島県立医大卒）が入局
- 11月 ▶単孔式腹腔鏡下脾臓摘出術を実施
- 12月 ▶腹腔鏡下スリーブ状胃切除が7例となり先進医療へ

平成21年 診療・研究状況報告

- 入院数：114例
 - 手術数：105例（盛岡市立病院での手術9例を含む）
- 《内訳》

疾患	術式	症例数
胆嚢良性疾患	腹腔鏡下胆嚢摘出術	49
	単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術	6
	開腹胆嚢摘出術(高度癒着)	1
甲状腺良性疾患	内視鏡下甲状腺亜全摘術	5
	内視鏡下甲状腺葉切除術	8
脾臓疾患	腹腔鏡下脾臓摘出術	9
副腎疾患	腹腔鏡下副腎摘出術(両側1例)	7
肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	4
	腹腔鏡下調節性胃バンディング術	2
食道アカラシア	腹腔鏡下Heller-Dor手術	3
逆流性食道炎	腹腔鏡下Nissen手術	2
胃粘膜下腫瘍	単孔式腹腔鏡下胃局所切除術	3
急性虫垂炎	腹腔鏡下虫垂切除術	2
膵インスリノーマ	腹腔鏡下膵臓・脾動静脈温存尾側断切除術	1
小児自己免疫性肝炎	単孔式腹腔鏡下肝辺縁切除術	1
その他	バイパス手術(胃空腸吻合)	1
	開腹下大網充填術	1
計		105

●平成21年研究報告

《教室内》

- ・Cine-MRIを利用した胃運動の客観的評価：症例集積中
- ・高速インターネットを利用した遠隔医療カンファレンス：評価中
- ・肥満症に対する腹腔鏡下減量手術の効果：現在9例、症例集積中

- ・肥満治療後の血清グレリン・レプチンの動態：現在9例、症例集積中
- ・単孔式腹腔鏡下手術の適応拡大（国内外初報告）：症例集積中

1. Sasaki A, Koeda K, Obuchi T, et al. Tailored laparoscopic resection for suspected gastric gastrointestinal stromal tumors. Surgery 2010 (in press).
 2. Sasaki A, Koeda K, Nakajima J, et al. Single incision laparoscopic gastric resection for submucosal tumors: Report of three cases. Surgery Today 2010 (in press).
 3. Oyama K, Sasaki A, Chiba T, et al. Single incision laparoscopic access (TANKO) splenectomy for idiopathic thrombocytopenic purpura: Report of a case. Surgery Today 2010 (in press).
- 《全国規模》

- ・肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術：先進医療に申請
- ・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術が臨床確認試験（厚生労働科学研究費補助金）：高度医療へ承認
- ・がん医療を専門とする医師の学習プログラム（厚生労働省共同事業）：www.cael.jpをごらん下さい

●今後の研究課題

- ・肥満症患者の内臓脂肪初代培養による脂肪細胞由来ホルモン動態の解析
- ・肥満症患者の遺伝子多型解析（肥満 vs 肥満症）
- ・単孔式腹腔鏡下手術の治療成績と患者のQOL評価
- ・経管腔的内視鏡手術（NOTES）の開発

肝胆膵グループ

STAFF：若林 剛・新田浩幸・高橋正浩・高原武志・伊藤直子

専門外来

木曜
8時30分-12時30分
金曜
8時30分-12時30分
14時-17時



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、内視鏡(腹腔鏡・胸腔鏡)手術、化学療法、生体肝移植など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療はなにかを考え診療にあたっております。

特に、肝疾患に対する内視鏡下手術は本邦で最も症例数の多い施設の一つであり、腹腔鏡下肝切除(部分切除・外側区域切除)が保険収載されたことで今後さらに症例数が増加することが予想されます。我々の腹腔鏡補助下肝切除術は国内初の高度医療として承認されたのち継続して行っており、生体肝移植のドナー手術にも応用されております。

また、胆道癌に対するTS-1/GEMなどを用いた術後補助化学療法や膵癌に対する術前放射線化学療法など、手術成績を向上させるべく取り組んでおります。新患、手術後の患者さんの診察を週に二日間設けて行っており、新患は主に木曜日午前、化学療法は主に金曜日の外来で担当しております。

平成21年の
ニュース

- 3月 ▶当科における腹腔鏡下肝切除（部分切除・外側区域切除）の成績をまとめた論文（Ten-year experience of totally laparoscopic liver resection in a single institution）がBritish Journal of Surgeryに掲載される。
- 6月 ▶第19回東北肝臓外科研究会を開催。
▶生体肝移植症例が15例に到達。
- 11月 ▶腹腔鏡補助下肝切除の手技と成績をまとめた論文（Laparoscopy-assisted major liver resections employing a hanging technique: the original procedure）がAnnals of Surgeryにacceptされる。
- 12月 ▶完全腹腔鏡下肝切除が100例に到達。腹腔鏡補助下肝切除は80例。

平成21年 診療・研究状況報告

- 入院数：215例
- 手術数：157例
- 平成21年の手術症例

《疾患別》

▶悪性：肝細胞癌：31例／転移性肝癌：36例／肝内胆管癌：6例／胆管癌：26例（肝門部9例、肝外17例）／胆嚢癌：5例／乳頭部癌：6例／膵癌（IPMC含む）：16例▶良性：生体肝移植ドナー、肝嚢胞、慢性膵炎など 20例▶その他：脾腫、後腹膜腫瘍など 4例

《術式別》

生体肝移植：5例／肝切除：90例／PpPD：30例／PD：2例／膵体尾部切除：5例／膵全摘：2例／膵部分切除：1例／胆管切除：3例／胆摘+Tドレナージ：1例／慢性膵炎手術：4例／脾摘：2例／後腹膜腫瘍摘出：1例／バイパス（胆管、消化管）：5例／Lap肝嚢胞天蓋切除：1例／リンパ節摘出：1例／非切除：4例

《年次推移》

	2007	2008	2009
肝細胞癌	31	21	36
肝内胆管癌	6	5	6
転移性肝癌	18	24	36
胆管癌	20	18	26
胆嚢癌	1	6	5
乳頭部癌	1	1	6
膵癌	11	18	16
生体肝移植	5	7	5

●平成21年研究報告

《教室内》

- ・「3D-CTによる腹腔鏡補助下ドナー肝切除術の術難易度予測」症例集積中。
- ・「胆道癌術後補助化学療法としてのTS-1+GEM併用第I相試験・feasibility試験」症例集積中。

- ・「生体肝移植術周術期における好中球エラスターゼ阻害剤投与の検討」症例集積中。
- ・「切除可能膵癌に対する術前放射線化学療法の有用性に関する検討」症例集積中。
- 《全国規模》
- ・「初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有用性に関する多施設共同ランダム化並行群間比較試験」
- ・「ゲムシタビン耐性膵癌に対するS-1療法とS-1+オキサリプラチン（L-OHP）併用療法の無作為化比較試験」
- ・「肝外病変を伴う進行肝細胞癌に対するTS-1/INF併用

化学療法の有効性第Ⅱ相ランダム化比較試験」

- ・「肝細胞癌切除例に対する術後感染症予防薬の投与期間に関するランダム化比較試験」

●今後の研究課題

- ・腹腔鏡補助下肝切除術の有用性に関する多施設共同研究
- ・胆道癌術後補助化学療法としてのTS-1+GEM併用第Ⅲ相試験
- ・肝切除シミュレーションソフトを用いた肝再生と肝予備能の評価
- ・開腹肝切除の低侵襲化を目指した手術手技の確立

ヘルニアグループ

STAFF：中嶋 潤・岩谷 岳・板橋哲也・馬場誠朗・他医局スタッフ

専門外来

水曜
8時30分-12時
14時-16時

当院では、局所麻酔下のスタンダード・クーゲル法を基本術式としております。大学病院では様々な併存疾患を有している患者様の手術も多くなっておりますが、局所麻酔によるリスクの減少、早期回復が得られております。また、抗凝固療法・抗血小板療法を施行されている患者様の手術に関しても、休薬せずに手術を施行することで、基礎疾患増悪リスクの低下、早期退院が可能となってきております。また、2003年から日本ヘルニア学会が発足し、会の発展に伴って2008年より「日本ヘルニア学会」へ移行しました。東北地区でも、2008年5月に若林剛教授が発起人となり東北各県の先生方による世話人会を開催し「東北ヘルニア研究会」が発足致し、2009年12月には第2回東北ヘルニア研究会が開催されました。ヘルニアに関する研究やヘルニア治療の発展を目指して頑張っていきたいと思います。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

平成21年の
ニュース

- 4月 ▶「第7回日本ヘルニア学会」出席（川村 英信、岩谷 岳）
▶若林 剛教授がヘルニア学会評議員に選出
- 5月 ▶Standard Kugel法症例500例突破
- 12月 ▶「第2回東北ヘルニア研究会」開催（川村 英信、岩谷 岳、中嶋 潤）

平成21年 診療・研究状況報告

●平成21年診療報告

鼠径・大腿ヘルニア	92例
術式 Standard Kugel法	92例
麻酔 局所麻酔	77例
全身麻酔	15例
術後合併症 血腫4例、感染1、再発0例	
遅発性・慢性疼痛0	
基礎疾患増悪0	

その他

再発性腹壁癭痕ヘルニア、鼠径部腫瘍	2例
ヘルニア術後慢性疼痛 神経切除・プラグ除去	2例

●年次手術数推移（鼠径部ヘルニア）

2007年 90例 2008年 86例 2009年 92例

●今後の研究課題

- ・当院では局所麻酔下のStandard Kugel法を標準術式としておりますが、多数症例の経験から、局麻困難例・Kugel法施行困難例の特徴も明らかになってきております。症例による麻酔法・術式の選択の目安を報告していきたいと思います。
- ・新素材メッシュや他の前方アプローチ手術、TEPP法、若年女性に対するLPEC法など様々な術式を導入していきたいと思います。

下部消化管グループ

STAFF：大塚幸喜・板橋哲也・木村聡元
千葉励子（WOCN；ストーマ外来）

専門外来

月曜
8時30分-15時
＊外来化学療法のみ
金曜AM



1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2009年12月まで739名の患者様に行ってきました。年々増加傾向にあり、2009年は、大腸癌手術件数182例のうち腹腔鏡下手術は115例でした。最近の特徴として、80歳以上の超高齢者に対する腹腔鏡手術の割合が増加しており、安全で良好な成績を報告しております。また肛門に近い直腸癌に対しては自然肛門を可能な限り温存し、さらに根治性を高めるために術前化学・放射線治療を行っております。人工肛門になった場合でも、当院の千葉励子WOCナースが外来でストーマ教育を行っており、精神面からもフォローさせていただいております。再発や切除不能大腸癌に対しては全国標準化学療法を月曜日と金曜日の専門外来で板橋哲也助手を中心に行っております。

その他、岩手県内各施設から潰瘍性大腸炎やCrohn病などの炎症性腸疾患症例のご紹介が多くなってきており、患者様のQOLを重視した腹腔鏡下手術を積極的行っております。

術後の定期検査は開業医の先生と連携し、全ての患者様に対し責任を持って行っております。

平成21年の
ニュース

- 1 月 ▶大腸癌手術総数180例以上、腹腔鏡下大腸癌手術数130例以上を目標に2009年スタート。
- 3 月 ▶第25回岩手ストーマ研究会開催。埼玉大学国際医療センター下部消化管外科教授の山口茂樹先生を講師に招聘し盛会に終了。
- 4 月 ▶板橋哲也先生が日本内視鏡外科学会技術認定医取得。おめでとう。
- 10月 ▶第5回北東北LAC情報交換会を開催。順天堂浦安病院教授の福永正氣先生ご講演に感銘。秋田県、青森県からもたくさんの医師、看護師、臨床工学士に参加していただき盛会に終了。
- 11月 ▶木村聡元先生に第二子（次男）誕生。おめでとう。
- 12月 ▶大腸癌に対する手術総数は目標の180例を突破。しかし腹腔鏡手術は目標の130例には達せず。

平成21年 診療・研究状況報告

- 入院数：373例
 - 手術数（全麻）：252例 ＊そのうち大腸癌手術は182例
- 《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌（101例）	開腹結腸切除術	30例
	腹腔鏡下結腸切除術	71例
直腸癌（81例）	開腹高位前方切除	7例
	腹腔鏡下高位前方切除	4例
	開腹低位前方切除	7例
	腹腔鏡下低位前方切除	24例
	開腹超低位吻合	1例
	腹腔鏡下超低位吻合	3例
	開腹マイルス手術	7例
	腹腔鏡下マイルス手術	9例

	開腹ハルトマン手術	8例
	腹腔鏡下ハルトマン手術	7例
	開腹骨盤内臓全摘	1例
	経肛門的腫瘍切除	6例
非切除大腸癌	腹腔鏡下人工肛門造設	4例
小腸癌	腹腔鏡下小腸切除	1例
回腸悪性リンパ腫	開腹回盲部切除	1例
直腸カルチノイド	腹腔鏡下低位前方切除	2例
大腸腺腫	腹腔鏡下手術	10例
	経肛門的腫瘍切除	1例
Crohn病	腹腔鏡下手術	7例
	開腹手術	3例
潰瘍性大腸炎	腹腔鏡下大腸全摘	3例
	開腹大腸全摘	2例

大腸癌再発	腫瘍切除	4例
直腸癌術後	一時的回腸人工肛門閉鎖	13例
イレウス	開腹イレウス解除	1例
	腹腔鏡下イレウス解除	1例
他（憩室炎・腹膜炎）		6例
＊他科応援手術	（婦人科・泌尿器科）	11例

《大腸癌の年次手術数推移》

	2007年	2008年	2009年
結腸癌全手術数	92	92	101
直腸癌全手術数	64	65	81
計	156	157	182

●平成21年研究報告

《教室内》

- ・「組織学的ステージⅢa、Ⅲb大腸癌症例に対する術後補助療法としてのUFT/LV療法とUFT/LV+PSK療法の無作為化第Ⅲ相比較臨床試験」ICOG-CC01；岩手医科大学関連施設との共同臨床試験：症例集積中。
- ・「結腸・直腸癌肝転移に対するペバシズマブ併用FOLFOX療法による肝切除の検討－第Ⅱ相臨床試験－」ICOG CRC ML-001；岩手医科大学関連施設との共同臨床試験：症例集積中。

《全国規模》

▶JCOG

- ・0404試験「進行大腸がんに対する腹腔鏡下手術と開腹手術の根治性に関するランダム化比較試験」：症例集積終了

▶腹腔鏡下大腸切除研究会

- ・「Clinical Stage 0-I期直腸癌に対する腹腔鏡下手術の妥当性に関する第Ⅱ相試験」Lap-RC：症例集積中
- ・「高齢者における腹腔鏡下大腸切除術の有効性と安全性に関する後ろ向き調査」：症例解析中
- ・StageⅣ大腸癌に対する腹腔鏡下手術の意義」：症例解析中

●今後の研究課題

▶臨床面

- ・大腸癌手術総数180例
- ・腹腔鏡下大腸癌手術130例

▶研究面

- ・ICOG CCとICOG CRC LMの登録数の拡大
- ・全国他施設共同研究への積極的参加
- ・大学院生に対する学位指導（藤井大和、八重樫端典）

▶教育面

- ・内視鏡外科学会技術認定医の育成。
- ・腹腔鏡下大腸手術の県内外への啓蒙と技術指導

小児外科グループ

STAFF：水野 大・福澤太一

専門外来

火曜・金曜
10時-12時



一般小児外科外来：昨年までは原則として火曜日10時から12時のみでしたが、外来患者様の増加に対応し、2010年4月からは、火曜日と金曜日の10時から12時を一般小児外科外来診察時間としました。また、引き続き他の曜日・時間も可能な限り対応しておりますのでお気軽にお問い合わせ下さい。紹介の有無を問わず新患者様の診察・検査、術後患者様のフォローアップをさせていただきます。

小児ストーマ・スキンケア外来：第4火曜日14時から17時。WOCナースと協力し、人工肛門を有する患者様や、直腸肛門奇形術後、神経因性排便障害等の患者様にスキンケア、排便コントロール等の指導をしております。

また、2009年からは原則として30分刻みの予約時間設定とし、患者様の待ち時間短縮を図っております。

平成21年の
ニュース

- 1 月 ▶ 単孔式腹腔鏡補助下（SILAS）虫垂切除術を標準術式に採用
- 4 月 ▶ 2007年に東北大学より専門医取得目的に赴任していた福澤太一医師の研修が更に一年延長することが決定
- 8 月 ▶ 腹腔鏡下外鼠径ヘルニア根治術（LPEC）開始
- 10月 ▶ 単孔式腹腔鏡下Nissen噴門形成術施行
- 11月 ▶ 福澤太一医師、日本小児外科学会専門医筆記試験に合格

平成21年 診療・研究状況報告

- 入院数：225例
- 手術数：224例（全麻）
《内訳（重複あり）》
▶ 新生児（横隔膜ヘルニア／腹壁異常／食道閉鎖／腸閉鎖など）31例 ▶ 悪性腫瘍（神経芽腫／腎芽腫／肝芽腫／奇形腫など）14例（含む生検） ▶ 上部消化管（胃食道逆流症／胃軸捻転／幽門狭窄症など）19例 ▶ 下部消化管（イレウス／Hirschsprung病／直腸肛門奇形など）27例 ▶ 肝胆膵脾（胆道閉鎖／胆道拡張症／遺伝性球状赤血球症など）12例 ▶ 急性虫垂炎19例 ▶ 単径ヘルニア（停留精巣含む）48例 ▶ 泌尿器系（水腎症／膀胱尿管逆流症など）6例 ▶ 呼吸器系（気管切開／気胸／肺分画症など）14例
- 過去3年間の手術数
平成19年：239件／平成20年：252件／平成21年：224件
- 平成21年研究報告
《教室内》
・胃瘻を利用した新たな低侵襲胃噴門形成術の開発 動物実験継続中
《全国規模》
・JNBSG 日本神経芽腫芽腫研究グループ 高リスク神経芽腫臨床試験
・JPLT2 日本小児肝臓スタディグループ
・JWiTS2 日本ウィルムス腫瘍スタディグループ

高度救命救急センター

STAFF：小鹿雅博・星川浩一・外科学講座から3ヶ月応援1名です。
（救急医学講座外科研修医2名、臨床研修医）

専門外来

24時間体制



三次外来紹介：24時間、年中無休。年間約6000件の救急搬送患者を収容しております。高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間どのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話（019-651-5111）から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

平成21年の
ニュース

- 10月 ▶ 青木毅一先生（2009/10より北上済生会病院）
▶ 遠藤史隆先生（～2009/12まで）
- 1 月 ▶ 藤井大和先生（～2010/3まで）

平成21年 診療・研究状況報告

- 入院数：232例
- 手術数：112例（全身麻酔）
内因性疾患（手術数）
食道破裂2例（2例）
胃十二指腸潰瘍穿孔15例（8例）
小腸イレウス20例（3例）
急性胆嚢炎22例（20例）
虫垂炎89例（37例）
大腸癌イレウス10例（5例）
大腸穿孔11例（11例）
急性虚血性腸疾患8例（8例）
嵌頓ヘルニア8例（8例）
フルニエ症候群1例（1例）
外傷（手術数）
胸部外傷11例（1例）
横隔膜破裂1例（1例）
腸間膜・腸管損傷8例（4例）
肝損傷17例（0例）
脾損傷6例（0例）
その他（異物等）3例（3例）
他科依頼の気切・PEGなど32例
- 平成21年研究報告
《教室内》
・人工臓臓を用いた多臓器不全に対する血糖管理
- ・抗生剤による生体反応修飾の研究
- ・重症病態下の副腎皮質機能とステロイド補充療法の研究
- ・敗血症病態下における経腸栄養の検討
- ・外傷患者における凝固因子、輸血因子検討
- ・エンドトキシン遊離作用抗菌薬のサイトカイン産生能検討
- ・ALI/ARDSによる新規メディエーター検討
- 今後の研究課題
・敗血症における多臓器不全の対策。特に人工臓臓（血液浄化法、人工臓臓）を用いた支持療法の有用性に関する検討
- ・腹腔内大量出血時の新鮮凍結血漿輸血と凝固因子に関する検討
- ・侵襲、敗血症に対する生体反応の究明。とくにサイトカインと各種細胞膜上レセプター発現の変動と臓器障害について。
- ・多臓器不全、重症敗血症における超微量元素の変動について。
- ・血糖値、インシュリンが生体反応に及ぼす影響。
- ・ショック時、多臓器不全時の酸素需給動態モニタリングの開発。

リサーチグループ《分子治療研究室》

STAFF：西塚 哲・岩谷 岳・石田和茂・松尾鉄平・池田みゆき・早島 慈

専門外来

見学受付日：毎日
抗癌剤感受性試験
受付日：毎日



床磨き、部屋の改造から始まったリサーチグループも発足3年目を迎えます。基礎研究部門では、「抗癌剤によって誘導される分子反応を定量的に捉える」ことをテーマに、独自に開発したライセートアレイ技術で「なぜ薬が効くのか」に迫ります。臨床研究部門では、抗癌剤感受性試験を中心に、臨床検体から得られる分子レベルの情報を基にした新しい診断・治療法の開発を目指しています。西塚・石田・松尾の「常勤医」に加え、大学院1,2年生および臨床グループからも研究を継続的に行うメンバーが参画して来たことは大きな変化です(写真参照)。4月からは医学部4年生の研究室配属も始まり、今にもまして活気がでることでしょう。

平成21年の
ニュース

- 1 月 ▶西塚、米国臨床腫瘍学会GI会議（米サンフランシスコ）でトランスレーショナルリサーチの現況を視察。若林教授と共にサンディエゴの小笠原を訪問。
- 2 月 ▶西塚、制癌剤適応研究会（東京）に分子治療研究室として初の参加。
- 3 月 ▶第5回Research in Oncologyセミナー（国立がんセンター、近藤格先生）。野田宏伸、送別会。
- 4 月 ▶松尾、研究室参加。西塚、米国癌学会（米デンバー）にて発表。フロリダの高橋正浩を訪問。
- 6 月 ▶野田宏伸、学位取得「シスプラチン抵抗性胃癌細胞集団の単離とその性質の検討」、分子治療研究室学位第1号。
- 7 月 ▶第6回Research in Oncologyセミナー（神戸大、杉本真樹先生）。
- 9 月 ▶野田、International Surgical Week（豪アデレード）で発表。
- 10月 ▶石田が日本癌学会（横浜）のInternational Session（演者指定講演）で発表。西塚、日本癌治療学会（横浜）で最優秀演題賞を受賞。
- 11月 ▶松尾、学位中間発表。

平成21年 診療・研究状況報告

抗癌剤感受性試験 22件（他科・診断不能症例も含む）
胃14件、食道3件、頭頸部3件、小腸1件、骨軟部組織1件
《年次感受性試験数推移（2008年5月より開始）》

	2007年	2008年	2009年
全ての癌	0	12	22
計	0	12	22

●平成21年研究報告

《教室内》

- ・ライセートアレイを用いた抗癌剤反応性蛋白kineticsの解析
- ・大腸癌cetuximab感受性予測のための細胞内シグナル伝達解析
- ・初代培養細胞を用いた次世代感受性試験
- ・細胞株パネルを用いた承認済み抗癌剤スペクトラム検索
- ・膀胱癌細胞株を用いた膀胱癌に対する多剤併用効果の推定

- ・組織マイクロアレイ免疫染色による胃癌術前化学療法効果判定
- ・PIXE法による食道癌への白金の取り込みと効果判定
- ・各種抗癌剤耐性細胞集団の単離と分子生物学的プロファイル
- ・癌性腹膜炎腹水中細胞の抗癌剤反応性蛋白定量による感受性判定

●今後の研究課題

これからの腫瘍外科領域に於いて、標準治療のみならず抗癌剤をどう使うかは最重要課題である。この課題に対し、①抗癌剤反応分子の定量と理論生物学に基づいた関連シグナル伝達経路の理解、および②分子標的薬およびリガンド存在下での初代培養細胞における標的分子（群）の変動モニタリング、を軸とした研究を行う。癌性腹膜炎症例に対しては、症例を集積し抗癌剤感受性予測に有用な分子マーカーを単離することを目標とする。

岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

STAFF：小川雅彰・米澤仁志



花巻厚生病院が県立中部病院として統合移転したことにより、2009年度の当院は、地域の拠点病院としての性格を強めております。手術件数は、昨年度の全麻症例121例から今年度156例と増加しております。手術症例の内訳は多岐に亘っております。主に外来で施行した化学療法件数は、252件でした。当院手術室の鏡視下手術システムを更新していただきましたので、来年度は鏡視下手術のパーセンテージを更に高める努力を続けたいと思っております。

平成21年の
ニュース

- 7 月 ▶院外より講師を招いて在宅緩和ケアの講演会
- 8 月 ▶米澤医師～自身の全麻初経験
- 9 月 ▶当院初のSILS（章先生執刀）

平成21年 診療・研究状況報告

- 入院数：206例
- 手術数：180例

《内訳》

病名	術式	手術数
胃癌	幽門側胃切除	12
	全摘	6
	LADG	3
	試験開腹 他	3
胃GIST	鏡視下部分切除	1
胃穿孔	鏡視下縫合	1
	開腹縫合	1
大腸癌	結腸切除（開腹）	12
	結腸切除（鏡視下）	6
	ストマ・バイパス	4
大腸穿孔・狭窄	結腸切除	5
直腸癌	直腸切除（開腹）	3
	直腸切除（鏡視下）	2
	ストマ	2
胆石症	胆摘（開腹）	1
	胆摘（鏡視下）	10
	胆摘（SILS）	2
胆嚢腫瘍	肝床切除	1
胆管癌	PPPD	1
	肝左葉切除	1
膵癌	PPPD	1
	試験開腹	1
転移性肝癌	部分切除	1
甲状腺癌	切除	2

鼠径ヘルニア	Kugel（+direct Kugel）	34
	Mesh-Plug	5
	鏡視下	1
腹壁癒痕ヘルニア	根治術	1
イレウス	開腹	4
	鏡視下	1
小腸壊死・穿孔	小腸切除	2
腸間膜デスマイオド	バイパス	1
急性虫垂炎	虫垂切除（開腹）	1
	虫垂切除（鏡視下）	10
その他全麻		14
全麻合計		156

CVポート埋込		11
その他局麻		13
局麻合計		24

全手術合計		180
-------	--	-----

内視鏡		
緊急手術		21

《手術件数（年度別）》

年	全麻	腰麻	局麻	計
2005	48	18	34	100
2006	62	17	39	118
2007	78	15	33	126
2008	121	4	32	157
2009	156	0	24	180

◆ 入院患者分類

疾 患		例 数
顔面・頸部		5
甲状腺・上皮小体	良性	25
	悪性	22
乳 腺	良性	1
	悪性	208
食 道	良性	4
	悪性	124
胃・十二指腸	良性	4
	悪性	223
大腸・肛門	良性	32
	悪性	309
肝・胆・膵・脾	良性	93
	悪性	195
イレウス		15
虫垂炎		22
ヘルニア・腹壁・腹膜		98
副 腎		7
その他		28
入院者合計		1,415

◆ 手術件数

	件 数
全麻数	1,047
腰麻数	4
局麻数	125
全手術数	1,176

◆ 関連病院手術件数

施 設	全手術数	全麻数	腰麻数	局麻数	内視鏡	緊 急	入院数
函 館 五 稜 郭 病 院	1,311	949	130	147	426	82	1,663
県 立 大 船 渡 病 院	795	501	75	215	108	168	991
盛 岡 赤 十 字 病 院	685	597	1	87	192	114	741
八 戸 赤 十 字 病 院	548	444	5	99	139	49	761
県 立 釜 石 病 院	532	333	84	115	73	23	827
県 立 宮 古 病 院	472	391	15	66	104	118	835
盛 岡 友 愛 病 院	472	417	3	49	52	22	753
県 立 久 慈 病 院	467	294	52	121	75	62	697
県 立 二 戸 病 院	403	247	52	104	61	60	625
盛 岡 市 立 病 院	370	305	17	48	116	22	617
山本組合総合病院	332	245	39	48	76	53	623
県 立 江 刺 病 院	292	61	37	194	7	11	308
鹿角組合総合病院	272	166	34	72	43	28	471
県 立 千 厩 病 院	257	143	59	55	43	31	617
花 巻 温 泉 病 院	180	157	0	22	41	20	206
北 上 済 生 会 病 院	164	88	48	28	10	21	378
県 立 軽 米 病 院	109	19	12	78	4	3	127
県 立 一 戸 病 院	19	3	11	5	35	0	90
県 立 沼 宮 内 病 院	6	0	2	4	0	0	41

◆ 外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名		指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2010. 12	指定	岩手県立釜石病院	～ 2010. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2010. 12	指定	岩手県立千厩病院	～ 2010. 12
指定	八戸赤十字病院	～ 2010. 12	指定	北上済生会病院	～ 2010. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2010. 12	関連	盛岡市立病院	～ 2010. 12
指定	岩手県立大船渡病院	～ 2010. 12	関連	岩手県立軽米病院	～ 2010. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2010. 12	関連	山本組合総合病院	～ 2010. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2010. 12	関連	鹿角組合総合病院	～ 2010. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2010. 12			

◆ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設

指定関連区分	施設名		指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2010. 12	指定	岩手県立久慈病院	～ 2010. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2010. 12	指定	岩手県立釜石病院	～ 2010. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2010. 12	指定	岩手県立宮古病院	～ 2010. 12
指定	岩手県立大船渡病院	～ 2010. 12			

外科学講座

藤井 大和

出身大学：自治医科大学

大学卒業年：平成14年

出身地：花巻

趣味：車 バイク 子育て

座右の銘：切磋琢磨

岩手医科大学外科に入った理由：

田舎でも十分な医療レベルの維持ができるような勉強がしたかったことと、今後幅広い領域での指導を後輩達にできるようにという思いがあります。

憧れる先輩、競い合える仲間、一生懸命な後輩、そして素

晴らしい指導者がこの大学の魅力だと思います。

これからの意気込み：

3年後、5年後、自分はどのようにしているか、そして10年後は…と常に考えながら、その方向性をしっかり持てるようにしたいです。地域に溶け込んで、誰からも慕われる、誰よりも患者さんの傍にいる医者でありたいと思っています。そして一番最初に医者になりたい、と思った時の気持ちをずっと大切にしていきたいです。



外科学講座

片桐 弘勝

出身大学：北海道大学

大学卒業年：平成16年

出身地：北海道 帯広市

趣味：アイスホッケー、ゴルフ（強く趣味にしたい）、経済学

座右の銘：優しさは想像力

岩手医科大学外科に入った理由：

北海道札幌市で勤務時、水野助教授からある日突然、教室報と見学のお誘いの資料が届きました。自分が指導医をした後輩が有末君と友達で、この縁から見学に来ることに。見学前に初めて当外科の活動内容を調べ知り、教授はじめ医局員の皆様の活動的な様子を知りました。腹腔鏡手術の勉強をし

たいと強く思っていた部分があり見学を決め、見学当日に教授はじめスタッフの皆さんから勧誘していただいたことに感激し、入局を決めました。

これからの意気込み：

研究グループやスタッフの討論内容に、研究の重要性を感じています。外科医にふさわしい研究の精神と実践を獲得したいです。1年の在籍で、腹腔鏡手術の魅力を感じています。臓器への理解を深め、手術手技や知識など未熟な部分も更に高めたいです。自分のような外様者の参入で、将来『プラスになった』と、互いの利益になるよう精進したいと思います。まだ見知らない先生方も多いかと思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。



外科学講座

西成 悠

出身大学：岩手医科大学

大学卒業年：平成19年

出身地：秋田県

趣味：運動一般

座右の銘：悪木盗泉

岩手医科大学外科に入った理由：

研修医時代に様々な科を研修し、外科的手技・診療が好きであることを再認識しました。その後全身管理等を含め診療可能な外科を選択しました。岩手医科大学を選択した理

由は、母校であることはもちろん、他科にも同級生がいてコミュニケーションが取りやすいという点、また岩手県全体、また東北の医療事情の力になればという思いからです。

これからの意気込み：

研修を修了し、一年間釜石病院で勉強させていただきましたが、まだまだ知識的にも技術的にも不十分なことばかりですが、医局員の一人として力になればよいと思っていますので、これからも宜しくお願いいたします。



外科学講座

梅邑 晃

出身大学：福島県立医科大学 医学部

大学卒業年：2005年（平成17年）

出身地：福島県 郡山市

趣味：サッカー

座右の銘：継続は力なり

岩手医科大学外科に入った理由：

私は、初期臨床研修制度の第2世代であり、当初は当時の流れに乗り、市中病院での研修を行いました。実際に、研修では内科、外科に限らず、どこでも手技や治療を経験でき、臨床医として経験することは沢山出来たと考えています。しかし、市中病院では学術的な臨床及び基礎の研究とそれを患者さんに還元するという点において限界を感じるようになりました。昨年の春に手術見学をさせて頂いて、手術に限ら

ず、学術的な面でも岩手医科大学外科学講座に魅力を感じるようになりました。佐々木章先生に何度か相談させて頂きまして、昨年秋からお世話になっております。

これからの意気込み：

この度、昨年10月より岩手医科大学外科学講座でお世話になっております梅邑と申します。私のような若輩者を、岩手医科大学外科学講座の一員として温かく迎えて頂きました若林教授をはじめ、諸先輩方に報いるような医療と研究に精進していく所存であります。今後とも、御迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、御指導賜れば幸甚ですので宜しくお願い申し上げます。



外科学講座

遠藤 史隆

出身大学：岩手医科大学

大学卒業年：平成18年

出身地：宮城県仙台市

趣味：スポーツ全般（とくにバドミントンと野球）

座右の銘：運命とは自分で創るものである！

岩手医科大学外科に入った理由：

元々、消化器に一番興味があったことと、学生時代から一外科の先生達に憧れていたことが大きいと思います。外科は、手術はもちろんですが、術前術後の全身管理も大切であり、さらに救急医療、化学療法、緩和医療など、幅広い知識と能力が必要とされる科です。そのようなところにも、やり

がいを感じて入局を決めました。学生時代に、大塚幸喜先生に『遠藤、外科が一番かっこいいんだぞ！』と言われたことは忘れられません。

これからの意気込み：

4月から医師5年目となりますが、外科医としては、3年目のひよっこです。これから、どんな技術・知識をつけていかなくてははいけません。若林剛教授がおっしゃっているように、『自分に限界を作らない』ようにして、邁進していきたいと思っています。

夢は大きく！『研究マインドをもち、技術・知識に長けた、ハートフルな外科医』を目標に頑張っていこうと思っています。



外科学講座

秋山 聖華

出身大学：岩手医科大学

大学卒業年：2009年

出身地：山梨県

趣味：散歩

岩手医科大学外科に入った理由：

常に「患者様の目線に立つ医療」を目指し、誠実で専門性の高い医療を行っている素晴らしい先生方のもと、診療・教

育・研究の体制が整った環境下で外科医としての知識や技術を学びたいと思ったからです。

これからの意気込み：

医者としても外科医としても未熟者なのですが、患者様だけでなく患者様の周りの方まで笑顔になれる医療を心掛けて行きたいと思っています。



外科学講座

小林 めぐみ

出身大学：岩手医科大学

大学卒業年：平成19年

出身地：岩手県 矢巾町

趣味：半身浴 料理

座右の銘：辛いという字はもうすぐ幸せになれるような字である

岩手医科大学外科に入った理由：

当時、小児外科医は水野先生一人であり、その中で外科だけでなく小児科・産婦人科・呼吸器外科・循環器外科・麻酔科など様々な科とつながりを持ち、小児医療に従事する姿とその環境に感動した。慎重でありながら時にアグレッシブな手術にも惹かれた。定型的でない手術が時折ありそれに対し

てあらゆる角度から検討し挑むこと、簡単ながら合併症なしを求められる手術があることなどから医師として一生続けたい仕事と思った。

これからの意気込み：

まずは病院業務に慣れ、様々なスタッフと協力しあえる環境を作りたい。日々の仕事を謙虚に妥協することなく行いながら、最終的にはコンサルトしやすい小児外科となり岩手で治療を望む小児患児を最良の形で治療できるネットワークを作りたい。そのために研究・発表・学会参加など常に外から情報を取り入れることを続けていきたい。一方で外科女性医師として結婚・出産を経験し、その中で後輩女性医師のための環境を考えていきたい。



外科学講座

八重樫 瑞典

出身大学：岩手医科大学

大学卒業年：平成20年度

出身地：岩手

趣味：野球等球技、映画

座右の銘：無形の力に限りなし

岩手医科大学外科に入った理由：

医学部に入学したときから外科系に興味がありました。当初は整形外科や脳外科の興味を強く持っていましたが、学年があがり各病院を見学、またポリクリ等で現場を見ていく

ちに外科に入りたいと思うようになりました。

これからの意気込み：

現在研修医として久慈病院で研修をしていますが、各科を回り外科に活かせる知識・技術が得られる機会を逃さないようにしたい、また研修後外科医として歩んでいくわけで、できることを一つ一つ積み重ねていけるように励んでいきたいと思っています。



外科学講座

眞壁 健二

出身大学：岩手医科大学

大学卒業年：2009年3月

出身地：宮城県

趣味：格闘技

座右の銘：攻めは最大の防御

岩手医科大学外科に入った理由：

岩手医大に入学し、臨床実習で外科のクールをまわった際、若林教授をはじめとする肝胆膵グループにて2週間お世話になりました。常に新しい技術や研究に全力で取り組みながら、学生にも教室員の方々が熱く指導してくれる外科学教室の体制に非常に感銘しました。そのような先輩方と一緒に

仕事をしたいと考え外科学教室への入局を決意しました。

これからの意気込み：

現在は、岩手県久慈病院で初期研修をさせて頂いています。医師として約1年が経過しましたが、覚えるべきことはまだ山のようにあります（一生勉強ですが・・・）。また、大学院にも入学していますが、研究に関してもこれからという状態です。研修医として様々な診療科をまわり、人として、医師としての姿勢は多少わかってきたような気がします。そこに外科医としての知識、技量を身につけ一日も早く先輩方と一緒に仕事をしたいと考えています。



外科学講座

渡辺 陽太郎

出身大学：岩手医科大学

大学卒業年：平成21年度卒

出身地：盛岡市

趣味：DJ

座右の銘：一発逆転

岩手医科大学外科に入った理由：

大学に入った頃から、医師になったら外科医になりたいと漠然と考えていました。岩手医大外科には、各分野にわたり専門の指導医が存在し、症例数も多く、特に腹腔鏡手術に特

化していることが魅力的な医局であると学生時代に感じました。その後は迷わず卒業後外科に入局を決めました。

これからの意気込み：

今は、臨床研修医として岩手医科大学にて研修中です。外科での研修も経験しましたが、想像通り仕事に追われる毎日でした。その中でも、やさしい先輩方とともに一步一步進めていけたらと思っています。



今年度（H21年度）の新教室員として10名を紹介しましたが、全員がfreshmanというわけではありません。様々な研修プログラムを経て、今年度から新しく岩手医科大学外科教室の仲間に加わった精鋭達も紹介しております。同門の先生方には是非顔を覚えていただき、研修に訪れた際はかわいがってあげてください。

平成21年巖刀会集談会報告

大塚 幸喜

2009年6月6日（土）15時30分から岩手医科大学医学部臨床講堂において、同門会学術集談会が行われました。2008年は胃癌について当教室の肥田圭介講師の企画で、関連施設からのデータを解析し、治療成績や治療方針などについて活発に討論されました。2009年は大腸癌がテーマとなりましたが、大腸癌のなかでも結腸癌については手術内容や治療成績において施設間には大きな差がないこと事から、今回は「直腸癌」にテーマを絞って、関連施設での治療方針や成績について事前にアンケート調査をさせていただき、その解析結果を学術集談会で発表いたしましたので、その報告をいたします。

また一般演題には8題もの演題をいただき、日頃の各施設での大腸癌に対する治療の工夫や手技の実際、そして成績についてご発表いただきました（図14）。

学術集談会の当日は、各関連病院の先生方はじめ、多くの同門の先生方にお集まりいただき、大変活発なご討議いただきましたことに心から感謝申し上げます。

1) 集積期間（図1）

今回、1999年から2008年の過去10年の調査をお願いしたところ、表のようにほとんどの施設で10年分のデータ集積が可能となっておりました。このことから、各施設でのカルテ管理やデータ保存が厳密にされていることがわかりました。しかし、一方で本学術集談会のために大変な労力を使われたという先生方のお話をききますと、もっと効率の良いデータ保存を考案する必要があることも事実と考えました。

2) 直腸癌切除症例数（図2）

年次推移は記載しておりませんが、疫学的観点から考えてもほとんどの施設で手術件数は増加しておりました。特に伸び率の著しい施設は大学病院で、2002年頃から急激に右肩上がりとなっております。まさに腹腔鏡手術手技において進行大腸癌まで適応を拡大した時期と一致しておりました。

3) 直腸癌に対する腹腔鏡手術症例数（図3）

直腸癌に対する腹腔鏡手術の安全性や根治性に関する国内でのエビデンスはなく、大腸癌ガイドライン上でも「開腹手術とは異なる手術技術の習得と局所解剖の離開が不可欠であり、手術チームの習熟度に応じた適応基準を

個々に決定すべきであり、結腸癌およびRS癌に対するD2以下の腸切除に適しており、cStage 0～Ⅰが良い適応である」と記載されている。つまり本邦においては未だ大腸癌に対するLACは標準手術にはなっておらず、ましてや直腸癌に対しては、現在国内の腹腔鏡下大腸切除研究会でcSatge0/Ⅰに対する第Ⅱ相試験（Lap-RC）が行われている状況であります。岩手医科大学もその試験に参加しております。以上の理由からグラフの結果は当然であり、直腸癌に対する腹腔鏡手術は慎重に行うべきであります。

4) 患者背景（年齢・性別）（図4）

本学術集談会で最も会場を賑わせたスライドでした。施設間に差が出ることはだいたい予想はしておりましたが、同じ岩手県内の比較でまさかこんなに差が出るとは予想外でした。表のように、平均年齢、最高年齢ともに県立千厩病院が圧倒的に高く2冠でした。このように国内でも岩手県は特に高齢化地域であり、今後「高齢者に対する外科治療」をテーマにした論文や学会報告を期待したいと思います。

5) ステージ（図5）

施設毎に大きな差はありませんでした。どの施設も

pStageⅣに対しても積極的に手術が行われており、原発部位切除＋転移巣切除 or 化学療法という施設がほとんどのようでした。

6) 術式（図6・7）

近年の直腸癌手術で最も大きな術式の変革は、「腹腔鏡手術」、そしてもう一つは「肛門温存手術」であります。「腹腔鏡手術」に関しては、結腸癌に対しては現在ほとんどの施設で行われている状況ですが、直腸癌に対しては限られた施設でしか行われていないようです。今後も引き続き大学から積極的に手術応援を行ってまいりますのでよろしくお願いいたします。「肛門温存手術」に関しては、肛門温存率40%～87%と施設間に大きな差が認められました。本学術集談会の目的である「癌医療の均てん化」について、今後最も考えるべき内容でありました。また現県立釜石病院院長の遠藤秀彦先生が積極的に行ってこられたTEMが数施設で行われておりました。現在大学病院でも遠藤先生に直接ご指導いただいている状況であります。

7) 5年生存率（図8・9）

最も施設間差がみられたスライドです。本学術集談会当日に各関連施設の先生方からの報告内容から判断すると、統計学的解析法の違いというよりは患者の追跡が不完全な状

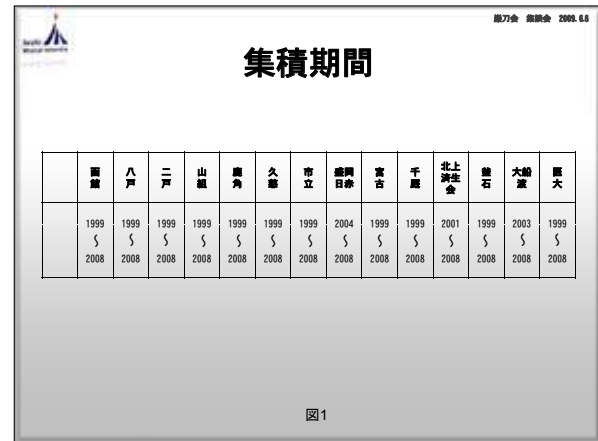


図1

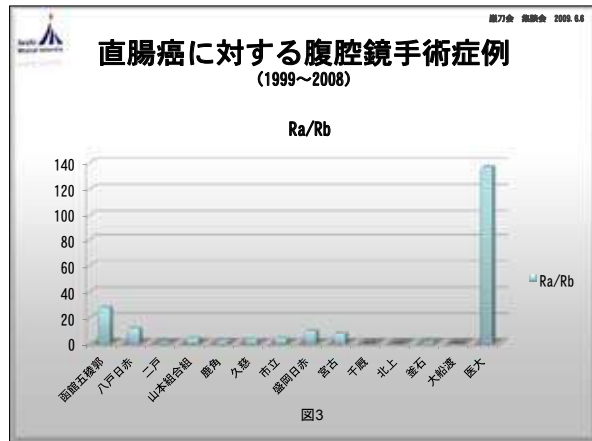


図3

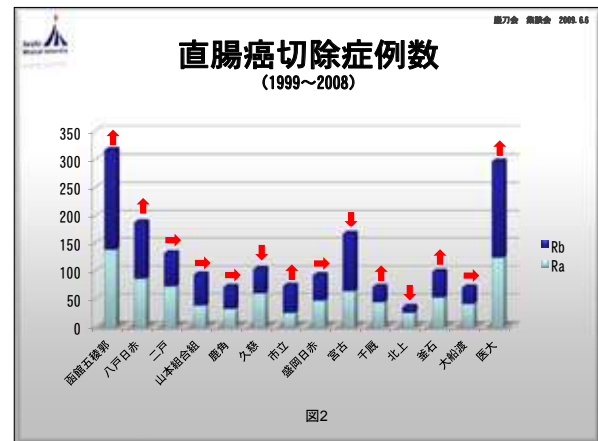


図2



図4

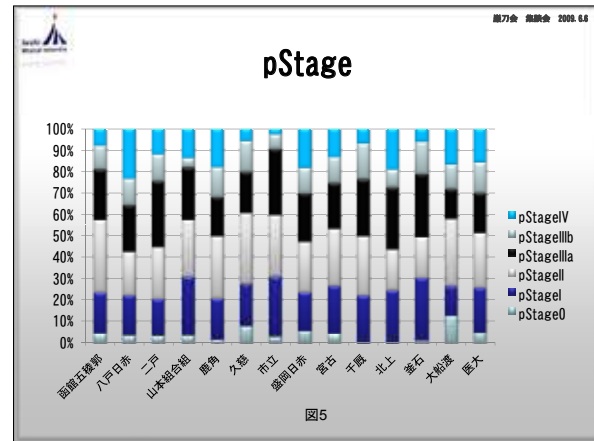


図5

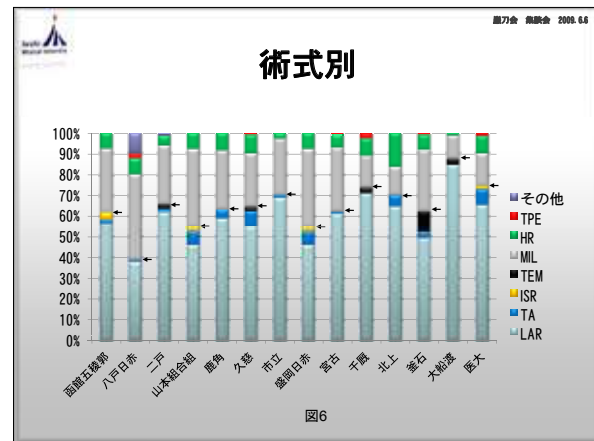


図6



図7

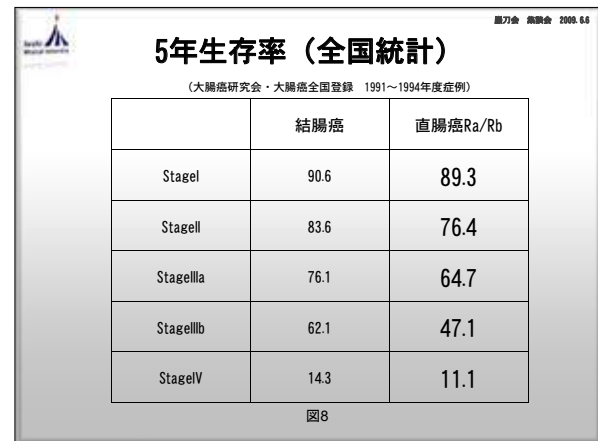


図8

態だったことが原因と判断いたします。今後、症例追跡の徹底化ばかりではなく、岩手医科大学関連施設の全大腸癌の治療成績を共有し、先生方の学会発表や論文等に役立てていただくことを目的に、大学が現在使用している大腸癌データベースを関連施設の先生方にも使用していただくことを予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

8）再発部位（図10・11）

直腸癌で最も再発が多いとされている局所再発が、全国統計と比較するとほとんどの施設で低い結果でした。局所再発は、外科医の最も技術が問われる再発形式とされてお

ります。この表の結果から、臨床解剖学を理解した精緻なTMEを行っている先生方が多いことが推察されました。

以上が、同門会学術集会で各関連施設から事前のアンケート調査からまとめさせていただいた報告です。今回の企画にあたり、日頃お忙しい先生方に多大なご苦勞をおかけしたことを心より感謝申し上げます。この結果を通して、現在行われている大腸癌に対する治療方針を再度確認していただき、今後の診療にお役立ていただければ幸いです。

5年生存率														
	胆管	肝	膵	山	膵	大	直	膵	膵	膵	膵	膵	膵	膵
Stage I	83.5	91.7	95.7	81.7	100	73.2	100	100	97.6	92	57.1	83.3	83.3	95.1
Stage II	86	73	100	68.9	83.1	71.9	75.2	75	87.8	70	100	66.7	100	91.2
Stage III	76	57.5	88.1	29.4	70.9	68.0	39.9	100	73.5	75	33.3	58.3	86.7	82.5
Stage IIIb	45	31	62.5	33.3	61.7	58.1	37.5	90.9	54.1	37	50	66.7	61.9	78.7
Stage IV	11.5	9.5	12.5	11.3	42.9	33.3	0	41.1	0	0	40	16.7	24	21.7

図9

まとめ														
●直腸癌手術症例はほとんどの施設で年々増加傾向を示していた。														
●直腸に対するTEM、腹腔鏡手術は限られた施設でのみ行われており、今後術式の標準化そして教育が必要と考えられる。														
●術式は施設毎に特徴があり、その結果肛門温存率に差が見られた。														
●5年生存率に関しては、追跡期間、他病死の取り扱い等の統計処理が各施設で異なるためか、非常にばらつきがあり今後の大きな課題といえる。														
●再発部位に関しては、局所再発が全国統計に比較し遜色ない結果であり、精緻な手術手技の結果であると思われた。														

図12

再発部位（全国統計）				
（大腸癌研究会・プロジェクト研究 1991～1996年度症例）				
	結腸	直腸	p値	
肝	6.8%	7.3%		
肺	3.2%	6.7%	p<0.0001	
局所	1.9%	7.6%	p<0.0001	
吻合部	0.3%	0.6%		
その他	3.7%	4.4%		

図10

提 案														
●5年生存率が、追跡期間、他病死の取り扱い等の統計処理が各施設で異なるためか、非常にばらつきがあった。														
●今後、がん対策基本法に基づき施設毎の治療成績（5年生存率等）の公表が義務づけられる可能性もある。														
●学会・研究会への抄録や発表に、余裕を持ってデータ解析ができる。														
●今後の他施設共同の臨床試験を行う場合でもデータ収集が非常に簡単。														
●後輩への大きな財産になる。														
患者データベースの共有化														

図13

再発部位														
	胆管	肝	膵	山	膵	大	直	膵	膵	膵	膵	膵	膵	膵
局所	6	6	6	42	33	112	137	26	28			64	0	36
肝	7.2	4	7.8	8.5	6.7	10.1	11	1.3	7.3			7.4	0	25
肺	7.2	6	10	11.3	6.7	11.2	6.8	3.9	1.6			5.3	0	41
膵臓	1.2	2.4	0	2.8	1.7	0	0	1.3	1.1			2.1	2	12
リンパ節	2.4	1.6	1.7	1.4	0	1.1	1.4	3.9	1.1			1.1	2	0.8
骨	3.6	2.4	1.7	0	1.7	0	2.7	0	2.2			0	0	12
脳	1.2	0.8	0	4.2	0	1.1	0	0	0.5			0	0	0.4
その他	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0

図11

一般演題														
1. 当院11年間に於ける大腸癌治療の概況 岩手県立千厩病院 外科 ○遠野千尋 坂下伸夫 伊藤達朗														
2. 岩手県立大船渡病院における大腸癌治療の現状 岩手県立大船渡病院 外科 ○村上雅彦 藤社 勉 小山田 尚 玉手義久 上村卓爾 尾崎雄児 出口智基 八島良幸														
3. 当院における大腸癌に対する治療方針 山本組合総合病院 外科 ○大山健一 千葉文文 加藤久仁之														
4. 大腸癌に対する治療方針 ～岩手県立久慈病院～ 岩手県立久慈病院 外科 ○清原正史 下沖 収 菅川幸洋 馬場雄朗 阿部 正														
5. 当院での直腸癌に対する腹腔鏡補助下低位肛門切除術の現状 富田五郎病院 外科 ○秋山有史 高金明典 幸川善郎 入野田 崇 目黒英二 松渡 治 種藤なおみ 小林 慎														
6. 当院における大腸癌治療の現状 ～腹腔鏡手術を中心に～ 八戸赤十字病院 外科 ¹⁾ 二戸病院 外科 ²⁾ 岩手医科大学 外科 ³⁾ ○堀井信之 ¹⁾ 藤原久貴 ¹⁾ 有末真弘 ¹⁾ 玉澤佳之 ¹⁾ 佐藤正博 ²⁾ 川崎健一郎 ²⁾ 藤澤健太郎 ²⁾ 藤田修寛 ²⁾ 板橋英秋 ²⁾ 清原正史 ³⁾ 大塚幸喜 ³⁾														
7. 直腸癌に対してTME (transanal endoscopic microsurgery) を施行した119症例113例の検討 岩手県立釜石病院 外科 ○遠藤秀郎 吉田 徹 小原 真 石黒保康 西成 悠														
8. 直腸癌に対する腹腔鏡下低位肛門切除術 ～TME～症例報告の予後～ 岩手医科大学 外科 ○大塚幸喜 板橋英也 木村聡元 稲崎得規 藤井大和 佐々木 章 若林 剛														

図14

●留学先から

がんばってます

小笠原 聡

拝啓

皆様お変わりございませんでしょうか。

小生、小笠原聡は2008年8月より留学の機会をいただき、アメリカ合衆国カリフォルニア州で留学生活を送っております。

サンディエゴについては前回の留学便りにて書かせて戴いた通りですが、太平洋側最大の軍港や空軍飛行場をもつ、“軍の街”であり、バイオ、製薬、医療機器関連の企業がクラスターを形成する“ハイテックの街”でもあり、はたまた、MLBのパドレスPadres、NFLのチャージャーズChargersのhometownとしても（米国内では）有名な都市です。

さて、もう既にご存知の先生方もいらっしゃると思いますが、2009年12月より私の通勤先が変わりました。留学初年度はカリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）分子生物学部門にて幹細胞の分子生物学について勉強させていただきました。そして、2年目からは現在所属しているサンフォード／バーナム医学研究所というところでプログラム細胞死について勉強させていただいております。

去年通ったUCSDキャンパスは約8000,000㎡と、かなり広大で結局一年おりましたが全貌の十分の一も見る事はできませんでした。今度の施設はずっとコンパクトで、ビル数が9つだけです。目の前には、最近では宮里藍さんが来てたトーレパインゴルフ場と道路を挟んで隣合う場所にあります。今から二十数年前、ラホヤがん研究所の名前で開設された当研究所は先日までバーナム医学研究所“Burnham Institute of Medical Research”と名乗っておりましたが、いきなり、\$50 billion（約50億円!!）の寄付をした方が現れ、その人の名前を加える形でサンフォード・バーナム研究所“Sanford|Burnham Medical Research Institute”となつてしまいました。式典には知事のシュワルツネグガーも来場し祝辞を述べておりました。

現在私の所属するラボは 主任研究員PIがDr. John C Reed といって、アポトーシスの世界では知名度の高い方です。若くしてこのバーナムにラボを構え、いつの間にかとんとんと出世して現在ではこの施設のPresident（総長?）でありCEO（最高経営責任者）という立場にあるヒトです。いつもいろんな会議や金策?等に国内中かけずり回っておるた



め、一ヶ月に数日ほどしか施設内にいません。しかし、時々予告無しにセミナーの後部席に座っていたりもします。（ただ、実験室にはなぜか絶対現れません。）前年所属したラボも15人で大所帯だったのですが、今回のラボは更に大所帯で、研究者だけでも30人というBig-Labです。ボスがほとんど居着かないのでラボは現場監督とでも言うべき二人の指導者（日本の大学で言うところの准教授のような方）がいて、更に幾つものプロジェクト（一説によると120ものプロジェクトを動かしているらしいです、..）が空回り、or絡まってしまわないように、6人のstaff scientistが自分の仕事をしながらポストドクの研究の調整をしています。ここまで書くと、アメリカでは珍しい日本式ヒエラルヒー社会的構図を思い浮かべるかもしれませんが、お互いに上司・部下といった意識は毛頭なく普通に意見を戦わしています。

研究内容は大雑把に言えば、当ラボのテーマである細胞死、アポトーシスや、最近ではプログラム細胞死の比較的新しい概念であるオートファジーといったものです。やや具体的に言えば、今一番力（と金）を入れているのが「薬剤スクリーニング」です。薬剤スクリーニングなんて、すぐ側にある製薬会社（近所にはファイザー、ノヴァルティス、タケダ他多くの研究所が隣接）でやっているのでは?とも思うのですが、当施設で今までに培ったアポトーシスの知識を新規薬剤開発に生かそうとコラボレーションする企業があるようなのです（Johnは結構手練手管にたけてる?）。何千、何万というコンパウンド（化学合成物質）を細胞株に投与し効いた効かないを見るのですが、当然何段階もの確認実験を経て残る薬剤が一つもない事だってあり得る訳で、逆を言えば一つでも臨床応用可能な物を抽出できたら、それはもうウホ2です。自分もそんなプロジェクトの一つを戴き、がんばっております。幸運にも、対象疾患が癌なので（多分、乳癌あるいは前立腺癌が研究対象）この研究の成果は日本で生かせるのではと思っています。

前年も書きましたが、ここサンディエゴは風光明媚なラホヤ（La Jolla）を中心に水陸のスポーツ施設、子供だけでなく大人も楽しいレジャー施設、水族館から自然を散策するトレイルやキャンプ場など楽しめる場所が多く、“全米で最も住みたいエリア”としてすごく人気が高いところです。気候は一年を通じて寒暖の差が穏やかで雨量が少なく、何時も初夏のような感じです（とはいっても、去年から今年の3月初めにかけてはフェーン現象の影響でサンディエゴにとっては数年分の雨が降りました）。

前回書いた事を繰り返すばかりで申し訳ありませんが、



Sciencceとふれあうには、ここサンディエゴは、非常に良い環境だと思います。研究型大学のUCSD、Biologyで有名なソーック研究所、chemistryを得意とするスクリップス研究所、日本人研究者が開設したラホヤアレルギー免疫研究所LIAIそしてここ、バーナム研究所がscientific nestを形成しその周りに更に多くの研究施設が集まってくる。そして、なんといっても多くの日本人研究者（とその御家族）との交流は、同じ時期に同じ文化を背景に持つ人間同士がこんな異国で出会えた偶然に感謝するとともに助け合えることのありがたみをしみじみ感じる事ができた素晴らしい経験です。人との交流は何も海外にでなくとも十分可能です。しかし、この言葉、意思、（文化の）常識が通じない、ある意味異常な状況下における同郷の人間の存在、交流がこれほどまでありがたく、そして心強いと実感できたのは此处に来る事ができたからに他なりません。そのような事を考えつつ、残りの留学生生活を更に有意義に締めくくれたらと思っています。

最後に、前年も書きましたが、こんな医師不足のまっただ中、実地医療とかけ離れた勉強をさせていただき、若林教授はじめ、医局内の先生方、関連病院の先生方には感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございます。

MIAMI Times

高橋 正浩

2年目の留学先としてマイアミを希望したのは、世界的に有名な移植施設University of Miami (UM), Jackson Memorial Hospital (JMH) があったからである。自分でもかなり挑戦的であったと思うが、幸運にも移植プログラムのディレクター兼教授であるDr. Andreas Tzakisと同移植外科教授の西田聖剛先生、そして若林教授のご高配により実現した。

Dr. Tzakisは肝移植の父であるPittsburgh大学のDr. Thomas Starzl から学んだ肝移植、小腸移植の世界的な第一人者で、Dr. Starzl から“One of the best surgeons in the world.”と言われた最高の外科医でもある。そのDr. Tzakisに挨拶するために、オフィスを訪れた時は、何とも言えない緊張感でいっぱいだった。

JMHの移植症例数は、アメリカでトップ3に入る。肝移植の扉を開いた現Pittsburgh Medical Center が1963年から開始し5,162例、2番目がUCLA Medical Center で4,633例、そして我がJMHが2,887例と続いている。

Dr. Tzakis がPittsburgh を離れ、マイアミで移植プログラムを立ち上げたのが1994年であるから、16年の間にスタッ



Dr. Tzakis のSplit Liver Case にスクラブイン

フ教育とこれだけの肝移植を行ったことには驚かされる。現在も年間150～200例の肝移植を行い、さらに小腸移植、多臓器移植も手がけているため、移植だけで毎年200症例は下らない。

私はclinical research fellow として移植に携わっている。毎朝7時からのカンファランスと病棟回診、症例検討、病理、外来などのスケジュールにもだいぶん慣れ、充実した毎日を過ごしている。

メインは手術になるが、私がスクラブを許されているのは、非生体（脳死・心臓死）ドナー手術、バックテーブルに

限られる。私同様、ドナー手術にスクラブインしたいという訓練生、見学者は世界中から数多く訪れる。よって誰がHarvest（ドナーの臓器を取りに行くこと）に行くかという事は競争であり、本人のアピール次第である。

アメリカには24時間ドナー情報を管理するドナーデスクがあり、そこのお姉さん？にいかにか自分を呼んでもらうかがポイントとなる。私は毎日ドナーデスクに顔を出し“Call me!”と言い続けた。その結果、今では必ずドナーコールがくるようになり、顔も覚えてもらえた。

ドナー手術やバックテーブルでは、普段見ることのない視野で手術を展開するため、非常に勉強になる。またスクラブインすることにより、手術場のスタッフとも仲良くなる事ができた。

私は現在まで40例以上のドナー手術を経験したが、今後も可能な限りスクラブインして、体が手技を覚えるくらいにまでなりたいと思っている。

マイアミは中南米系の難民や貧民が移り住んだ歴史があるため、人口の65%がヒスパニック、ラティーノアメリカンである。そのため日常生活で英語を耳にすることは少ない。オフィス内はもちろん、病院内、



西田先生と移植コーディネーター



スペインとコロンビアからの研修仲間とホームパーティー

受賞

ライセートアレイによる蛋白定量を用いた癌細胞薬剤反応の評価

西塚 哲

昨年10月23日にパシフィコ横浜で行われた「第47回日本癌治療学会学術集会」において、上記演題について「最優秀演題賞」を受賞することができた。同学術集会は岩手医大産婦人科教室の杉山徹教授が会長であり、さまざまな新しい試みが設けられていた。その一つに「最優秀演題賞」があり、全部で10人が受賞した。最優秀演題賞のセッションは第2日目にメインホールで開催されたが、座長の東海大学教授、幕内博康先生から受理された総演題数が約2000題であったこと、厳格な選考によりそのうちの0.5%が選ばれたということが紹介され、第一番目の演者であった私には心地よいプレッシャーとなった。

抗癌剤感受性試験は薬剤の細胞毒性を基に判定される。岩手医大外科の同試験の歴史は古く、私が入局した1994年には既に寺島雅典先生（現静岡県立がんセンター胃外科部

長）が全国でも数少ない先進医療施設としてそのノウハウを確立していた。今回の受賞も歴史ある教室における抗癌剤感受性試験実績の延長線上にあることを強調したい。抗癌剤感受性試験は胃癌に対する薬剤の選択法として発展してきた経緯があるが、近年ファーストラインとしてTS-1/CDDP療法が確立されたことで、アッセイ対象は高度進行・化学療法後再発胃癌が多くなっている。一方、近年導入され始めた分子標的薬には細胞毒性のみでは薬効予測が難しく、分子レベルでの評価法が模索されている。本演題では、細胞毒性ではなく、独自に開発したライセートアレイに技術により計測される抗癌剤反応性蛋白質の経時的変化から最終的な細胞反応を推定することで、判定時間を24時間程度まで短縮できる可能性を提唱したことが評価された。今後、承認済み薬剤のみならず分子標的薬に対する次世代抗癌剤感受性試験として発展させたい。原理についてはJournal of Proteome Research誌（2008年）、方法の詳細についてはNature Protocol誌（2008年）に既に発表している。アッセイを行った分子治療研究室メンバーおよび教室の関係者全員に深謝したい。

岩手医科大学医学部 外科学講座 卒後臨床研修プログラム

卒後研修担当 水野 大

昨年の本誌では卒後初期臨床研修制度導入、社会人大学院を選択する研修医の増加などにより、各人の入局前のキャリア、将来に描くキャリアパスに合わせたせ多数の(オーダーメイド型)後期研修プログラムについて説明しました。

専門領域決定済みコースの1例

卒後1年目	・卒後初期臨床研修(学内または学外)
2年目	・外科学会入会、修練開始手続き ・専門学会入会
3年目	・大学24か月(専門領域及び関係するグループ優先に18か月、呼吸器外科、心臓外科、麻酔科を各2か月、この間に内視鏡トレーニングを行う)
4年目	・学外関連病院 12か月(専門医に關係する症例が多い施設)
5年目	
5年目終了後 外科専門医試験	
卒後6年目	・大学 12~24か月(専門領域及び関係するグループ)
7年目	・学外関連病院 12~24か月(専門領域に關係する症例が多い施設)
7年目終了後 各専門医試験 消化器外科では専門臓器(グループ)決定	

専門領域未定コースの1例

卒後1年目	・卒後初期臨床研修(学内または学外)
2年目	・外科学会入会、修練開始手続き
3年目	・大学24か月(上部、下部、肝胆膵・内視鏡、乳腺、小児、救急を各3か月、呼吸器外科、心臓外科、麻酔科を各2か月、この間に内視鏡トレーニングも行う)
4年目	
5年目	・学外関連病院 12か月(一般外科)
5年目終了後 外科専門医試験 専門領域決定(専門学会入会)	
卒後6年目	・大学 12か月(専門領域及び関係するグループ優先)
7年目	・大学 12~24か月(専門領域及び関係するグループ優先)
8年目	・学外関連病院 12~24か月(専門領域に關係する症例が多い施設)
9年目	
10年目	・大学 12か月(専門領域)
10年目終了後 各専門医試験 消化器外科では専門臓器(グループ)決定	

本年も後期研修の基本は変わりませんが、大学での卒後初期臨床研修制度に新たに「外科専門医コース」が加わるとともに、後期研修医およびもう少し上の日本外科学会専門医をすでに取得した外科医を対象とした大学病院連携型高度医療人養成推進事業による専門教育をスタートしましたので説明したいと思います。

・卒後初期臨床研修医制度 外科専門医コース
大学での卒後初期臨床研修ではこれまでも、「外科優先コース」「選択優先コース」が設定され、いずれも最大11ヶ月間の外科研修が可能でした。しかし、これらは一部の診療科を除きあくまでも「大学内での研修」が原則であり、外科研修もすべて学内で行うようプログラムされていました。学内研修のメリットとしては消化器外科、乳腺甲状腺外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科といった外科専門医取得に必要なサブスペシャリティ研修が単一施設で可能な点にあります。しかし、一方で各グループがそれぞれ専門領域の治療を行うため、研修医一人が経験できる症例数、疾患は限られてしまうのも事実です。そこで新たに提供されたのが「外科専門医コース」です。本コースでは、一年次には制度上必須である、内科、救急科。産婦人科、精神科を研修し、二年次は義務づけられた地域医療1ヶ月間を除き11ヶ月間外科関連病院で研修を行います。これにより卒後初期臨床研修中から関連病院外科での豊富な経験が可能になります。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一年次	基礎 研修 内科	内科						救急科		精神科	産婦人科	
二年次	地域 医療	関連病院 外科										

・大学病院連携型高度医療人養成推進事業 地域躍動型専門医養成一貫教育プログラム
これは文部科学省の補助金による事業で、当科は慶應義塾大学が基幹校となっているプログラムに参加しております。

プログラムの目的



慶應義塾大学からは

- ・一般・消化器外科・専修医コース
- ・一般・消化器外科・上部消化管外科サブコース
- ・一般・消化器外科・大腸外科サブコース
- ・一般・消化器外科・肝胆膵移植外科サブコース
- ・一般・消化器外科・乳腺外科サブコース
- ・一般・消化器外科・血管外科サブコース
- ・小児外科・専修医コース・標準専修医コース
- ・小児外科・専修医コース・連携型専修医コース

が提供され、

当科からは

- ・肝・胆・膵・移植外科コース
(日本肝胆膵外科学会高度技能医育成コース)

コース名：岩手医科大学・日本肝胆膵外科学会高度技能医育成コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
岩手医科大学	外科	肝胆膵外科 移植外科 消化器外科	2名	肝胆膵外科手術の修練	年1名	3-5年間

- ・内視鏡外科専修医コース
(日本内視鏡外科学会技術認定医育成コース)

コース名：岩手医科大学・内視鏡外科技術認定医育成コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
岩手医科大学	外科	消化器外科 内視鏡外科	10名	内視鏡外科手術の修練	年1-2名	1-2年間

- ・小児外科専修医コース
(日本小児外科学会専門医育成コース)

コース名：岩手医科大学・小児外科専門医育成コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
岩手医科大学	外科	小児外科	2名	小児外科 新生児外科 小児内視鏡外科手術の修練	年1名	1-2年間

の3コースを提供しています。

本事業により、当科医局員の慶應義塾大学での、慶應義塾大学専修医の当科での研修、資格取得へ向けたスキルアップのプログラムが提供されると同時に相互の人的交流は医局の活性化にもつながることが期待されます。

1 January



若林 剛教授による年頭所感



水野准教授から「卒後教育システム」について



佐々木准教授「教室活動と運営」について



肥田講師による司会進行



盛岡日赤病院
杉村先生



盛岡日赤病院
畠山先生



八戸日赤病院
玉沢先生

新年会



引き続き行われた
新年会。
齋藤和好先生による
乾杯の御発声



皆様今年も宜しくお願いします。



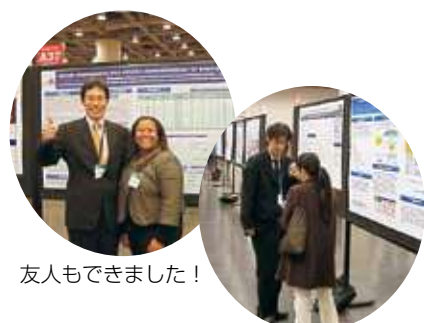
関連病院の先生方にお集まりいただき、
多くの貴重なご意見を頂きました。



函館五稜郭病院
高金先生

ASCO GI (2009.1.15-19)

サンフランシスコでASCO-GIが開催されました。当教室からは4題の演題を発表しました。



友人もできました！

それはですねえ…



なに食べよっか？



エビにします？



左から、木村、若林教授、肥田、西塚、高原



ケーブルカーって
なんだか楽しいね！



Golden Gate Bridgeを背景に記念撮影



アルカトラズ！！

みちのくウィンターセミナー (2009.2.7)

今年も、全国からご高名な先生方をお招きして、貴重な講演を頂きました。



千葉大学 松原久裕教授より
「食道癌のトランスレーショ
ナルリサーチ」と題して、ご
講演を頂きました。



京都大学 坂井義治教授より
「腹腔鏡下大腸癌手術」と題
して、ご講演を頂きました。



弘前大学 佐藤誠二先生より
「生体肝移植-当科における経
験」と題して、ご講演を頂
きました。



秋田大学 佐藤誠二先生より「秋
田大学の腹腔鏡下胃癌手術」
と題して、ご講演を頂きました。



セミナー後の懇親会も盛況でした。

2 February



前・千葉県がんセンター長
の竜崇正先生



東北大学 海野 倫明教授
からご挨拶を頂戴しました。

第12回岩手内視鏡外科研究会 (2009.5.9)

今年も、全国からご高名な先生方をお招きして、貴重な講演を頂きました。



慶應大学 小児外科 森川康英
教授より「Hapticsと内視鏡外
科」のご講演を頂きました。



近畿大学 今本治彦先生より
「チームで取り組む、より安全
な内視鏡外科手術」のご講演
を頂きました。



座長の若林 剛教授



岩手県立久慈病院
阿部 正院長より開会のご挨拶



当教室 佐々木章准教授による
「SILS Working Group Seminar」参加報告



会場からも熱心な質問が多数寄せられました。

6
June

集談会
今年のテーマは直腸癌でした。

巖刀会総会



若林 剛教授挨拶



森 昌造先生による
乾杯の御発声



学術賞を受賞した、御
供真吾先生と板橋英教
先生。益々の活躍を!!



学生の地域実習にご協力
いただいている、滝沢中
央病院 伊藤先生へ感謝
状をお送りいたしました。



全員集合!

今年も金の卵が8人も入局しました!
左から、片桐弘勝先生、遠藤隆先生、西成 悠先生、
松谷 英樹先生、渡辺陽太郎先生、八重樫瑞典先生、
真壁健二先生、川岸涼子先生。みんな一緒に頑張りました!

国際胃癌学会 (2009.6.15-19)

ポーランド、クラクフにおいてIGCAが開催されました。当教室からは肥田圭介講師と高橋正統助教が発表。



ポーランドの騎士? とパシャ!



美味しいワインで乾杯!

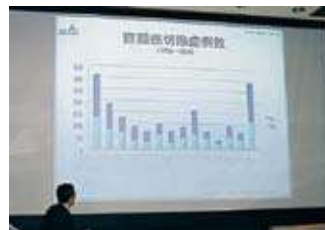
静岡がんセンター
寺島雅典先生と



アウシュビッツ強制収容所!

巖刀会 (2009.6.6)

外科集談会と、巖刀会総会が開催されました。



大塚幸喜講師から、当院および
関連病院における直腸癌手術の
現況報告がありました。



県立釜石病院 遠藤秀彦院長から
は、直腸腫瘍に対するtransanal
endoscopic microsurgeryにつ
いてのご発表を頂きました。



山本組合総合病院
大山先生からの報告

7
July

北上川ボート下り大会 (2009.7.26)



今年は計8艇が参加し、全て無事にゴール。教室員、家族みんな笑顔で、ハイチーズ!



いざ出発!



仮装の部に出場。僕たち、兄弟ではありません。ただの同期です。

医師会野球大会 (紫波町) (2009.8.22)



紫波町で岩手県医師会野球大会が
開催されました。当教室も参加し
ましたが、二戸医師会にKOされま
した。

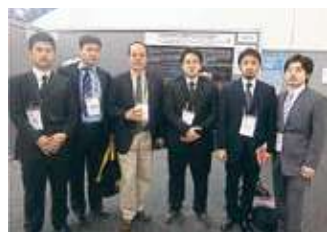
8
August

第44回万国外科学会議 (International surgical week; ISW 2009) (2009.9.6-10)

オーストラリアのアデレードにおいてISWが開催されました。当教室からは6題の演題を発表しました。



北島政樹先生ご夫妻とともに記念撮影



顔が引きつっているのは発表前だから？

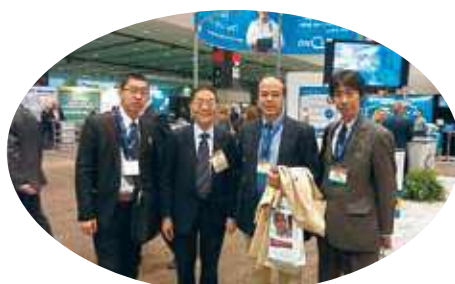


アデレード近郊のワイナリーにて食事会



第95回米国外科学会議 (American College of Surgeons) (2009.10.11-15)

シカゴにおいてACSが開催されました。若林 剛教授が招待され、特別講演を行いました。



会場にて。



若林教授による「内視鏡下肝切除」についての特別講演の様子。



講演に対する反響が大きく、たくさんの質問が寄せられました。



美味しい食事も頂きました。



学会にも遂に3Dの波が？



ご挨拶をされる池田健一郎先生

長年医局を支えてこられた池田健一郎准教授が退職されました。本当に長い間で指導いただきありがとうございました。



池田先生！お元気で！！



池田先生には沢山のことを教わりました。美味しいケーキのお店のことや、美味しいお寿司屋さん、はたまた通好みの美味しいお好み焼き屋さん、あとは、あとは…えーと…

巖刀会忘年会 (2009.12.12)

今年も無事に一年が過ぎました。また、新たに2人の先生の入局が決定しました。



若林教授挨拶



大堀理事長先生からもご挨拶を頂戴しました。



例年に増してたくさんの先生方にお集まりいただきました。



梅邑 晃先生
福島県立医大卒5年目の先生です。



鷗木和久先生
獨協大学医学部卒3年目の先生です。

外科学講座大忘年会 (2009.12.28)

暮れも押し迫った12月28に、恒例の大忘年会が開催されました。今年も参加11チームによる大演芸大会となりました！！



強豪！！「下部消化管グループ」



当科自慢の美人師長
+親衛隊？チーム



いい仕事してますね！！「リサーチグループ」



負けないぞ！！「上部消化管グループ」

岩手県立二戸病院

Iwate Prefectural Ninohe Hospital

平成21年の診療体制は、坂本 隆（副院長）、佐藤 一（外科長）、菅原 聡（臨床検査科長）、川崎雄一郎（外科医長）の4名が常勤の外科医となっています。常勤スタッフに加え、昨年と同様、圏域から県立軽米病院の葛西敏史先生（火曜日午後）、県立一戸病院の石川 徹先生（月曜日午後）に定期的手術応援として来ていただいております。また、教室から、柏葉匡寛先生（月曜日乳腺外来）、高橋正統先生（月曜日外来）、新田浩幸先生（金曜日外来）、石田和茂先生（水曜日・九戸地域診療センター外来）に定期的診療応援をいただきました。さらに、腹腔鏡下脾摘出術、腹腔鏡下胃粘膜下腫瘍切除術（SILS）、腹腔鏡下大腸切除術、肝胆膵手術などで、ご専門とされる先生にご指導をいただきました。当科からの診療応援としては、一戸病院金曜日外来（坂本）、九戸地域診療センター月曜日外来（佐藤・菅原）のほか、随時軽米病院、一戸病院の手術応援を行っています。

以上の診療体制で、当科では、広い医療圏（二戸市、一

岩手県立一戸病院

Iwate Prefectural Ichinohe Hospital

現在の一戸病院は県立一戸病院と精神科の県立北陽病院が合併し、平成12年4月より診療が開始されました。現在では1病棟の休止により一般48床、療養48床、精神225床、感染4床の計325床で、一般医療と精神医療の連携した診療を行っています。

平成21年の出来事は、3月に病院機能評価の施設認定を受けました。

4月には内科の常勤医が2名に増えました。しかし常勤医7名（精神科除く）のうち当直要員は3名です。医局と中央病院の当直応援がなければ病院として機能しません。

休止していた5階の病棟（分娩室もある産科病棟）が町の老人ホームとして利用されることが決定しました。平成22年1月の開所です。

スタッフ紹介

石川 徹（外科長）平成20年4月に赴任しました。平成19年より外科常勤医1名体制です。医局より週に2回の当直



戸町、軽米町、九戸村、葛巻町、青森県三戸町、田子町など）から来院する患者に対しては集約化とも言えるべき体制で対応し、一方患者・家族が地元での治療を希望する場合には可能な限り答えるというスタンスで、圏域が一体となった診療を行っています。

院内では、DPC病院への移行（6月）、病棟での電子カルテへの移行（6月）が主たる出来事でした。今後は、在宅緩和ケアや外来がん化学療法のニーズが高まってくると考えられ、対応すべく努力を続けて行きたいと考えています。今後もますますのご指導、ご支援をお願い申し上げます。



応援、月に1回土日の日当直応援をいただき、外科のみならず、病院として非常に助かっています。また、医局と二戸病院より外来応援をいただき診療しています。これで安心して月曜の午後は二戸病院へ手術応援に出かけられます。

手術数は多くありませんが、他職種と連携し、褥瘡対策、NST、化学療法、緩和ケアに取り組んでいます。外科も療養病床を担当しており、近隣の老健施設、特養老人ホーム、福祉施設と共に高齢者の医療を担っています。

外科の研修医はいませんが、病院として、中央病院、岩手医大、二戸病院の精神科研修、中央病院の地域医療研修を受け入れています。

岩手県立軽米病院

Iwate Prefectural Karumai Hospital

平成21年の出来事についてですが、徐々にカシオペア圏域での集約化傾向が強まり、当院は、医療療養型病床（45床）を持っていることもあって、県北地域（二戸・久慈）の後方病院を担っています。中核病院から患者さんを引き受け、リハビリ等を行いながら、福祉・介護との接点を持ち、自宅や施設への橋渡しを行うという、地域に根ざした医療が中心になってきています。もちろん急性期医療は最も重要と思いますが、当院のような病院が無いと、急性期病院も廻らなくなっていくと思われますので重要な位置づけと感じています。

診療応援は、第2・3土日に、小川雅彰先生、富澤勇貴先生、高橋正紀先生、武田雄一郎先生等に来て頂いておりま



今後とも広域基幹病院である県立二戸病院と連携し当院は地域総合病院として高齢化社会に対応できる医療を目指します。



した。今後ともよろしくお願いいたします。

また、変わった話題としては、県立病院では労働基準監督署が入ったために、この4月から36協定を結ぶことになりました。それに伴って、時間外勤務の記載方法が変わりますので、出張で県立病院へいらしている先生方は担当事務などに確認をお願いします。

そして極めつけは、今の閉塞感漂う状況を打破すべく、医局旅行を久しぶりに企画しました。場所はグアムです。皆真っ黒くなって命の洗濯をすることができました。ただ、我々が出発したとたん新型インフルエンザが流行りだし、残った先生方にはご苦勞をおかけしました。有り難うございました。来年も何とか企画していきたいと考えています。

とりとめもないことを綴りましたが、今後とも皆様からの御指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

岩手県立久慈病院

Iwate Prefectural Kuji Hospital

県立久慈病院外科の2009年度の状況報告を致します。まずは4月に地域がん診療拠点病院に認定されました。がん診療レベルアップのため各活動が活性化されましたが、中でも毎週開催の「がんサポーター」には、各科医師、研修医の他、多職種約30名が常時参加しており、病院全体の職員意識高揚にも寄与しているものと思います。7月には電子カルテの本稼働が始まりました。各部門システムとの連携を2年がかりで構築してきました。このシステムにはオーバービュー機能がなく、情報へのアクセシビリティが悪いなど、使い易いとは言えないものの、情報を誰でもその場で共有できるという電子カルテならではのメリットがあります。良さを最大限生かし、デメリットは運用でカバーする工夫を重ねて行く必要があります。2009年10月には病院機能評価Ver.6を受審しました。岩手県立病院では初のVer.6認定病院となりました。

外科スタッフは、阿部正院長、下沖収科長に加え、鴻巣正史医長、馬場誠朗医長の2人を派遣していただきました。両名にとって外科学会専門医予備試験合格という節目の年になりました。また心臓血管外科/救急医学講座の皆川幸洋救命救急科長には救急、血管・肺外科を中心に活躍して頂いております。医局からは第1水曜日の小児外科外来に水野大准教授、第3木曜日の乳腺外来に柏葉匡寛講師に応援、ご指導頂いております。その他にも第2、4木曜日と毎



週金曜日に医局から、また第2、第4水曜日午後には種市病院の荒谷宗充先生に手術応援をお願いしております。お忙しい中をご支援頂いておりますことに、この場をお借りして深く感謝申し上げます。2009年の手術件数は467件、全麻294件で、内視鏡手術は75件でした。手術件数は10年来横ばいですが、地域医師会とのさらなる連携強化、地域住民への啓蒙活動などにより、手術件数増加につなげて参りたいと思っております。業績としては原著論文6編、全国学会での発表は21件、同座長3件で、そのうち研修医の発表が5件でした。

当院には初期臨床研修医13名が在籍中で、そのうち2年目の武田大樹、吉田雅一、1年目の川岸涼子、真壁健二、八重樫瑞典の外科入局が決まっております。平成22年度はマッチング6名中3名の研修医しか迎えられませんが、すでに外科入局志望の研修医もおります。当科の役割は外科の基礎研修はもちろんですが、外科の楽しさと久慈病院の魅力を伝えることも大きな役割の1つと考えております。通称「外科集会所」での不定期な談合のほか、ソムリエ院長厳選のワインによる「初の会」や「論文のお祝いの会」などのイベントも継続して行っております。恒例の「久慈病院スキーツアー」や病院行事、久慈病院野球軍団の中核をなしているのも外科スタッフです。今後も「明るく元気な関連施設」をモットーに努力を重ねて参りたいと思います。今後とも医局、各関連病院からのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



盛岡赤十字病院

Morioka Japanese Red Cross Hospital

外科

平成21年5月、病院外付けの緩和病棟が始まりました（22床）。それに伴い、今まで外科担当医6名で動いていたのが、旭、馬場の両医師が緩和専任となり、現在4名（杉村、川村、藤澤、畠山）で、診療に当たっております。初期研修医は、居る月と居ない月があり、居ないときは手術のやりくりに苦労しております。

昨年手術件数は、全手術症例685例（712部位）で、全身麻酔例に関しては597例と昨年の509例から88例の大幅増となっております。癌関連の切除可能症例は、甲状腺14例、乳癌35例（温存率79%）、肺癌9例、食道癌5例、胃癌34例（GIST、悪性リンパ腫を含む）、直腸結腸癌82例、肝癌（転移性を含む）7例、胆膵癌6例でありました。鏡視下手術は192件（全麻例の32%）でした。また、来院同日に施行した緊急手術例は114例（同20%）でした。小児外科専門医もあり、小児科と連携を密にして小児疾患も手がけております。上記手術件数以外に、院内のV-port reserver留置は外科がすべて引き受け、昨年は62件でした。またPEG（内視鏡的胃瘻造設、PTEGも含む）も外科が施行し、院内はもとより地域連携バスをつくり近隣の慢性期病院よりの依頼を含め昨年は57件でした。

外来化学療法室（12床）も軌道に乗り、全197例、933回中外科担当は115例（58%）、612回（66%）で、日替わりで1名の医師が手術前の午前中に担当しております。

週間予定としては、月曜が医局カンファランス、木曜が内科外科病理薬剤部を含めた術前術後再発症例などの合同カンファランスを朝7:30頃より開催しております。また病院あるいは医局行事として、月一回の院内発表会、年4回の開業医も含めた盛南地区勉強会を開催しております。その他、不定期ではありますが、年数回他職種を含めた医療安全、緩和などに関する講演会、勉強会を開催しております。昨年の外科の業績としては、昨年は論文3編、学会研究会発表20回、学会研究会座長4回でした。

以上のように、日々の診療に終われる毎日、盛岡に居ながら平日の研究会にはなかなか参加できずしております。土曜日の研究会には可能な限り出席するように心がけております。当院スタッフ4名は皆外科学会専門医であり、内3名は指導医です。若手中堅医の研修病院として医局と交流していければと考えております。

笑いと笑顔をもっとにチームワーク良く、フットワー

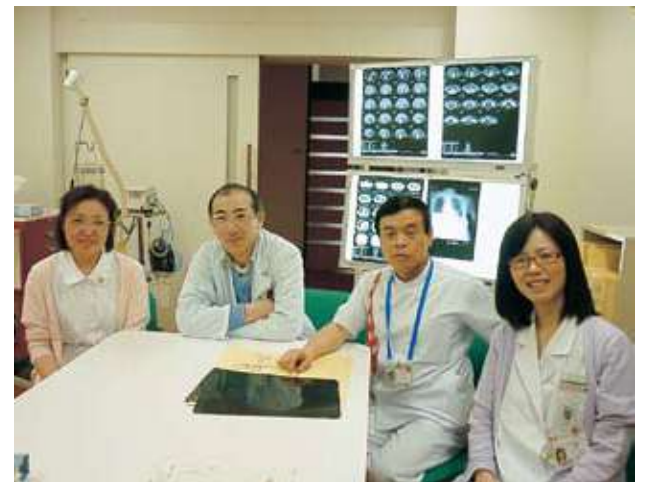


クを軽くして院内を走り回っております。

盛岡赤十字病院緩和ケア科

緩和ケア科は外来が平成20年10月設立、病棟は平成21年5月18日開棟した。全室個室で22床（有料室10,500円1床、5,250円9床、無料室12床）。医療従事者は医師2名（旭、馬場）、看護職員16名、看護助手1名、ソーシャルワーカー（兼任）1名、薬剤師（兼任）1名、保健師（兼任）1名、栄養士（兼任）1名、ハウスキーパー（委託）1名、ボランティア数名。運営には他職種によるチーム医療が義務付けられている。

21年の症例は外来117人、そのうち検討会で113人中98人が適応、適応外には非癌例もあった。96人が入院。院外から紹介が54人、平均74歳、男が56%、疾患別では消化管35、肝胆膵13、婦人科11、泌尿器10、肺7、乳腺5、悪性リンパ腫4、甲状腺3、他8である。79名が死亡、1名が自宅へ退院した。平均在院日数は28日で（全国平均の約半分）、最短1日、最長は6.5か月。初年度のこともあり稼働率は低かった。また、「緩和ケア」がまだまだ一般の人には認識されていないこと、紹介医でも老健施設と混同している場合があること。病棟施設基準にある「検討会」のシステムが理解されないこと等、種々の課題を残している。現在、市民公開講座、近隣施設への勉強会を定期的に行い「緩和医療」の理解を啓蒙している。



内丸病院

Uchimaru Hospital

急性期病院の後送病院、あるいは無床診療所の先生方の入院要請に対応する病院の務めを果たす、また開業の先生方からのMRI・CT等高額医療機器の共同利用への応需という病院方針には、平成21年も変わりはありませんでしたが、院内的にはいくつか変わりがりましたので報告します。

まず大きい事では人事面で、当院創立のメンバーの遠藤直樹先生（医12期、巖刀会、整形外科担当）が平成21年4月末で退職し内丸病院顧問として就任、現在はメデカルコート八戸西病院（旧シルバー病院）の老健施設「はくじゅ」へ週1回出張しております。後任の整形外科長に岩手県立二戸病院整形外科長であった曾根信介先生（医31期、折肱会）を5月から科長として迎えました。

組織的な事では、一般病床69床が2階（27床）と3階（42床）に2病棟となっていたのを平成21年8月から、3階を9床減らし60床1病棟としました。1病棟60床は県立病院勤務で経験ありましたが、階層の異なった1看護単位の経験は無く、7月の試行期間中はうまく走るかどうかが懸念しました。幸い看護科の工夫、協力で患者さんへ迷惑が及ぶ事無く経過しております。何かを恐れて動かないより、先ずやってみる事だと思いました。時期を同じくして、休止しております。

盛岡友愛病院

Morioka Yuuai Hospital

盛岡友愛病院外科では、昨年度に外科医2名を迎えて現在、長澤 茂（院長）、吉田 弘之、多田 隆士、西成 尚人、中島 隆之、藤井 祐次、松谷 英樹の計7名で診療しています。幸い各種外科領域にも対処しやすい人材が揃い、肉体的・精神的に疲れを感じかけていた医局も、モチベーションが高まり元気が出ました。

2009年の総手術件数は前年よりもさらに増加して1492件、うち外科は470件（全麻415件）でした。このため、3室のみの手術室はいよいよ限界で、手術室整備の必要性が現実味を帯びてきています。

さて、昨年は全国的に新型インフルエンザに振り回された年で、当院も例外ではありませんでした。県の要請もあり、早急に一部病棟を改修して「発熱外来」の診察室を確

した訪問看護ステーションを再開しました。病棟から在宅療養へ、退院前に方向づけをしてあげることで患者さんは安心して退院しているようです。

建物関係では開院以来30年間で初めて、内装を新しくし、また水回り工事も行い、トイレはウォッシュレットへ改良。さらに大きな工事では今夏に向けて、全館冷房装置の新設、栄養管理室の整備等を行いました。

広報関係では、内丸病院地域連携便りの発行、院内外での地域健康教室、講演会の開催等を始めております。このような事を積み重ねて、後送病院としてだけでなく、周辺諸地域の方々に親しまれる病院として存在しようと思えます。

なお、前号で療養病床をどうするか懸念しておりましたが、民主党政権になって、山井厚生労働大臣政務官が「療養病床は、転換したところはそのままとして、平成23年度末の廃止は凍結し、行わない」と言明したので当分現状維持可能となり、安堵しています。以上、当院の近況を報告しました。

	H19年1月～12月	H20年1月～12月	H21年1月～12月
入院患者総数（名）	527	450	460
退院患者総数（名）	525	423	469
死亡退院数（名）	114	100	88
全病院死亡率（％）	21.7	23.6	18.8

平成21年2月8日 1\$ \89.39 ～ 40 1€ \122.12 ～ 16



保したものの、完成した時点で厚労省の方針が「発熱外来は使わない方向」に変わってしまい啞然としました。強毒性インフルエンザに対する良いリハーサルになったかなと思うことにしましたが、結構疲れました。

地域や入院患者さんを対象とした病院行事としては、医

療福祉複合施設【ゆうあいの里】の「さくら祭り」の他、当院7階ホールを開放した「食と健康祭り」、各種演奏会や演歌ショー、映画上映会などを開催しました。前年に引き続きNHK交響楽団メンバー 3名の方々による「弦楽三重奏」のコンサートも開催しましたが、昨年は初の試みとして、落語家 古今亭菊之丞さんによる、「ゆうあい寄席」を開催したほか、マンドリン奏者やジャズピアニストを招いたコンサートを開催、会場に詰めかけた入院患者さん達にも大変好評でしたし、われわれ職員も癒しを与えていただきました。職員といえば、互いの交流・協調を目的とした

盛岡市立病院

Morioka Municipal Hospital

平成20年4月～平成21年3月は、千葉丈広先生、平成21年4月～平成22年3月は、野田宏伸先生に1年出張として医局より派遣いただきました。平成20年度の全麻は、272件で千葉先生には、240件（88.2％、240/272）、平成21年度（2月末日まで）の全麻は283件で、野田先生には、117件（41.3％、117/283）を術者として経験いただきました。平成21年の出来事。1.第2回キッズ外科手術体験セミナーを平成21年7月12日（日）の盛岡市立病院デーに小学校高学年、中学生の40人を対象として行いました。当院の手術室にて、手洗い、手術着着衣、腹腔鏡下手術シュミレーター、超音波凝固切開装置、スキンステープラー、持針器、リニアステープラーを用いた疑似手術を体験してもらいました。今年は、若林教授にも子供たちのご指導を頂くことができ、希望者の倍率も高く、子供たちも外科に対し



職員誕生会、職員登山や院内卓球大会、星をみる会なども行っていますが、当院では職員同士の「あいさつ」を大切にし、新入職員（医師以外ですが）に対しては入社前に職種を超えたグループ研修を行っています。予め互いの職種や部署事情を知り、あいさつの言葉を交わすことで、早くから相手の立場を思いやる心が養われ、自然に患者さんに対する対応も優しくなれている印象を持っております。これからも患者さんや地域と身近に接し、信頼され親しまれる病院を目指したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



て非常に興味を持ってもらい、喜んでおりました。今後も小中学生から外科に対して関心を持ってもらえるように継続していきたいと思っております（Fig. 1）。2.平成21年7月16日大阪で行われた日本消化器外科学会総会において当院で経験した胆嚢MALTリンパ腫を千葉先生に発表いただき、夜は、当科の外来を手伝っていただいている岩谷先生も交えて三人で甲子園球場にて阪神戦観戦、その後は、街に繰り出し本場のお好み焼きを味わいました（Fig. 2）。3.平成21年9月オーストラリアのアデレードにて行われたISW2009で野田先生が口演されました。帰国後真っ赤なPeugeotのオープンカー（308cc）を購入し、助手席の須藤と二人で季節の風を感じています。当院は、中規模病院の機動性の良さを生かした医療、岩手医大外科の支援病院として使命を果たしていく所存であります。紹介患者は、必ず引き受けますのでお気軽にお電話いただければ幸いです。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

岩手県立宮古病院

Iwate Prefectural Miyako Hospital

岩手県立宮古病院は陸中海岸国立公園の高台にあり、太平洋を望む本州最東端の良好な環境にあります。平成21年度は病院機能評価受審があり、あわただしい年度でした。

平成21年の手術件数は472件（全麻391件、腰麻15件）。緊急手術は118件で3日に1件の割合で緊急手術をしています。鏡視下手術は103例（大腸癌など：13例、胆石：45例、うち急性胆嚢炎4例、急性虫垂炎：34例、胃・十二指腸潰瘍穿孔：3例など）でした。鏡視下大腸手術の際はいつも大学から応援をいただいております。

スタッフは菅野千治院長以下、亀井真理、菅原俊道、中屋 勉、小松英明の計5名と、不定期に研修医がローテーションしてきます。なお毎週水曜日午後から木曜日午前中には大学から松尾鉄平先生の応援をいただき、また小児外科の水野大准教授と、呼吸器外科の谷田達男教授に月一回、血管外科外来を循環器センタースタッフに週1回水曜日（2回から1回に減！）に御願いしています。さらに強力な助っ人として、医療クラーク（中村雅美さん）に診断書作成などの雑務をお願いしています。座り仕事の苦手な我々には本当にありがたい存在です。

岩手県立釜石病院

Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

県立釜石病院は、遠藤秀彦院長（S53卒）を筆頭に吉田徹（S59卒）、小原眞（H5卒）に加えて、今年度は県立大槌病院から石黒保直先生（H12卒）が、県立大船渡病院で研修を終えた西成悠先生がそれぞれ当院のメンバーに加わり、総勢5名のスタッフで、常勤医師の減少した三陸沿岸警備隊として日夜奮闘しております。大槌病院の外科常勤医が不在となったことにより、当院から週二回の外来診療応援と月二回の当直応援を派遣する事になりました。釜石市民病院との統廃合により救急を含めた症例数が増加した傾向は今年度も続き、総手術数は535件（うち全身麻酔330件）と過去最高となりました。また、大学からの消化器内科医派遣が打ち切りとなり、イレウスなどの消化器内科領域の入院を外科入院として管理したりPTCD等の治療的な手技を外科で施行したりとカバーが必要となりました。

石黒先生は見事、消化器外科専門医を取得し、消化器外



ご他聞に漏れず、当院での医療崩壊は更に拡大しており、特に内科系の医師の減少が大きく、院長以外は副院長も含めて原則医局員全員が日当直当番（二人体制）に当たっており、若手？医師（50歳以下）は月に4回程度の日当直があります。盛岡までヘリや救急車で搬送するのもおよそ日常茶飯事で、医局員の疲労は蓄積していく一方です。

そんなご時世ですが、これからも外科スタッフ一同、大学医局とも連携しつつ、無事に仕事をしていけるよう協力し合っていきたいと思っております。つきましては今後とも御指導、御支援のほどをよろしくお願い申し上げます。



科学会修練施設としてのスタッフは充実しております。

施設のハード面では病院新築計画はまだ現実化しませんが、今年度はPACSが導入され画像診断は快適な環境が整備されました。3月に病院機能評価の受審、来年度はDPC導入と大きなイベントが続きます。また放射線治療設備が予算化され新しい治療戦略の選択が可能となる予定です。

忙しい日常診療の中、日々のdutyのみに流される事な

く、月1回の抄読会を実施し、アップデートな情報も取り入れ、医局の先生方より手術指導を受けたり、学会・研究

岩手県立大船渡病院

Iwate Prefectural Ofunato Hospital

当院は、岩手県の沿岸南部の大船渡市にあり、気候は県内では温暖で、風光明媚なりアス式海岸を望む高台に位置しております。平成21年4月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、大船渡市、陸前高田市、住田町の二市一町、人口約8万人の気仙医療圏の中核病院として検診、診断、治療、緩和ケア、地域連携までがん診療のすべての役割を担っております。

病床数は489床で、開設12年目となる救命救急センター20床（ICU6床、HCU14床）を併設。日本救急医学会救急科専門医指定施設にも認定され、地域の救急医療も一手に受けております。また、災害医療にも力を入れ県内でもいち早くDMAT活動を開始しております。

医局からは、センターの当直派遣をいただき大変感謝しております。

メンバーは、八島良幸院長のもと、東北大学第二外科の小山田 尚 第一外科長（移植班）、玉手 義久 第二外科長（血管班）、上村 卓詞 救急医療科長（食道班）、尾崎 雄飛 医長とともに藤社 勉 消化器外科長、村上（緩和医療科長）です。

平成19年10月活動開始した緩和ケアチームは、藤社先生

会にも積極的に出席し、時流に遅れる事ない外科医療を、地域医療の中で展開していきたいと考えております。



がチームリーダーとして活躍しておりましたが、平成21年4月より村上が赴任し緩和医療科長専従として任務を受け継ぎ、藤社先生は消化器外科長として外科医としての腕をふるっていただいております。

平成21年の手術件数は、総数791件、全身麻酔501件、腰椎・硬膜外麻酔75件です。特徴として、肝胆膵系の手術が多く、肝切除24例、ラジオ波焼却15例、膵胆道系悪性腫瘍手術が20例（HPD1例を含むPD13例、肝切除を伴う胆嚢癌3例、葉切除を伴う肝門部胆管癌1例）でした。高度侵襲下手術では、術後は救急センターのICUで管理しています。また、緊急手術が165件と多く、大動脈瘤手術11件、下肢静脈瘤手術5例、静脈血栓症血栓除去3例と血管の手術も行っています。

北上済生会病院

Kitakami Saiseikai Hospital

2009年度の当院の出来事としては4月にリハビリテーション科が新設され、これにより病床数309床（一般305、感染症4）の新体制で診療が行われることになりました。リハビリ科は当院のみならず近隣の医療機関からの紹介も多く常にフル回転の状態で、スタッフの増員が早急な課題となっています。また、10月より米山幸宏医師（平成5年入局）が緩和ケア科科长となり、週一回県立中部病院緩和ケア科へ研修し、その経験、知識を当院へフィードバックしていただいております。加えて同月に筆者（青木毅一：平成6年入局）が消化器外科科長として赴任しております。従って、2009年12月現在、スタッフは齋藤院長、須原誠医師（昭和60年卒）と併せ4名となっています。さらに医局からは毎週月曜日に肥田医師、また9月までは毎週金曜午後より土曜日の当直までを御供医師の応援をいただいております。この場をお借りして、医局ならびに先生方へ感謝申し上げます。院内研修医は現在3名で、ローテーションにより外科スタッフとして約3ヶ月の研修をしております。研修中は主として基本的手術手技に加え全身管理な



ど、外科学講座同門の若手医師と同様の対応を意識して指導しております。

前述しましたが、北上市内には2009年4月に434床、25診療科を有する県立中部病院が開院しました。このことにより、夜間救急を含めた地域の診療体系が少なからず変化していることも事実です。消化器内科医、麻酔科常勤医の不在といったハンディは依然として存在しますが、北上市街地という立地条件、スタッフのフットワークの軽さを活かし、市民に愛される病院運営に貢献できるよう努力してゆきたいと考えております。



うこともあり、あまり気が進まなかったのが本音でした。しかしこれは国で決めたことですので致し方ありません。この研修会は皆さんもご存じのように2007年4月の『がん対策基本法』に基づき、国のがん対策推進基本計画ならびに岩手県のがん対策推進計画により2008年5月岩手県がん診療連携協議会が発足し、それにより今回の研修会が開催されたものであります。私が入局した頃の緩和医療と比べてみますと、内容が増え、充実したものになってきております。特に麻薬の種類はもとより、補助薬の増加に伴う使

い分け、用量・用法が複雑になり、取捨選択に迷ってしまうほどであります。今回の講習会により今までの知識を再確認するとともに、今後のケアにあたりなお一層努力しなければならない心境に駆られたのは私だけではないように思われました。皆様も受講されましたでしょうか？

また昨年は初めて教育セミナーも兼ね日本緩和医療学会にも参加して参りました。各施設での患者さんのケアに対する様々な取り組み、検討振り等を視えたことは今後の終末期ケアにおいて大変参考になりました。とりわけ訪問診療も行っている側としては注目を浴びている“在宅ケア”は興味深く聞くことができました。以上のように“がん診療”は飛躍の進歩・発展を遂げております。それもこれもがん患者の約半分、全国で推計68万人もの“がん難民”を救うためには喜ばしいことです。

ところで、既述したようにがん対策基本法が制定されて以来“緩和ケア”がよりいっそう注目を浴びるようになりましたが、日本緩和医療学会や緩和ケア医師研修会に参加して以来、ふと疑問・違和感を覚えたことがあります。それは、緩和ケアの定義の中で「・・・心理・社会的問題、スピリチュアル（霊的な・魂の）問題に関してきちんとした評価を行い、・・・」という文章や、また告知に関しても平成19年に厚労省から「終末期医療の決定プロセスに関するガイドラインについて」という通達の記載内容であります。再考すると種々の難題が浮かびあがりました。1つ目は、果して医師といえども患者の受容能力や安定した自我状態をしっかりと判断できるものなのか、ということ、2つ目は、その人の価値観や信念に関することをどのようにして判断するのか、とういこと、3つ目は、心理・社会的問題、スピリチュアルな問題に関してきちんとした評価を行うことができるのか、ということであります。浅学菲才な私には厳しい課題です。日々努力をしているところでありますがまだまだ思うようにはいきません。

加えて、今回の学会・研修会を通じて医療者主体・専門家主体の医療に偏っている感じが否めません。医療を受ける側（患者及びその家族）も医療者側に任せきりのような感じを受けます。医療者側は一所懸命に患者さんにケアを提供しておりますが、患者さん側としてはどうか？ 緩和に限らず、介護におきましても命（時間）が無限にあるという錯覚（死を受け入れられない）に陥っているため対応に苦慮するところであります。もちろん、痛患者さんに降りかかる様々な不安要素（苦痛、不安、恐怖、

無念、恨み、不満、怒り、絶望、不条理、など）は計り知れないものであることは想像を絶するものでありましよう。そのために緩和ケアがあるのであり、我々はいくらかでもその不安要素を和らげ、減らす努力は必要です。しかし、残念ながら決して“ゼロ”にはできないのではないかと思います。なぜなら本当の苦しみや不安は患者さん本人しか分らないと思うからです。とは言うものの、我々医療者はその僅かな隙間に入り、理解するという姿勢は崩してはならないと思います。そこで、患者さん（家族を含め）にも今一度考えていただきたいことは、自身も受け身の姿勢だけではなく、“死生観”を育む努力も必要ではないかということです。しかし実際には受け入れがたいのが現状でありましよう。そのような意味でも、医療に関わっている立場から、終末期医療や看取りに関する現状や問題、それらについての情報を少しでも提供し、啓蒙できればと願いながら診療にあたっているところです。“お年寄り”にほんとうに必要な…医療とは「看取り」であり、介護とは「お年寄りの毎日の暮らしを支え、生き方を支えること」だと思います。どのような患者さんであれ、病院を追い出されたり、見放されたという感情を持たれないような関わりが大切だと思います。外科診療の傍らで介護にも携わっておりますと緩和の世界も真に奥が深く、表裏一体感を覚える今日この頃です。今回のテーマは終末期医療に関し雑感も含め綴らせていただきました。

最期に、毎度繰り返して申し上げますが、この場をお借りしまして診療応援・当直応援等の多大なる御協力をいただいていることに心から有り難く、厚く御礼申し上げる次第であります。皆様、くれぐれも身体に気を付けて頂きたいと存じます。それではまた。



岩手県立千厩病院

Iwate Prefectural Senmaya Hospital

千厩病院です。今年はいつもより雪が多い東磐井地域でした。とはいえ、根雪も消えそろそろ春が気配も感じられます。皆様いかがお過ごしでしょうか。

当院もこの1年は常勤医の減少・病床数削減など厳しい状況が続いておりました。特に内科医の退職が難問で、最終的に消化器内科の常勤医は3人から1人体制となりました。そこで、伊藤院長が中心となり総合診療科を立ち上げることになりました。総合診療科では主に消化器内科以外の患者や専門科が決められない症例等を対象としています。県立病院OBや近隣の医師や伝手をたどってお願いした医師に協力を頂き1年間それなりに順調に運営されております。われわれ外科も全面的にバックアップをし、特に今までは消化器内科の先生にお願いすることの多かった経



函館五稜郭病院

Hakodate Goryoukaku Hospital

北海道の玄関である函館市は人口約30万。道南の基幹病院である函館五稜郭病院は、地域がん診療連携拠点病院、臨床研修指定病院、DPC対象病院、日本医療機能評価機構認定を取得。病床数532床、年間新入院数12000人で、病床利用率は85%、平均在院日数14日。外科の病床数は43床で、昨年1年間の入院数は約1600人。平成21年の当院の全手術件数は5400件で、外科は1311件（うち全麻949件）。大腸癌180例（鏡視下58%）、乳癌131例、胃癌117例（鏡視下32%）、肝胆膵の悪性58例、食道癌17例。主な良性疾患としては、胆石症185例（鏡視下86%）、ヘルニア170例、虫



皮内視鏡的胃瘻造設術を手掛け始めすでに20例を超えました。その他にも開腹での胃瘻・腸瘻造設術、長期呼吸器管理患者の気管切開術、脳卒中や肺炎の治療にも関わる機会が多くなりました。また、訪問診療に携わることも多くなりこんな山の中に、というところに出向く事もあります。さすがに熊や猪は見かけませんが狐や狸、時にはエゾシカなどに遭うことあるそうです。

本業の外科診療のほうですが、昨年の年間手術症例数は257例、うち全麻は143例とほぼ例年と同様でした。相変わらず高齢者が多く、疾患もさまざまです。常勤医、特に消化器内科が減少しているにもかかわらず前年並みの手術ができました。これも医局からの有形無形の援助の賜物と感謝いたしております。

まだまだ難局は続きますが、外科のみならず病院一丸となって地域医療を充実させていきたいと思っておりますので御指導御支援よろしく願いいたします。



垂炎60例（鏡視下98%）。全体の約10%が緊急手術。抗がん剤治療も最新の知見とエビデンスに基づきながら積極的に行っており、現在、29件の臨床試験が進行中です。

外科の一日は、8時30分のミーティングではじまり「報告、連絡、相談」を確認。9時からは外来診察と病棟回診です。9時30分から乳癌検診業務を交代で請け負います。手術は10時からスタートで、一日の手術件数は5-6件、手術日は原則として月曜日から金曜日です。私たちの仕事は臨床のみに偏ることなく、昨年は全国学会での発表38演題、論文掲載5編（英文1編）を完了。また、市民健康講座として「乳癌フォーラム」「最新の胃がん治療」を担当、「道南乳癌疾患研究会」「函館消化器がんミーティング」を主催しています。特に、昨年9月には、湯の川温泉にて「JCOG 胃がん外科グループ合同班会議」を開催でき、著名な先生方との交流を深めることができました。

当外科は、高金診療部長（科長兼務）の指導のもと、「笑顔とあいさつ」「だれもが納得できる治療」「公私ともに楽

八戸赤十字病院

Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

平成21年の当院外科スタッフは、佐瀬正博、玉沢佳之、細井信之、藤原久貴、有末篤弘（4～9月）・菅野公徳（9月～）の5人体制で診療を行って参りました。（ただし、残念ながら22年4月からは藤原、菅野は交代の予定です。）

当科の今年度最大トピックスは、長らく外科部長として勤めてこられた佐瀬が平成21年4月から副院長に就任されたことです。それに伴い、玉沢が外科部長に、細井が小児外科部長にそれぞれ昇格いたしました。

さらに佐瀬先生は5月で60歳を迎えられ、副院長就任と御還暦のお祝いの会を開催いたしました。当院にて勤務をいただいた先生方をお呼びし、大変楽しい会になりました。（川崎、藤沢、藤田、板橋、鴻ノ巣先生お忙しい中、八戸に来ていただきありがとうございました。）佐瀬先生



しい仲間作り」をモットーに、日々の診療に当たっています。平成18年より、各疾患毎に中心となる担当者を決め、当院における手術や治療方針のスタンダード化と、技術の維持・継承を徹底させてきました。各責任者は学会発表を行いながら最新情報を収集し新しい技術の導入の努力が義務づけられています。当院にて技術習得を希望する皆様には、外科医として必要な症例数をこなせるように、スタッフは教育にも積極的に取り組む所存です。下手な手術をいくつこなしても上手にはなりません。経験に裏打ちされた先輩の技術とトラブルシューティングの技を見て盗むことも大切と考えます。五病スタッフは技術指導を惜しみませんので、当院へ来られる教室員の方は、自分なりの到達目標を持って来ていただければ可能な限り希望に添いたいと思います。



にはモンベル社製の赤いキャップを被っていただきました。

院内のトピックスとしては、平成21年4月からのDPCの導入と平成22年1月からオーダリングのシステムコンピュータの更新がありました。特にシステムの更新に際は、新たに入院注射指示のが加わったため、年末年始からパソコンでの慣れない点滴指示だしで、いまだに大わらわの状態です。

さて診療状況ですが、ここ10年程順調に右肩上がりに増えてきた手術件数が平成21年（1月～12月の調べ）は、初めて減少しました（571から548）。特に急患手術の減少（82から49）が大きく、八戸市民病院の救急科の台頭によるものかと考えている所です。（八戸市全体の経済状況の悪化もあるかもしれません。）いずれにしても平成22年には再上昇出来よう頑張っ参ります。

P.S 写真、テニス、毛針の釣りの3会は健在です。

山本組合総合病院

Yamamoto Associated General Hospital

平成21年度の当院の外科スタッフは大山健一、千葉丈広、加藤久仁之の常勤医3名で診療を行っております。また研修医として鶴木和久が外科の研修を行いました。鶴木は岩手医大外科学講座への入局が決まりましたので今後は大学の先生方や関連病院の先生方にお世話になることがあると思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

平成21年度の総手術件数は332例で全身麻酔手術が245例となっており、昨年と比較して総件数で68例、全麻件数で50例の増加となっております。また大学からは佐々木章先生にSILS胃部分切除、SILS脾臓摘出など貴重な症例をご指導いただき、新田浩幸先生には腹腔鏡下肝切除2例を含めた計6例の肝切除のご指導をいただきました。更に肥田圭介先生にはLADG、大塚幸喜先生にはLACのご指導をいただきました。上記のような我々で対応できないような症例は遠路はるばるお越しいただいており、今後とも若林先生をはじめとし、大学の先生方のご助力を賜りながら何とか踏ん張っていきたいと思いますのでご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

当院の特徴としてはドックや町村検診に力を入れているところです。今年の乳癌検診はドックが4062名（うちMMG 1831名）で町村検診が1978名（うちMMG 690名）でした。この年間6000名を超える乳癌検診をスタッフだけでこなしておりますが、年々 MMGの数が増えかなりの負



担となってきているのが実状です。

今年のトピックスとしては来年度のDPC導入のために病棟の再編が行われました。外科の病床数は53床ありましたが、パスの症例が増え稼働率が低下しており、また外来部門の透析室や化学療法室が手狭となったことから三階の病棟を外来部門にして、外科病棟は七階に移り定床を29床にしました。不思議なことに病床が減ると患者が増え、今まであまり経験のないあちこちの病棟に患者がいるという状態になったりしています。このように現在病院をあげて改革に取り組んでおります。

最後に、交通の便が悪く当院での勤務を希望する先生はなかなかいないと思いますが、当院では手術症例のみならず様々な症例を経験することができます。経験を積むという点では悪くないと思っておりますので、若い先生方には是非来ていただきたいと考えております。

鹿角組合総合病院

Kazuno Associated General Hospital

平成21年、当鹿角組合総合病院外科スタッフは昨年同様、阿部薫と飯島信の常勤医二人体制で診療に従事しています。地理的には秋田県ですが、大学からは東北道で片道1時間圏内にある病院です。

手術に関して前年と比較すると、全体の手術件数自体はやや減少していましたが、全麻件数は増加していました。胃癌、結腸・直腸癌手術件数も増加しており、胃癌では、胃上部早期癌での噴門側胃切除や体部早期癌での幽門輪温存手術が増加していました。常勤医2人のため看護師のスコピストではありますが、結腸・直腸癌での鏡視下手術も増加していました。センチネルリンパ節検索や術後放射線療法の必要な乳癌患者や食道癌患者等は、大学医局での治療をお願いしています。

急患数は例年同様で、急性虫垂炎・大腿ヘルニア嵌頓・閉鎖孔ヘルニア・穿孔性十二指腸潰瘍などの手術でした。自然気胸に対する胸腔鏡手術も3件ありました。

外来化学療法室（3床）の運用を開始し2年以上が経過しました。現在は3床ですが、新病院では5床に増床する予定です。日本がん治療認定医機構の認定研修施設にも認定され、外来化学療法の益々の増加が見込まれます。

外科学会および消化器外科学会の関連病院として、若手



の先生が十分な診療・手術経験が得られるのはもちろんのこと、術者としての経験も豊富に得られます。外科医としての経験を積むにも、良い施設と考えます。

最後に新病院についてです。病院名を『かづの厚生病院』と変更し平成22年5月1日に移転・新築開業いたします。連休中に引っ越しをするため、実際の外来診療は連休明けの6日からとなります。

ベッド数は262床ですが、医師充足率不足のため50床を休床とし、212床からのスタートとなります。今後、医師数が定数を満たした段階で全床稼働となります。大学医局はもとより、岩手医科大学の御支援には感謝申し上げますが、今後とも更なる御支援・御鞭撻をお願いいたします。

2009年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくし治療させていただきます。また、地域連携バスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
青森県立はまなす医療療育センター	岩 崎 光 茂	031-0833	青森県	八戸市	大久保字大塚17-729
あおりPETセンター	佐々木 泰助輔	036-8183	青森県	弘前市	大字品川町31-3
青森労災病院	河 津 俊太郎	031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ヶ丘1番地
秋田組合総合病院	阿 部 栄 二	011-0911	秋田県	秋田市	飯島字西袋273-1
あさくらクリニック	朝 倉 慎 一	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑1-8-2
安代診療所	和 田 進	028-7534	岩手県	八幡平市	荒屋新町144番地1
あすみのクリニック	斉 藤 宏 之	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字湯舟沢479-2
安部医院	安 部 彦 満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23
あべ神経内科クリニック	阿 部 隆 志	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町6-6 熊長ビル1F
あべ内科消化器科クリニック	阿 部 礼 司	020-0146	岩手県	盛岡市	長橋町17-45
阿部内科小児科医院	阿 部 知 成	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野3-1-2
飯島医院	飯 島 仁	020-0172	岩手県	岩手郡滝沢村	鶉飼字狐洞1-277
いしだ外科胃腸科クリニック	石 田 茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F
石鳥谷医療センター	岡 田 弘	028-3163	岩手県	稗貫郡石鳥谷町	八幡5-47-2
板倉医院	板 倉 紀 子	023-0862	岩手県	奥州市	水沢区福吉町6-7
一関病院	加 藤 栄 一	021-0884	岩手県	一関市	大手町3-36
猪苗代病院	猪苗代 盛 貞	988-0017	宮城県	気仙沼市	南町1丁目3-7
今井産婦人科クリニック	今 井 俊 彦	020-0877	岩手県	盛岡市	下の橋1-5
岩手医大 循環器センター	岡 林 均	020-8505	岩手県	盛岡市	中央通1-2-1
岩手医大 花巻温泉病院	猪 又 義 男	025-0305	岩手県	花巻市	台第2地割85番1
岩手県対ガン協会	狩 野 敦	020-0835	岩手県	盛岡市	永井14-46
岩手県立 胆沢病院	松 本 登	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61
岩手県立 一戸病院	高 田 耕	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	字砂森60-1
岩手県立 磐井病院	鯉 名 勉	029-0131	岩手県	一関市	狐禅寺字大平17
岩手県立 江刺病院	小 岡 文 志	023-1103	岩手県	奥州市	江刺区西大通り5-23
岩手県立 大槌病院	岩 田 千 尋	028-1111	岩手県	上閉伊郡大槌町	新町8-14
岩手県立 大船渡病院	八 島 良 幸	022-0002	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1
岩手県立 釜石病院	遠 藤 秀 彦	026-0055	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6
岩手県立 軽米病院	横 島 孝 雄	028-6302	岩手県	九戸郡軽米町	軽米2-54-5
岩手県立 久慈病院	阿 部 正	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割 1 番
岩手県立 千厩病院	伊 藤 達 朗	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1
岩手県立 中央病院	佐々木 崇	020-0066	岩手県	盛岡市	上田14-1
岩手県立 中部病院	北 村 道 彦	024-8507	岩手県	北上市	村崎野17地割10
岩手県立 二戸病院	佐 藤 元 昭	028-6103	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2
岩手県立 沼宮内病院	佐 藤 芳 行	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	大字五日市第10地割4番地7

あ

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
岩手県立 宮古病院	菅 野 千 治	027-0096	岩手県	宮古市	崎鍬ヶ崎1-11-26
岩手県立 山田病院	及 川 修 次	028-1321	岩手県	下閉伊郡山田町	山田第5地割66番地1
岩手晴和病院	田 嶋 宣 行	020-0401	岩手県	盛岡市	手代森9-70-1
岩手保養院	森 莊 祐	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野3-14-1
植田内科消化器科医院	植 田 修	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字穴口183-3
白井循環器呼吸器内科	白 井 康 雄	020-0107	岩手県	盛岡市	松園2-2-6
内丸病院	日 下 純 男	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7
えいづか内科胃腸科クリニック	永 塚 健	020-0117	岩手県	盛岡市	緑が丘4-1-7
エイルクリニック	高 木 繁	160-0016	東京都	新宿区	信濃町33番地 真生会館ビル1F
江村胃腸科内科医院	江 村 洋 弘	020-0044	岩手県	盛岡市	城西町7-33
遠藤病院	遠 藤 哲 夫	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	葉ノ木沢山399-6
鶯宿温泉病院	石 田 薫	020-0573	岩手県	雫石町	南畑32-265
大内眼科クリニック	大 内 哲 也	024-0083	岩手県	北上市	柳原町4-17-39
おおうち消化器科内科クリニック	大 内 健	027-0077	岩手県	宮古市	館合町1-8
大通胃腸科内科	鈴 木 恒 男	020-0022	岩手県	盛岡市	大通り1-3-4-4 F
大船渡市国保 越喜来診療所	佐々木 道 夫	022-0101	岩手県	大船渡市	三陸町越喜来字所通26-1
おかだ外科内科クリニック	岡 田 伸 之	027-0025	岩手県	宮古市	実田2-5-10
岡田消化器科内科医院	岡 田 健 男	020-0875	岩手県	盛岡市	清水町3-5
荻野病院	荻 野 忠 良	020-0865	岩手県	盛岡市	本宮1-6-12
小原クリニック	小 原 紀 彰	025-0091	岩手県	花巻市	西大通り2-22-15
小保内医院	小保内 寿 人	020-0827	岩手県	盛岡市	鉾屋町5-21
かさい睡眠呼吸器クリニック	笠 井 良 彦	024-0011	岩手県	北上市	堤ヶ丘1-9-32
柏原医院	柏 原 紀 文	028-0304	岩手県	遠野市	宮守町字下宮守28-75
鹿角組合総合病院（厚生連）	松 谷 富美夫	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字八正寺13
かつら内科クリニック	桂 泰 鴻	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小板小瀬13-2
加藤胃腸科内科医院	加 藤 博 巳	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺中田207
かとう整形外科クリニック	加 藤 貞 文	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通2丁目8番1号
かなざわ内科クリニック	金 沢 英 夫	027-0023	岩手県	宮古市	磯鶏沖15-20
かなもり神経内科クリニック	金 森 一 郎	020-0100	岩手県	岩手郡滝沢村	字高屋敷平11-39
かねこ内科クリニック	金 子 能 人	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1－1－63
上ノ橋歯科クリニック	両 川 卓 司	020-0887	岩手県	盛岡市	上ノ橋1-45
川井中央診療所	高 木 秀 峯	028-2302	岩手県	下閉伊郡川井村	川井5-101-1
川久保病院	尾 形 文 智	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1
川村内科医院	川 村 光 郎	020-0883	岩手県	盛岡市	志家町4-4
川守田医院	川守田 安 彦	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	北日詰八反田53-1

あ

か

か

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
菅整形外科医院	菅 義 行	024-0071	岩手県	北上市	上江釣子16-51-2
菅整形外科・皮膚科クリニック	菅 栄 一	028-6103	岩手県	二戸市	石切所字川原38-1
菅野小児科医院	菅 野 恒 治	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸2-11-36
喜田医院	喜 田 恵 治	761-0104	香川県	高松市	高松町2500-5
北上済生会病院	斎 藤 和 好	024-8506	岩手県	北上市	花園町1-6-8
工藤内科医院	工 藤 博 司	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通1-7-13
久保田医院	久保田 公 宜	020-0147	岩手県	盛岡市	大館町26-3
熊谷内科胃腸科医院	熊 谷 和 久	025-0097	岩手県	花巻市	若葉町3-1-7
栗原クリニック	栗 原 英 夫	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-16-4
黒川産婦人科医院	黒 川 賀 重	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-51
慶應義塾大学病院	戸 山 芳 昭	160-8582	東京都	新宿区	信濃町35
孝仁病院	井 筒 俊 彦	020-2252	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
国際親善総合病院	村 井 勝	245-0006	神奈川県	横浜市泉区	西が岡1-28-1
国保 綾里診療所	横 山 龍 治	022-0211	岩手県	大船渡市	三陸町綾里字平館75-2
国保 金ヶ崎病院	佐々木 峻	029-4503	岩手県	胆沢郡金ヶ崎町	西根鍾水98
国保 葛巻病院	高 橋 克 郎	028-5402	岩手県	岩手郡葛巻町	葛巻16-1-1
国保 沢内病院	鈴 木 紀 行	029-5614	岩手県	和賀郡西和賀町	沢内字太田2-68
国保 西根病院	嶋 信	028-7112	岩手県	八幡平市	田頭22-79-1
国保 普代村診療所	工 藤 正一郎	028-8333	岩手県	下閉伊郡普代村	10-4-1
国立がんセンター中央病院	工 藤 了 介	104-0045	東京都	中央区	築地5-1-1
国立病院機構盛岡病院	山 口 一 彦	020-0133	岩手県	盛岡市	青山1-25-1
小坂内科消化器科クリニック	小 坂 陽 一	020-0834	岩手県	盛岡市	永井19-258-1
児島内科小児科医院	児 島 陽 一	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ3-11-36
後藤医院	後 藤 尚	028-1351	岩手県	下閉伊郡山田町	長崎4-12-10
後藤泌尿器科皮膚科医院	後 藤 康 文	027-0083	岩手県	宮古市	大通1-3-24
小林脳神経外科医院	小 林 東 洋	020-0117	岩手県	盛岡市	緑が丘4-7-34
こんの脳神経外科神経内科クリニック	今 野 譲 二	023-0818	岩手県	奥州市	水沢区字東町33-1
西城病院	西 城 健	021-0871	岩手県	一関市	八幡町2-43
済生会岩泉病院	柴 野 良 博	027-0501	岩手県	下閉伊郡岩泉町	岩泉字中家19-1
斉藤ささき医院	佐々木 正 孝	020-0816	岩手県	盛岡市	中野1丁目27-10
坂井医院	坂 井 博 毅	028-4307	岩手県	岩手郡岩手町	五日市10-151-1
桜井医院	櫻 井 昭 彦	023-0054	岩手県	奥州市	水沢区吉小路3
桜町病院	柴 崎 啓 一	184-8511	東京都	小金井市	桜町1-2-20
ささきクリニック	佐々木 盛 光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836
佐々木内科小児科医院	佐々木 勉	029-5505	岩手県	和賀郡西和賀町	30地割80-8

さ

さ

た

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
さとう胃腸科内科医院	佐 藤 治	020-0851	岩手県	盛岡市	向中野一丁目11-25
さとう消化器科内科クリニック	佐 藤 慎一郎	028-3101	岩手県	花巻市	石鳥谷町好地16-9-5
佐藤整形外科医院	佐 藤 知 義	023-0852	岩手県	奥州市	水沢区山崎8-1
佐藤内科クリニック	佐 藤 公 也	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3-1-24 第3菱和ビル4F
佐藤皮膚科医院	佐 藤 雅 子	020-0133	岩手県	盛岡市	青山3-6-3
佐藤雅夫クリニック	佐 藤 雅 夫	027-0074	岩手県	宮古市	保久田4-7
さわやかクリニック	田 村 茂	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	大字江刈内10-47-2
三愛病院	山 内 文 俊	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-31-31
三陸病院	三 浦 正 彦	027-0048	岩手県	宮古市	板屋1-6-36
雫石大森クリニック	大 森 浩 明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2
篠村外科医院	篠 村 達 雅	020-0524	岩手県	岩手郡雫石町	寺の下105-12
小豆嶋胃腸科内科クリニック	小豆嶋 正 和	020-0861	岩手県	盛岡市	仙北3-13-20
小豆嶋胃腸科内科クリニック	小豆嶋 正 博	024-0094	岩手県	北上市	本通り4丁目13-6
市立田沢湖病院	佐々木 英 人	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂17-1
紫波地域診療センター	小 野 満	028-3307	岩手県	紫波郡紫波町	桜町字三本木32
しんたろうクリニック	菊 池 信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1丁目9-1
すがさわ外科・内科クリニック	菅 澤 治 彦	025-0312	岩手県	花巻市	二枚橋6-440-1
鈴木整形外科	鈴 木 正 弘	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮字石仏20-1
鈴木内科医院	鈴 木 知 己	020-0872	岩手県	盛岡市	八幡町2-17
せいてつ記念病院	田名場 善 明	026-0052	岩手県	釜石市	小佐野町4-3-7
仙台オープン病院	宮 川 菊 雄	983-0824	宮城県	仙台市	宮城野区鶴が谷5-22-1
草加市立病院	高 元 俊 彦	340-8560	埼玉県	草加市	草加2丁目21番 1 号
総合花巻病院	大 島 俊 克	025-0075	岩手県	花巻市	花城町4-28
総合水沢病院	石 井 元 康	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町3-1
平館クリニック	土 谷 正 彦	028-7405	岩手県	八幡平市	平館第11-10-10
高橋内科胃腸科クリニック	高 橋 真	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字巣子1186-14
高松病院	田 中 哲 夫	020-0115	岩手県	盛岡市	館向町4-8
滝沢中央病院	小時田 宏 仂	020-0172	岩手県	岩手郡滝沢村	鵜飼字狐洞1-104
たぐち脳神経外科クリニック	田 口 壮 一	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通り1丁目4-19
田村医院	田 村 健 二	020-0833	岩手県	盛岡市	西見前15-112
足澤整形外科医院	足 澤 國 男	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰中新田252-2
ちだ内科・外科クリニック	千 田 明 紀	020-0824	岩手県	盛岡市	東安庭1丁目23-60
土川内科医院	土 川 伍 朗	020-0145	岩手県	盛岡市	上厨川字横長根76-3
照井内科消化器科医院	照 井 孝 臣	020-0015	岩手県	盛岡市	本庁通1-8-9
東海大学医学部付属八王子病院	北 川 泰 久	192-0032	東京都	八王子市	石川町1838

た

な

は

ま

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
東京大学医学部附属病院	武 谷 雄 二	113-8655	東京都	文京区	本郷7-3-1
遠山病院	千 葉 知	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町6-14
栃内第二病院	栃 内 秀 彦	020-0151	岩手県	岩手郡滝沢村	大釜字吉水103-1
とちない脳神経外科クリニック	栃 内 秀 士	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央3-17-10
栃内病院	岡 田 行 夫	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町2-28
都南病院	橋 本 光 彦	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前6-40-1
十和田市立中央病院	蘆 野 吉 和	034-0093	青森県	十和田市	西十二番町14-8
十和田東病院	和 田 幸 子	034-0001	青森県	十和田市	大字三本木字里ノ沢1-247
内科クリニックすずき	鈴 木 康 之	020-0105	岩手県	盛岡市	北松園2-15-4
直嶋医院	直 島 武 夫	028-3441	岩手県	紫波郡紫波町	上平沢字川崎84-1
中村医院	沖	020-0066	岩手県	盛岡市	上田3-4-38
成田内科胃腸科医院	成 田 知 史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第8地割101番地
新里医院	新 里 滋	028-0516	岩手県	遠野市	穀町13-1
西島こどもクリニック	西 島 浅 香	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-19-11
西島産婦人科医院	西 島 光 茂	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-19-11
西松園内科医院	斉 藤 恵 子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-1
二戸クリニック	青 木 光	028-6103	岩手県	二戸市	石切所字森合32-1
二宮内科クリニック	二 宮 一 見	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-47
ハートフルもりおか（老健）	立 花 崑	020-0384	岩手県	盛岡市	永井14地割15番地1
箱石整形外科医院	箱 石 勝 見	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田西一丁目23-15
はじめこどもクリニック	高 橋 肇	025-0097	岩手県	花巻市	若葉町1-2-33
八戸市立市民病院	三 浦 一 章	031-8555	青森県	八戸市	大字田向毘沙門平1
八戸赤十字病院	瀬 尾 喜久雄	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2
原田内科脳神経機能クリニック	原 田 達 男	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸3-2-1
坂東内科クリニック	坂 東 武 志	020-0025	岩手県	盛岡市	大沢川原1-3-17
東八幡平病院	及 川 忠 人	028-7303	岩手県	八幡平市	柏台2-8-2
平井医院	平 井 博 夫	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰字下丸森138-2
弘前大学医学部附属病院	花 田 勝 美	036-8563	青森県	弘前市	本町53
ひろし外科肛門科	吉 田 博	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1-3-10
福岡市立こども病院	福 重 淳一郎	810-0063	福岡県	福岡市	中央区唐人町2-5-1
プレスト齊藤外科クリニック	齊 藤 純 一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮字宮沢5-1
平和台病院	中 村 周 治	028-3311	岩手県	紫波郡紫波町	犬淵南谷地108-3
細井外科医院	細 井 照 彦	020-0025	岩手県	盛岡市	大沢川原2-1-2
堀江医院	堀 江 寛	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	大字西徳田6-143
松園第一病院	河 嶋 寛	020-0108	岩手県	盛岡市	東黒石野3-2-1

ま

や

わ

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
松園第二病院	後 藤 昌 司	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-3
間山皮膚科医院	間 山 岩 夫	026-0034	岩手県	釜石市	中妻町1-17-20
三島内科医院	佐 藤 倫 郎	020-0885	岩手県	盛岡市	紺屋町1-34
水沼内科循環器クリニック	水 沼 吉 美	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通2-11-12
水町クリニック	水 町 重 範	160-0703	東京都	新宿区	西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル3階
三井記念病院	高 本 眞 一	101-8643	東京都	千代田区	神田和泉町1番地
宮古山口病院	及 川 暁	027-0063	岩手県	宮古市	山口5-3-20
村田小児科医院	村 田 淳	020-0885	岩手県	盛岡市	紺屋町3-4
もりおか胃腸科内科クリニック	佐 藤 邦 夫	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通2-3-2
もりおか往診クリニック	木 村 幸 博	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前6-85-1
もりおかこども病院	米 沢 俊 一	020-0102	岩手県	盛岡市	上田松屋敷11-14
盛岡市立病院	加 藤 章 信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮字小屋敷15-1
盛岡赤十字病院	沼 里 進	020-0856	岩手県	盛岡市	三本柳6-1-1
盛岡友愛病院	長 澤 茂	020-0834	岩手県	盛岡市	永井12-10
森整形外科	森 茂 雄	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第25地割117-2
もりた整形外科	盛 田 健 郎	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸1-3-8
森谷医院	森 谷 耕太郎	020-0114	岩手県	盛岡市	高松3-11-29
八角医院	八 角 正 司	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木101-2
八角病院	遠 藤 憲 幸	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木70-190
山崎内科医院	山 崎 一 郎	022-0003	岩手県	大船渡市	盛町字内ノ目7-20
やまだ胃腸科・内科クリニック	山 田 宏 之	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央2-18-31
ゆとりが丘クリニック	高 橋 邦 尚	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字土沢541
ヨシザワ病院	芳 沢 正 幸	023-0881	岩手県	奥州市	水沢区北田14-1
吉田消化器科内科医院	吉 田 俊 巳	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前8-20-16
吉田整形外科・リウマチ科クリニック	吉 田 昌 明	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目9番28号 岩井ビル2階
吉田内科呼吸器科医院	吉 田 雅 美	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第2地割79-3
吉浜診療所	川 島 淳	022-0102	岩手県	大船渡市	三陸町吉浜字上野93番地1
予防医学協会	田 澤 稔	020-0834	岩手県	盛岡市	永井4-42
わたなべ肛門科クリニック	渡 邊 正 敏	020-0062	岩手県	盛岡市	長田町14-39

1. 学術論文

1-1 英文論文

1.Sasaki A,Nitta H,Otsuka K,Obuchi T,Kurihara H,Wakabayashi G : Endoscopic subtotal thyroidectomy: The procedure of choice for Graves' disease?, **World J Surg.**, 33(1),67-71,2009

2.Kato K,Maesawa C,Itabashi T,Fujisawa K,Otsuka K,Kanno S,Tada H,Tatemichi Y,Kotani K,Oikawa H,Sugai T,Wakabayashi G,Masuda T. : DNA hypomethylation at the CpG island is involved in aberrant expression of the L1 cell adhesion molecule gene in colorectal cancer., **Int J Oncol.**, 35(3),467-476,2009

3.Sasaki A,Nitta H,Otsuka K,Takahara T,Nishizuka S,Wakabayashi G : Ten-year experience of totally laparoscopic liver resection in a single institution., **Br J Surg.**, 96(3),274-9,2009

4.Habano W,Gamo T,Sugai T,Otsuka K,Wakabayashi G,Ozawa S. : CYP1B1, but not CYP1A1, is downregulated by promoter methylation in colorectal cancers., **Int J Oncol.**, 34(4),1085-1091,2009

5.Wakabayashi G,Nitta H,Takahara T,Shimazu M,Kitajima M,Sasaki A : Standardization of basic skills for laparoscopic liver surgery towards laparoscopic donor hepatectomy., **J Hepatobiliary Pancreat Surg.**, 16(4),439-444,2009

6.Wakabayashi G : Laparoscopic liver resection: how far can we go?, **J Hepatobiliary Pancreat Surg.**, 16(4),403-404,2009

7.Koeda K,Baba S,Takahashi M,Chiba T,Nakajima J,Nishizuka S,Sasaki A,Wakabayashi G : Laparoscopy-assisted pylorus-preserving gastrectomy: operative techniques and assessment of postoperative motor function by cine-MRI, **8th International Gastric Cancer Congress Proceedings**, 1(1),51-55,2009

8.Tomisawa Y,Ogasawara S,Kashiwaba M,Inaba T,Takeda Y,Sugimura Y,Hatakeyama G,Asahi H,Wakabayashi G : Mohs chemosurgery for local control of giant recurrent papillary thyroid cancer., **Thyroid**, 19(6),657-659,2009

9.Tsuchiya M,Otsuka Y,Tamura A,Nitta H,Sasaki A,Wakabayashi G,Kaneko H. : Status of endoscopic liver surgery in Japan: a questionnaire survey conducted by the Japanese Endoscopic Liver Surgery Study Group., **J Hepatobiliary Pancreat Surg.**, 16(4),495-409,2009

10.Takahashi M,Terashima M,Takagane A,Oyama K,Fujiwara T,Wakabayashi G : Ghrelin and leptin levels in cachectic patients with cancer of the digestive organs., **Int J Clin Oncol.**, 14(4),315-320,2009

11.Obuchi T,Sasaki A,Nakajima J,Nitta H,Otsuka K,Wakabayashi G : Laparoscopic surgery for splenic artery aneurysm., **Surg Laparosc Endosc Percutan Tech**, 19(4),338-340,2009

12.Nakajima J,Sasaki A,Obuchi T,Baba S,Nitta H,Wakabayashi G : Laparoscopic subtotal cholecystectomy for severe cholecystitis, **Surg Today.**, 39(10),870-875,2009

13.Baba S,Sasaki A,Nakajima J,Obuchi T,Koeda K,Wakabayashi G : Assessment of gastric motor function by cine magnetic resonance imaging., **J Gastroenterol Hepatol.**, 24(8),1401-1406,2009

14.Buell JF,Cherqui D,Geller DA,O'Rourke N,Iannitti D,Dagher I,Koffron AJ,Thomas M,Gayet B,Han HS,Wakabayashi G,Belli G,Kaneko H,Ker CG,Scatton O,Laurent A,Abdalla EK,Chaudhury P,Dutson E,Gamblin C,D'Angelica M,Nagorney D,Testa G,Labow D,Manas D,Poon RT,Nelson H,Martin R,Clary B,Pinson WC,Martinie J,Vauthey JN,Goldstein R,Roayaie S,Barlet D,Espat J,Abecassis M,Rees M,Fong Y,McMasters KM,Broelsch C,Busuttil R,Belghiti J,Strasberg S,Chari RS : The International Position on Laparoscopic Liver Surgery: The Louisville Statement, 2008., **Ann Surg**, 250(3),825-830,2009

15.Iwaya T,Kimura Y,Nishizuka S,Uesugi N,Noda Y,Kimura T,Koeda K,Maesawa C,Ikeda K,Sasaki A,Wakabayashi G : Multiple lesions of adenocarcinoma with extensive dysplasia in long-segment Barrett's esophagus treated with thoracoscopic surgery: a case report, **esophagus**, 6(4),201-204,2009

16.Tamura G,So K,Miyoshi H,Honda T,Nishizuka S,Motoyama T : Quantitative assessment of gene methylation in neoplastic and non-neoplastic gastric epithelia using methylation-specific DNA microarray, **Pathol Int**, 59(12),895-899,2009

1-2 和文論文

1.梅邑 晃：全身麻酔手術後人工呼吸管理の臨床検討，**日本臨床外科学会誌**，70(1),23-27,2009

2.星川 浩一，新田 浩幸，板橋 英教，高橋 正浩，佐々木 章，斎藤 和好，上杉 憲幸，菅井 有，藤岡 知昭，若林 剛：肝細胞癌と腎細胞癌の同時性重複癌に対する 1 切除症例，**岩手医誌**，61(1),31-36,2009

3.藤田 倫寛，新田 浩幸，西塚 哲，石橋 正久，板橋 英教，塩井 義裕，伊藤 直子，高原 武志，上杉 憲幸，若林 剛：術前診断が困難であった脾 solid pseudopapillary tumor の 1 切除例，**岩手医誌**，61(1),41-46,2009

4.若林 剛，新田 浩幸，高原 武志，伊藤 直子，藤田 倫寛，大淵 徹，中嶋 潤，佐々木 章：【臓器移植と内視鏡下手術】腹腔鏡補助下ドナー肝切除の意義と手技，**日本内視鏡外科学会雑誌**，14(2),155-160,2009

5.柏葉 匡寛，稲葉 亨，武田 雄一郎，小松 英明，滝山 郁雄，上杉 憲幸，若林 剛：原発乳癌における HER2/neu 細胞外ドメイン測定の有用性ー新規測定系ケミルミ Centaur-HER2/neu での日本人での検証，**乳癌の臨床**，24(1),109-113,2009

6.田村 元，西塚 哲：高密度逆相蛋白質ライセートマイクロアレイ，**病理と臨床**，27(4),402-403,2009

7.高原 武志，新田 浩幸，若林 剛：【消化器癌～診断・治療のすべて】臨床症状からの癌診断プロセス 腹部腫瘍，**消化器外科**，32(5),627-631,2009

8.藤田 倫寛，細井 信之，玉澤 佳之，川崎 雄一郎，藤原 久貴，新田 浩幸，佐瀬 正博，若林 剛：腹腔鏡補助下に摘出した有鉤義歯誤嚥の 1 例，**岩手医誌**，61(1),37-40,2009

9.梅邑 晃：症状緩和手術としての胃空腸バイパス手術症例の臨床検討，**日本臨床外科学会誌**，70(4),962-967,2009

10.中嶋 潤，佐々木 章，新田 浩幸，大淵 徹，馬場 誠朗，若林 剛：腹腔鏡下尾側脾切除術，**医薬の門**，49(2),170-172,2009

11.藤田 倫寛，新田 浩幸，佐々木 章，若林 剛：【マスターしておきたい標準的内視鏡外科手術】標準的腹腔鏡下肝切除術，**外科治療**，100(増刊),555-562,2009

12.田辺 稔，若林 剛，日比 泰造，篠田 昌宏，河地 茂行，上田 政和，北川 雄光：【肝癌 基礎・臨床研究のアップデート】肝癌の治療 肝細胞癌に対する凍結治療，**日本臨床**，67(増刊号 3),577-582,2009

13.佐々木 章，中嶋 潤，大淵 徹，馬場 誠朗，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，栗原 英夫，若林 剛：パセドウ病に対する内視鏡下甲状腺垂全摘術の要点，**外科治療**，100(5),721-726,2009

14.富澤 勇貴，池田 健一郎：【静脈・経腸栄養 UPDATE2009】ライフステージ別栄養ケア 超高齢者の周術期栄養管理（解説／特集），**臨床栄養**，114(6),725-730,2009

15.大淵 徹，佐々木 章，下沖 収，皆川 幸洋，阿部 正，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，池田 健一郎，若林 剛：脾癌局所再発に対して有効であった化学放射線療法，**癌と化学療法**，36(6),991-994,2009

16.大塚 幸喜，板橋 哲也，佐々木 章，藤澤 健太郎，木村 聡元，細井 信之，木村 祐輔，新田 浩幸，肥田 圭介，池田 健一郎，若林 剛：【根治性と QOL からみた直腸癌手術のすべて】腹腔鏡下低位前方切除術，**消化器外科**，32(7),1175-1186,2009

17.西塚 哲，若林 剛：蛋白定量解析の癌病態解明における役割，**日本癌病態治療研究会誌**，15(1),42-44,2009

18.木村 祐輔，池田 健一郎，曽根 美幸，渡部 雄輝，大畑 光彦，磯野 寿育，古屋 純一，織田 展輔，長澤 昌子，米澤 裕司，森 薫，中嶋 英一，佐藤 沙央里，齋藤 俊哉，青木 慎也，若林 剛：【緩和ケアチームの現状と展望】当院における緩和ケアチームの活動状況と今後の展望，**癌の臨床**，55(6),421-426,2009

19.佐々木 亮孝，高原 武志，新田 浩幸，若林 剛，近藤 匠，福永 潔，小田 竜也，大河内 信弘：肝門部胆管癌に対する“胆管分離限界点”を意識した 3-D integrated CT と 3 次元肝画像解析ソフトを用いた精緻な術前診断，**日本消化器病学会総会記念誌**，104-109,2009

20.若林 剛，佐々木 章，古川 俊治，北島 政樹：【近未来の新たな手術ーロボット手術と NOTES】肝胆脾領域におけるロボット手術，**外科治療**，101(1),21-27,2009

21.高原 武志，新田 浩幸，佐々木 章，伊藤 直子，藤田 倫寛，若林 剛：【肝胆脾手術における皮膚切開・術野展開の工夫】腹腔鏡（補助）下の肝切除，**手術**，63(8),1123-1128,2009

22.佐々木 亮孝，若林 剛，小田 竜也，村田 聡一郎，大河内 信弘：リンパ節転移からみた胆嚢癌に対する脾頭十二指腸切除の意義，**臨床外科**，64(8),1101-1106,2009

23.佐々木 章，新田 浩幸，高原 武志，藤田 倫寛，大淵 徹，中嶋 潤，大塚 幸喜，肥田 圭介，水野 大，池田 健一郎，若林 剛：【腫瘍占居部位からみた肝切除の手技と工夫】完全腹腔鏡下肝切除術，**消化器外科**，32(2),221-228,2009

24.野田 宏伸，西塚 哲，石田 和茂：シスプラチン抵抗性胃癌細胞集団の単離とその性質の検討，**岩手医誌**，61(3),151-159,2009

25.小西 康弘，菅井 有，幅野 渉，大塚 幸喜，若林 剛：胆管分離法を用いた multiploid 大腸癌の分子病理学的解析，**岩手医誌**，61(3),161-176,2009

26.菅井 有，幅野 渉，遠藤 昌樹，赤坂 理三郎，小飯塚 仁彦，小西 康弘，無江 良晴，肥田 圭介，若林 剛，鈴木 一幸：【背景粘膜からみた胃癌ハイリスクグループ】病理の立場からみた胃癌ハイリスクグループ 分子生物学的立場からみた胃癌発生：粘液形質に基づいた胃分化型粘膜内癌の分子病理学的解析，**胃と腸**，44(9),1432-1440,2009

27.水野 大，福澤 太一，有末 篤弘，若林 剛：【小児外来必携 お子さまの病気を専門医がわかりやすく説明します】梨状窩瘻 2 歳男児で甲状腺の炎症を繰り返しています。抗生剤の治療を続けるだけでよいのでしょうか，**小児外科**，41(8),782-783,2009

28.佐々木 亮孝，若林 剛，小田 竜也，村田 聡一郎，大河内 信弘：【胆嚢癌根治手術をめぐる諸問題】[PD の意義] リンパ節転移からみた胆嚢癌に対する脾頭十二指腸切除術の意義，**臨床外科**，64(8),1101-1106,2009

29.菅井 有，赤坂 理三郎，小西 康弘，無江 良晴，千葉 俊美，山野 泰穂，大塚 幸喜，若林 剛，鈴木 一幸：【いまこそ de novo 癌】de novo 癌の発育過程 臨床病理学的ならびに遺伝子学的解析から 大腸癌における de novo 型癌の分子異常，**Intestine**，13(4),421-426,2009

30.柏葉 匡寛，稲葉 亨，武田 雄一郎，小松 英明，川岸 涼子，若林 剛：【がんの適切なフォローアップ計画】乳癌の適切なフォローアップ計画，**癌と化学療法**，36(9),1423-1427,2009

31.稲葉 亨，柏葉 匡寛，武田 雄一郎，小松 英明，富澤 勇貴，滝山 郁雄，若林 剛：当科における再発乳癌に対する Capecitabine 療法の検討，**癌と化学療法**，36(5),769-772,2009

32.若林 剛：【患者目線のがん医療 プライマリ・ケア医が知っておきたい最新治療と周辺情報】トピックス 最近のがん治療 肝癌，**治療**，91(10),2467-2475,2009

33.池田 健一郎，若林 剛：【患者目線のがん医療 プライマリ・ケア医が知っておきたい最新治療と周辺情報】心のケア・がんサロン・代替医療がんサロン（患者・家族が参加するがん医療），**治療**，91(10),2424-2499,2009

34.若林 剛，新田 浩幸，高原 武志，伊藤 直子，藤田 倫寛，板橋 英教，佐々木 章：【移植手術手技の進歩】腹腔鏡下ドナー肝切除 生体肝移植ドナーの負担軽減のため，**移植**，44(5),409-414,2009

研究業績

35. 武田 雄一郎, 杉村 好彦, 小川 雅彰, 馬場 祐康, 畠山 元, 若林 剛 : MDCT で術前診断し, 腹腔鏡下虫垂切除術を施行した虫垂憩室炎の 1 例, **日本臨床外科学会雑誌** ,70(10),3041-3045,2009
36. 中嶋 潤, 佐々木 章, 若林 剛 : 昨日の常識 : 急性胆嚢炎は保存的治療を優先する今日の常識 : 急性胆嚢炎は早期の腹腔鏡下胆嚢摘出術を行う , **治療** ,91(12),2780-2781,2009
37. 中嶋 潤, 佐々木 章, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 高原 武志, 新田 浩幸, 池田 健一郎, 若林 剛 : 高齢者に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の検討 , **胆道** ,23(5),756-761,2009
38. 佐々木 章, 新田 浩幸, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 若林 剛 : 【内視鏡手術－もう一步のステップアップのために】 腹腔鏡下脾臓摘出術, **臨床外科** ,64(13),1703-1707,2009
39. 梅邑 晃 : 食道接合部に発生した食道扁平上皮癌と胃腺癌の衝突癌の 1 例, **日本消化器外科学会誌** ,42(9),1460-1465,2009
40. 加藤 久仁之, 目黒 英二, 榎藤 なおみ, 秋山 有史, 高金 明典, 池田 健一郎 : 大網原発神経鞘腫の 1 例, **日本臨床外科学会雑誌** ,70(9),2839-2843,2009
41. 加藤 久仁之, 小林 慎, 榎藤 なおみ, 秋山 有史, 入野田 崇, 早川 善郎, 目黒 英二, 高金 明典 : 成人特発性気腹症の 1 例, **函館五稜郭病院医誌** ,17,24-27,2009
42. 加藤 久仁之, 小林 慎, 目黒 英二, 入野田 崇, 早川 善郎, 高金 明典 : 歯牙迷入による急性虫垂炎の 1 例, **日本臨床外科学会雑誌** ,70(5),1425-1428,2009

2. 著 書

1. 鈴木 泰, 佐藤 信博, 小鹿 雅博, 柴田 繁啓, 高橋 学, 若林 剛, 遠藤 重厚 : 重症敗血症と敗血症性ショックの治療における Surviving Sepsis Campaign guidelines の再評価 ,**Shock** ,23(2),48-52,2008
2. 池田 健一郎 : 第 1 部 栄養療法の基礎 栄養アセスメント④尿中尿素窒素および窒素化合物,**NST 完全ガイド 改訂版 経腸・静脈栄養の基礎と実践 照林社** ,1,13-14,2009
3. 若林 剛 : 責任編集者, **医学書院 医学大辞典** ,2(1),1,2009
4. 若林 剛 : 急性膵炎 b. 外科的治療, **消化器疾患 最新の治療 2009-1010 南江堂** ,391-394,2009
5. 新田 浩幸, 若林 剛 : 肝外側区域切除術, **Digestive Surgery NOW No.3 第2版 肝・脾外科標準手術 操作のコツとトラブルシューティング** ,1,60-72,2009
6. 池田 健一郎, 木村 祐輔 : 4 経腸栄養剤の種類と特性 -5 剤型の種類と特徴, **経腸栄養剤の種類と選択 改訂版 フジメディカル出版** ,1,49-51,2009
7. 池田 健一郎 : 4 血清マグネシウム A 体内マグネシウムの分布と生理活性 B 高マグネシウム血症 C 低マグネシウム血症, **身につく水・電解質と酸塩基平衡 症例満載！基礎から学ぶ臨床輸液 南江堂** ,1,72-76,2009
8. 池田 健一郎 : 5 血清リン A 体内リン分布と血清リン調節機構 B 高リン血症 症例 1 症例 2 C 低リン血症 症例 3, **身につく水・電解質と酸塩基平衡 症例満載！基礎から学ぶ臨床輸液 南江堂** ,1,77-86,2009
9. 池田 健一郎, 小鹿 雅博, 青木 毅一, 大塚 幸喜, 若林 剛 : 7. 腸閉塞 症例 7 急性虫垂炎穿孔性腹膜炎手術の既往がある 36 歳女性が腸閉塞を併発, **ケースで学ぶ栄養管理の思考プロセス 消化管・消化器疾患 文光堂** ,1,68-76,2009
10. 柏葉 匡寛, 佐藤 誠志, 若林 剛 : 12. 乳癌における緩和医療の意義, **改定 2 版乳癌診療ハンドブック** ,1(1),339-349,2009
11. 池田 健一郎, 遠藤 龍人, 富澤 勇貴 : 第 1 部 静脈栄養・経腸栄養を始める前に栄養アセスメントの実際, **新・静脈栄養・経腸栄養ガイド NST に必須の知識と実践のすべて Medical Practice 文光堂** ,26(臨時増刊),30-38,2009
12. 池田 健一郎, 遠藤 龍人, 富澤 勇貴 : 第 1 部 静脈栄養・経腸栄養を始める前に 栄養アセスメントの実際, **内科総合誌 Medical Practice 新・静脈栄養・経腸栄養ガイド NST に必須の知識と実践のすべて 文光堂** ,26(臨増),30-38,2009
13. 木村 祐輔, 池田 健一郎, 岩谷 岳, 野田 芳範, 御供 真吾, 肥田 圭介, 高橋 正統, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 若林 剛 : 症例で学ぶ栄養アセスメントと栄養療法 食道癌周術期, **ニュートリションケア 2009 年秋期増刊号** ,1,88-96,2009
14. 池田 健一郎, 若林 剛 : 消化器癌化学療法施行時の栄養管理と消化器癌患者に対する緩和医療 1 癌化学療法時の栄養管理, **オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法 改訂第2版 南山堂** ,1(1),351-358,2009
15. 池田 健一郎 : 3 章 全科共通！栄養管理計画の 7 大ポイント 4 周術期・集中治療, **JJN スペシャル「治る力」を引き出す 実践！臨書栄養** ,87,153-161,2009

3. 学会発表

3-1 国際学会

2009 Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, CA, 2009/1/15~1/17.

1. Koeda K, Fujiwara H, Takahashi M, Chiba T, Iwaya T, Kimura Y, Nishizuka S, Ikeda K, Kashiwaba M, Wakabayashi G : Intraperitoneal infusion (IP) of cisplatin with S-1 in untreated advanced gastric cancer patients with peritoneal dissemination, Poster Presentation.
2. Kimura Y, Ikeda K, Iwaya T, Koeda K, Noda Y, Kimura T, Otauka K, Nitta H, Sasaki A, Kashiwaba M, Wakabayashi G : Salvage esophagectomy after definitive chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinomas, Poster Presentation.
3. Takahara T, Nitta H, Fujita T, Obuchi T, Hoshikawa K, Nakajima J, Nishizuka S, Kashiwaba M, Sasaki A, Ikeda K, Wakabayashi G : Phase I study of adjuvant chemotherapy : Combination of gemcitabine and S-1 in patients with advanced biliary cancer, Poster Presentation.

2009 ZENITH meeting, Seville, Spain, 2009/1/23~1/25.

1. Kashiwaba M, discussion.

ASIA PACIFIC SUMMIT maximizing long-term outcomes in solid organ transplantation, Miyazaki, Japan, 2009/2/14~2/15.

1. Wakabayashi G : Laparoscopic Hepatectomy in Living Donors, Oral Presentation.

St. Gallen Conference 2009 レポート , St. Gallen, Switzerland, 2009/3/12.

1. Kashiwaba M, Panelist.

GSK Expant Round Table, St. Gallen, Switzerland, 2009/3/13.

1. Kashiwaba M, Panelist.

Japanese Breast Cancer Workshop for St. Gallen Conference 2009, St. Gallen, Switzerland, 2009/3/14.

1. Kashiwaba M, Panelist.

2nd Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association (A-PHPBA 2009), Thailand, Bangkok, 2009/3/25~3/27.

1. Wakabayashi G : Various types of laparoscopic liver resection-its technique and our results, Video symposium2.

2nd Annual BIT Life Science PepCon-2009, Seoul, 2009/4/2~4/2.

1. Nishizuka S : Predicting anti-cancer drug sensitivity by high-dimensional quantitative protein monitoring of cellular signal transduction , Invited Presentation.

100th American Association for Cancer Research, Denver, Colorado, 2009/4/18~4/22.

1. Nishizuka S, Noda H, Ishida K, Iwaya T, Wakabayashi G : Development of in vitro chemotherapy-resistant model system based on their protein kinetics in response to drug exposure, Poster Presentation.

Anti-angiogenesis Clinical Experience Exchange Meeting, Madrid, Spain, 2009/4/25~4/26.

1. Kashiwaba M, Panelist.

GSK Asia Pacific Area Medical Conference, Taipei, Taiwan, 2009/5/1.

1. Kashiwaba M, discussion..

5th Meeting of Korean Laparoscopic Liver Surgery Study Group, Korea, 2009/5/28~5/30.

1. Wakabayashi G : Current status and future aspects of laparoscopic liver surgery in Japan and Korea, Oral Presentation.

8th International Gastric Cancer Congress, Krakow, Poland, 2009/6/10~6/13.

1. Koeda K, Baba S, Takahashi M, Chiba T, Nakajima J, Nishizuka S, Sasaki A, Wakabayashi G : Laparoscopy-assisted pylorus-preserving gastrectomy: operative techniques and assessment of postoperative motor function by cine-MRI, Oral Presentation.
2. Takahashi M, Koeda K, Fujiwara H, Chiba T, Takagane A, Ikeda K, Wakabayashi G : Cases of advanced gastroesophageal cancer underwent curative resection after responding to chemoradiotherapy, Poster Presentation.

17th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery (EAES), Prague, 2009/6/17~6/20.

1. Sasaki A, Nakajima J, Obuchi T, Baba S., Nishizuka S, Nitta H, Otsuka K, Koeda K, Mizuno M, Ikeda K, Wakabayashi G : Laparoscopic and retroperitoneoscopic adrenalectomy: 16-year experience, Poster Presentation.
2. Obuchi T, Sasaki A, Nakajima J, Baba S, Nitta H, Otsuka K, Koeda K, Ikeda K, Wakabayashi G : Long-term results after laparoscopic Heller myotomy and Dor fundoplication for achalasia, Poster Presentation.

The International Liver Transplantation Society 15th Annual International Congress,New York,America,2009/7/8～7/11.

- 1.Wakabayashi G,Nitta H,Takahara T,Tanabe M,Hoshino K,Shimazu M：Laparoscopy-assisted live donor hepatectomy -Its significance and initial results,Oral Presentation.

Laparoscopic Surgery New Technique Symposium Hangzhou,China,2009/8/2～8/5.

- 1.Wakabayashi G：Current and Future for Laparoscopic Liver Resection,Chairman.

International Surgical Week 2009,Adelaide,Australia,2009/9/6～9/10.

- 1.Baba S,Sasaki A,Nakajima J,Obuchi T,Koeda K,Mizuno M,Ikeda K,Wakabayashi G：Assessment of gastric motility and emptying using cine magnetic resonance imaging,Poster Presentation.
- 2.Chiba T,Nishizuka S,Takahashi M,Uesugi N,Sugai T,Fukushima N,Tamura G,Koeda K,Wakabayashi G：Tissue microarray protein expression profiling of advanced gastric cancer treated by preoperative chemotherapy,Poster Presentation.
- 3.Fujita T,Nitta H,Wakabayashi G：Is routine placement of surgical drains necessary after laparoscopic liver resection?, Poster Presentation.
- 4.Nakajima J,Sasaki A,Otuka K,Itabashi T,Obuchi T,Baba S,Nitta H,Koeda K,Ikeda K,Wakabayashi G：Risk factors of postoperative ileus after colorectal surgery,Poster Presentation.
- 5.Noda H,Nishizuka S,Wakabayashi G：Characterization of cisplatin-resistant gastric cancer cell population by protein kinetic analysis ,Oral Presentation.
- 6.Noda Y,Nishizuka S,Wakabayashi G：Physical distribution of platinum monitoring using PIXE in esophageal cancer patients after cisplatin administration",Poster Presentation.
- 7.Tomisawa Y,Inaba T,Kashiwaba M,Takeda Y,Ogasawara S,Wakabayashi G：White blood count as a prognostic marker of anaplastic thyroid cancer,Poster Presentation.
- 8.Umemura A,Kitamura M：ANALYSIS OF CASES WHO UNDERWENT GASTRO-JEJUNOSTOMY FOR INTESTINAL OBSTRUCTION BY MALIGNANT TUMOR,Poster Presentation.
- 9.Wakabayashi G：ISS/SIC/ISDS Free Papers Biliary tract,Chairman.
- 10.Wakabayashi G：Bioartificail liver in fulminant hepatic failure: how close to clinical use?,Invited Presentation.

19thWorld congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists, and Oncologists(IASGO), Beijing,China,2009/9/23～9/26.

- 1.Wakabayashi G：Live Demonstration of Laparoscopic Liver Surgery,Chairman.
- 2.Wakabayashi G：Video Festival: Pancreatic Surgical Procedures Part I,Chairman.
- 3.Wakabayashi G：Clinical Case and Free Paper Presentations: Challenging Clinical Practice Part II,Chairman.
- 4.Wakabayashi G：Laparoscopy-assisted Donor Hepatectomy: Its Technique and Initial Results,Oral Presentation.

ASCO-BreastCancer Symposium 2009,SanFrancisco,USA,2009/10/8～10/10.

- 1.Kashiwaba M,Inaba T,Takeda Y,Komatsu H,Kawagashi R：A pilot study of primary systemic therapy with weekly trastuzumab and paclitaxel followed by epirubicin/cyclophosphamide and sequential trastuzumab monotherapy for HER2-positive advanced breast cancer,Oral Presentation.

95th American College of Surgeons Annual Clinical Congress(ACS),Chicago,2009/10/11～10/15.

- 1.Wakabayashi G：Current Concepts in the Treatment of Metastatic Liver Disease,Video Session.

ICS 2009 Beijing Conference,Beijing,China,2009/11/13～11/16.

- 1.Nitta H：Laparoscopy-assisted major liver resections employing a hanging technique,Symposium.

AstraZeneca Asia Innovators Meeting,Busan,Korea,2009/11/28～11/29.

- 1.Kashiwaba M,Chairman.

SanAntonio Breast Cancer Symopium Japanese Investigator Round Table,SanAntonio,USA,2009/12/10.

- 1.Kashiwaba M,Workshop.

AstraZeneca Workshop in SanAntonio,SanAntonio,USA,2009/12/12.

- 1.Kashiwaba M,Workshop.

3-2 国内学会**第 24 回日本静脈経腸栄養学会，鹿児島，2009/1/29～1/30.**

- 1.高橋 麻衣子，菅原 敦子，遠藤 桂，栗谷川 洋子，高橋 あつ子，俵 万里子，三浦 吉範，山内 敏司，阿部 里紗子，織田 展輔，古谷 純一，富澤 勇貴，青木 毅一，遠藤 龍人，池田 健一郎，加藤 章信：癌化学療法施行患者に対する緩和ケア NST の導入と意義，一般口演．
- 2.佐々木 章，肥田 圭介，前沢 千早，大淵 徹，中嶋 潤，藤田 倫寛，高原 武志，新田 浩幸，大塚 幸喜，水野 大，池田 健一郎，金子 能人，佐藤 譲，若林 剛：腹腔鏡下肥満手術の減量効果と関連健康障害への影響解析，助成金受諾者セッション．

- 3.佐藤 沙史里，俵 万里子，杉下 佳子，小原 美由紀，岩動 美奈子，二本木 寿美子，遠藤 龍人，池田 健一郎，古城 慎太郎，水城 春美，曾根 美雪，加藤 健一，中里 龍彦，江原 茂：化学放射線治療を施行した口腔癌症例に対する経胃瘻栄養管理の有用性，一般示説．

- 4.織田 展輔，古谷 純一，鈴木 哲也，阿部 里紗子，古城 慎太郎，佐藤 沙史里，高橋 一枝，栗谷川 洋子，佐藤 祐子，加藤 理恵子，富澤 勇貴，青木 毅一，遠藤 龍人，池田 健一郎：口腔機能と全身状態が経口摂取開始に与える影響，一般口演．

- 5.清水 敦哉，池田 健一郎，岡田 晋吾，小川 滋彦，楠 裕明，柴田 近，土屋 誉，山口 浩和：日本栄養材形状機能研究会研究ワーキンググループの活動状況について，形状機能研究会報告．

- 6.俵 万里子，小原 美由紀，岩動 美奈子，佐藤 沙史里，高橋 一枝，二本木 寿美子，高橋 麻衣子，遠藤 桂，菅原 敦子，豊巻 和司，工藤 正樹，富澤 勇貴，青木 毅一，遠藤 龍人，池田 健一郎：PG-SGA による消化器癌患者の術前栄養アセスメント，一般口演．

- 7.富澤 勇貴，池田 健一郎，新田 浩幸，青木 毅一，中嶋 潤，板橋 哲也，伊藤 直子，星川 浩一，藤田 倫寛，肥田 圭介，佐々木 章，若林 剛：経皮経食道胃管挿入術 (PTEG) に特有な合併症の検討，一般口演．

- 8.福島 亮治，大柳 治正，田中 芳明，福田 能啓，白木 亮，大村 健二，富田 真佐子，池田 健一郎，山口 浩司，若佐 正人，外山 健二，土師 誠二，東口 高志，足立 香代子，小山 諭，城谷 典保：Nutrition Day—日本からの参加意義と今後の課題，一般口演．

* 池田 健一郎：要望演題 癌治療と栄養療法—1，座長．

第 81 回日本胃癌学会，東京，2009/3/4～3/6.

- 1.高橋 正統，肥田 圭介，藤原 久貴，千葉 丈広，若林 剛：当科における Stage II / III 胃癌切除症例に対する TS-1 術後補助療法の現状，一般示説．
- 2.千葉 丈広，西塚 哲，高橋 正統，上杉 憲幸，菅井 有，福島 雅紀，田村 元，肥田 圭介，若林 剛：組織マイクロレイを用いた進行胃癌術前化学療法の蛋白発現プロファイル，一般示説．
- 3.馬場 誠朗，佐々木 章，肥田 圭介，中嶋 潤，高橋 正統，大淵 徹，新田 浩幸，大塚 幸喜，池田 健一郎，若林 剛：cine MRI による胃切除後の胃運動機能評価の可能性について，一般示説．
- 4.肥田 圭介，高橋 正統，藤原 久貴，千葉 丈広，西塚 哲，若林 剛：Clinical usefulness of laparoscopy assisted gastrectomy for early gastric cancer in elderly patients,Oral Presentation.

第 109 回日本外科学会，福岡，2009/4/2～4/4.

- 1.稲葉 亨，柏葉 匡寛，武田 雄一郎，富澤 勇貴，小松 英明，滝山 郁雄，上杉 憲幸，若林 剛：局所進行乳癌に対する術前化学療法後の腫瘍の遺残形式とホルモン感受性、HER2 との関連性の検討，シンポジウム．
- 2.岩谷 岳，木村 祐輔，野田 芳範，高橋 正統，肥田 圭介，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：進行食道癌に対する primary chemotherapy としての 5Fu/CDDP (FP) 療法・Docetaxel/CDDP/5Fu (DCF) 療法の比較検討，一般示説．
- 3.高原 武志，新田 浩幸，藤田 倫寛，大淵 徹，星川 浩一，中嶋 潤，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章，池田 健一郎，水野 大，若林 剛：胆道癌の術後補助化学療法～ GEM+S-1 併用療法 Phase I study,Feasibility study ～，サージカルフォーラム．
- 4.若林 剛：腹腔鏡下ドナー肝切除術の初期成績，ランチョンセミナー．
- 5.若林 剛：ランチョンセミナー 1 生体肝ドナーからの腹腔鏡下ドナー臓器摘出術「腹腔鏡下ドナー腎摘出術の現状と将来」，ランチョンセミナー．
- 6.新田 浩幸，板橋 英敦，藤田 倫寛，大淵 徹，星川 浩一，高原 武志，高橋 正浩，中嶋 潤，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：Hanging technique と自動縫合器を用いた前方アプローチによる肝右葉切除術，一般示説．
- 7.大塚 幸喜，板橋 哲也，藤澤 健太郎，秋山 有史，木村 祐輔，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：超音波凝固切開装置とバイポーラ鉗子を用いた安全で効率的な結腸癌に対する腹腔鏡下リンパ節郭清の手法，ビデオワークショップ．
- 8.大淵 徹，佐々木 章，新田 浩幸，大塚 幸喜，中嶋 潤，馬場 誠朗，肥田 圭介，水野 大，池田 健一郎，若林 剛：同時性大腸癌肝転移例に対する腹腔鏡下大腸肝切除術，一般示説．
- 9.池田 健一郎，木村 祐輔，岩谷 岳，野田 芳範，高橋 正統，伊藤 直子，肥田 圭介，大塚 幸喜，新田 浩幸，佐々木 章，若林 剛：根治手術予定の消化器癌患者に対する術前栄養アセスメント，一般示説．
- 10.中嶋 潤，佐々木 章，大塚 幸喜，板橋 哲也，藤澤 健太郎，大淵 徹，馬場 誠朗，新田 浩幸，肥田 圭介，水野 大，池田 健一郎，若林 剛：大腸癌術後イレウスの危険因子，一般口演．
- 11.藤田 倫寛：転移性肝癌に対する手術成績，一般口演．
- 12.藤澤 健太郎，大塚 幸喜，板橋 哲也，鴻巣 正史，秋山 有史，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：結腸癌に対する腹腔鏡補助下手術後の持続硬膜外麻酔の必要性に関する検討，一般示説．
- 13.馬場 誠朗，佐々木 章，中嶋 潤，大淵 徹，高橋 正統，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，水野 大，池田 健一郎，若林 剛：Cine MRI による胃運動の客観的評価，パネルディスカッション．
- 14.肥田 圭介，高橋 正統，藤原 久貴，千葉 丈広，木村 祐輔，西塚 哲，岩谷 岳，野田 芳範，木村 聡元，柏葉 匡寛，新田 浩幸，大塚 幸喜，水野 大，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：初発進行胃癌に対する TS-1/CDDP 併用化学療法後根治手術の有用性，一般示説．
- 15.富澤 勇貴，小笠原 聡，柏葉 匡寛，稲葉 亨，武田 雄一郎，山本 政秀，若林 剛：甲状腺未分化癌患者における白血球数と G-CSF 値に関する検討，一般示説．
- 16.木村 聡元，大塚 幸喜，板橋 哲也，藤澤 健太郎，秋山 有史，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：大腸癌肝転移に対する腹腔鏡下超音波検査の有用性，一般示説．
- 17.木村 祐輔，池田 健一郎，岩谷 岳，野田 芳範，木村 聡元，肥田 圭介，御供 真吾，新田 浩幸，大塚 幸喜，水野 大，佐々木 章，若林 剛：食道癌手術における頸部食道－胃管縫い吻合：縫合不全ゼロへの挑戦，ビデオシンポジウム．
- 18.野田 宏伸，西塚 哲，石田 和茂，岩谷 岳，新田 浩幸，大塚 幸喜，柏葉 匡寛，肥田 圭介，佐々木 章，水野 大，池田 健一郎，若林 剛：シスプラチン耐性胃癌モデルの確立とその機能的タンパク分子プロファイル，一般示説．

19.野田 芳範,西塚 哲,木村 祐輔,岩谷 岳,木村 聡元,肥田 圭介,高橋 正統,佐々木 章,池田 健一郎,世良 耕一郎,若林 剛:PIXE を用いた CDDP 投与後食道癌症例における白金体内分布の検討,一般示説.

* 佐々木 章:ハイブリッドポスター (126) 甲状腺 1,座長.

* 若林 剛:ビデオセッション (9) 肝切除,司会.

* 大塚 幸喜:大腸 (内視鏡手術 2),司会.

* 池田 健一郎:食道 (周術期:栄養管理),司会.

第 7 回日本ヘルニア学会学術集会,東京,2009/4/10~4/11.

1.岩谷 岳,川村 英伸,板橋 哲也,中嶋 潤,野田 芳範,木村 聡元,馬場 誠朗,佐々木 章,池田 健一郎,若林 剛:鼠径ヘルニア偽還納の 1 例,一般口演.

2.川村 英伸,岩谷 岳,米澤 仁志,板橋 哲也,若林 剛:Kugel 法の再発例から見た手術の工夫,一般口演.

第 36 回日本臓器保存生物医学会,岡山,2009/4/20~4/21.

1.Wakabayashi G: Symposium9: Gene Therapy&New Approaches,Chairman.

第 21 回日本内分泌外科学会,岡山市,2009/5/29~5/30.

1.富澤 勇貴,小笠原 聡,柏葉 匡寛,稲葉 亨,武田 雄一郎,星川 浩一,米山 幸宏,山本 政秀,若林 剛:甲状腺未分化癌患者における予後因子の検討~白血球増多と G-CSF・炎症性サイトカインの関係~,シンポジウム.

第 46 回日本小児外科学会,大阪,2009/6/1~6/3.

1.福澤 太一,水野 大,有末 篤弘,若林 剛:当科における Wilms 腫瘍 3 例の検討,一般示説.

2.有末 篤弘,福沢 太一,水野 大,若林 剛:異所性胃粘膜からの下血にて発症した管状型回腸重複症の 1 例,一般示説.

* 水野 大:ポスター 新生児 3,座長.

第 21 回日本肝胆膵外科学会,名古屋,2009/6/10~6/12.

1.伊藤 直子,新田 浩幸,高原 武志,大淵 徹,藤田 倫寛,板橋 英教,星川 浩一,高橋 正浩,中嶋 潤,佐々木 章,池田 健一郎,若林 剛:膵転移・肝転移を認めた胞巣状軟部肉腫の一切除例,一般示説.

2.高原 武志,新田 浩幸,藤田 倫寛,大淵 徹,伊藤 直子,中嶋 潤,大塚 幸喜,肥田 圭介,佐々木 章,池田 健一郎,若林 剛:腹腔鏡補助下ドナー肝切除,ビデオパネルディスカッション.

3.若林 剛:腹腔鏡下肝切除術の定型化された手技の実際,イブニングセミナー.

4.若林 剛:イブニングセミナー 1 腹腔鏡下肝切除術の方向性 国際コンセンサス会議の報告「腹腔鏡下肝切除術の定型化された手技の実際」,イブニングセミナー.

5.新田 浩幸,高原 武志,藤田 倫寛,板橋 英教,大淵 徹,星川 浩一,高橋 正浩,中嶋 潤,佐々木 章,池田 健一郎,若林 剛:正中切開で行う Double Hanging Technique を用いた前方アプローチによる肝右葉切除術~開腹肝右葉切除の新しい標準手術を目指して~,サージカルフォーラム.

6.新田 浩幸,佐々木 章,藤田 倫寛,板橋 英教,大淵 徹,星川 浩一,高原 武志,高橋 正浩,中嶋 潤,池田 健一郎,若林 剛:腹腔鏡補助下肝切除術 ~立ち上げから高度医療への承認まで~,特別企画.

7.石橋 正久,新田 浩幸,高原 武志,伊藤 直子,藤田 倫寛,大淵 徹,板橋 英教,星川 浩一,高橋 正浩,佐々木 章,池田 健一郎,若林 剛:術前診断が困難であった Solid-pseudopapillarytumor の 1 例,一般示説.

8.大淵 徹,新田 浩幸,佐々木 章,高原 武志,伊藤 直子,藤田 倫寛,板橋 英教,星川 浩一,高橋 正浩,中嶋 潤,池田 健一郎,若林 剛:術後 8 年で多発肝転移とリンパ節転移を認めた腎カルチノイドの 1 切除例,一般示説.

9.藤田 倫寛,新田 浩幸,石橋 正久,板橋 英教,大淵 徹,伊藤 直子,星川 浩一,高原 武志,高橋 正浩,中嶋 潤,佐々木 章,池田 健一郎,若林 剛:当科における肝胆膵外科手術習得の現状,ミニパネルディスカッション.

* 新田 浩幸:最先端の鏡視下手術 肝,座長.

第 34 回日本外科系連合学会,東京,2009/6/18~6/19.

1.御供 真吾,大山健一,村上雅彦,小林慎,若林剛:創傷処置におけるフィルム状ドレナージ製品の使用経験,一般示説.

2.新田 浩幸,佐々木 章,藤田 倫寛,板橋 英教,大淵 徹,伊藤 直子,星川 浩一,高原 武志,高橋 正浩,中嶋 潤,池田 健一郎,若林 剛:腹腔鏡 (補助) 下肝切除術の現状,ビデオシンポジウム.

3.梅邑 晃:続発性消化管アミロイドーシスによる汎発性腹膜炎の 1 例,一般示説.

4.岩谷岳,川村英伸,板橋哲也,中嶋潤,野田芳範,木村聡元,馬場誠朗,佐々木章,池田健一郎,若林剛:鼠径ヘルニア偽還納の 1 例,一般示説.

第 63 回日本食道学会,横浜,2009/6/25~6/26.

1.岩谷 岳,木村祐輔,野田芳範,高橋正統,肥田圭介,西塚哲,木村聡元,佐々木章,池田健一郎,若林剛:進行食道癌に Docetaxel/CDDP/5Fu(DCF) 療法施行後切除例の検討,一般示説.

2.木村 祐輔,池田健一郎,岩谷岳,野田芳範,木村聡元,御供真吾,肥田圭介,上杉憲幸,佐々木章,若林剛:根治的放射線化学療法後の Salvage esophagectomy の適応・意義,一般示説.

3.野田 芳範,西塚哲,木村祐輔,岩谷岳,木村聡元,肥田圭介,佐々木章,池田健一郎,世良耕一郎,若林剛:CDDP 投与後食道癌症例における組織内白金濃度の検討,一般口演.

第 25 回日本 DDS 学会,東京都,2009/7/3~7/4.

1.杉立 彰夫,木村 祐輔,板橋 哲也,野田 宏伸,石田 和茂,西塚 哲,大塚 幸喜,新田 浩幸,柏葉 匡寛,肥田 圭介,水野 大,佐々木 章,池田 健一郎,若林 剛,高森 吉守:キトサン/シスプラチン-新剤形-,一般口演.

第 17 回日本乳癌学会,東京,2009/7/3~7/4.

1.稲葉 亨,柏葉 匡寛,武田 雄一郎,富澤 勇貴,小松 英明,滝山 郁雄,上杉 憲幸,若林 剛:HER2 陽性進行乳癌に対する術前 Trastuzumab/Paclitaxel 療法による個別化治療の試み,一般口演.

2.小松 英明,柏葉 匡寛,稲場 亨,武田 雄一郎,若林 剛:再発進行乳癌での Bisphosphonate-related Osteonecrosis of the jaw (BRONJ)3 例の経験,一般示説.

3.柏葉 匡寛:ランチョンセミナー 11 ビスホスホネート製剤の臨床試験と将来展望,ランチョンセミナー.

4.柏葉 匡寛,稲場 亨,武田 雄一郎,小松 英明,上杉 憲幸,若林 剛:Triple Negative 乳癌における p53 の発現と抗癌剤感受性予測,一般口演.

5.武田 雄一郎,柏葉 匡寛,稲葉 亨,小松 英,瀧山 郁雄,上杉 憲幸,若林 剛:術前 Docetaxel/Cyclophosphamide(TC) 療法による個別化治療の試み,一般口演.

* 柏葉 匡寛:示説討論 29 進行再発 (1),座長.

第 2 回日本肥満症治療学会,東京,2009/7/10~7/11.

1.佐々木 章,大淵 徹,中嶋 潤,馬場 誠朗,木村 祐輔,西塚 哲,柏葉 匡寛,新田 浩幸,大塚 幸喜,肥田 圭介,水野 大,佐藤 譲,若林 剛:腹腔鏡下袖状胃切除術のクリニカルパス,特別企画.

2.中嶋 潤,佐々木 章,大淵 徹,馬場 誠朗,木村 祐輔,西塚 哲,新田 浩幸,大塚 幸喜,肥田 圭介,水野 大,佐藤 譲,若林 剛:重症肥満に対する腹腔鏡下袖状胃切除術の成績,IFSO 日本部会.

第 45 回日本周産期・新生児学会総会,名古屋市,2009/7/12~7/14.

1.浮津 真弓,松本 敦,佐々木 智子,葛西 健郎,千田 勝一,戸津 五月,水野 大,淵向 透:Kasabach-Merritt 症候群に外科療法が著効した新生児例,一般示説.

第 64 回日本消化器外科学会,大阪,2009/7/16~7/18.

1.千葉 丈広,須藤 隆之,高橋 正浩,新田 浩幸,上杉 憲幸,菅井 有,若林 剛:胆嚢原発 MALT リンパ腫の 1 例,一般示説.

2.岩谷 岳,木村 祐輔,野田 芳範,木村 聡元,高橋 正統,肥田 圭介,佐々木 章,池田 健一郎,若林 剛:食道癌肉腫 6 例の検討,一般示説.

3.御供 真吾,目黒 英二,秋山 有史,入野田 崇,早川 善郎,小林 慎,高金 明典,若林 剛:慢性関節リウマチ (RA) に続発した消化管アミロイドーシスによる横行結腸穿孔の 1 例,一般示説.

4.高橋 正統,肥田 圭介,藤原 久貴,千葉 丈広,野田 芳範,岩谷 岳,木村 祐輔,佐々木 章,池田 健一郎,若林 剛:異時性三重複癌に対しすべて鏡視下に手術を施行した 2 症例,一般示説.

5.高原 武志,新田 浩幸,藤田 倫寛,大淵 徹,伊藤 直子,中嶋 潤,大塚 幸喜,肥田 圭介,佐々木 章,若林 剛:肝門部胆管癌の集学的治療 "GEM+S-1 術後補助化学療法 Phase 1 Study",シンポジウム.

6.佐々木 章,新田 浩幸,中嶋 潤,大淵 徹,馬場 誠朗,高原 武志,大塚 幸喜,肥田 圭介,池田 健一郎,若林 剛:腹腔鏡下尾側膵切除術の手術手技と成績,企画関連ビデオ.

7.新田 浩幸,佐々木 章,藤田 倫寛,板橋 英教,大淵 徹,星川 浩一,高原 武志,高橋 正浩,中嶋 潤,池田 健一郎,若林 剛:腹腔鏡 (補助) 下肝切除術の現状と展望,ビデオシンポジウム.

8.石田 和茂,西塚 哲,野田 宏伸,肥田 圭介,佐々木 章,水野 大,池田 健一郎,若林 剛:抗癌剤投与による反応蛋白 kinetics の解析,一般示説.

9.大塚 幸喜,板橋 哲也,藤澤 健太郎,木村 聡元,木村 祐輔,新田 浩幸,肥田 圭介,佐々木 章,池田 健一郎,若林 剛:右側進行結腸癌に対する D3 郭清の腹腔鏡下手術の利点とビットフォーall,企画関連ビデオ.

10.大淵 徹,佐々木 章,中嶋 潤,馬場 誠朗,西塚 哲,木村 祐輔,新田 浩幸,大塚 幸喜,肥田 圭介,水野 大,池田 健一郎,若林 剛:食道アカラシアに対する腹腔鏡下 Heller-Dor 手術の長期成績,一般口演.

11.中嶋 潤,佐々木 章,大塚 幸喜,大淵 徹,板橋 哲也,藤澤 健太郎,馬場 誠朗,新田 浩幸,池田 健一郎,若林 剛:高齢者に対する腹腔鏡下手術の問題点,一般示説.

12.藤田 倫寛,新田 浩幸,高原 武志,板橋 英教,片桐 弘勝,星川 浩一,伊藤 直子,高橋 正浩,佐々木 章,池田 健一郎,若林 剛:当科における腹腔鏡補助下ドナー肝切除クリニカルパスの実際,一般口演.

13.馬場 誠朗,佐々木 章,中嶋 潤,大淵 徹,新田 浩幸,大塚 幸喜,肥田 圭介,水野 大,池田 健一郎,若林 剛:C 型慢性肝炎・肝硬変に対するインターフェロン治療を目的とした腹腔鏡下脾臓摘出術の有用性,一般口演.

14.梅邑 晃,遠藤 義洋,楠田 和幸,鈴木 雄,渋谷 俊介,渋谷 香織,梅邑 明子,谷村 武宏,北村 道彦:直腸癌術後腎瘻刺入部に発生した再発腫瘍に対して Mohs'chemosurgery を施行した 1 例,一般口演.

15.箱崎 将規,舩渡 治,菅原 俊道,亀井 真理,菅原 千治,佐々木 章,若林 剛:急性腹症に対する診断的腹腔鏡の有用性,一般示説.

16.板橋 英教,下沖 収,吉田 雅一,武田 大樹,小松 英明,皆川 幸洋,鈴木 正通,上杉 憲幸,阿部 正,若林 剛:肝血管腫と鑑別に苦慮した胆管細胞癌の 1 例,一般示説.

17.板橋 哲也,大塚 幸喜,藤澤 健太郎,秋山 有史,佐々木 章,若林 剛:クローン病に対する腹腔鏡下手術の治療成績,要望演題.

18.肥田 圭介,高橋 正統,千葉 丈広,馬場 誠朗,野田 芳範,岩谷 岳,木村 祐輔,佐々木 章,池田 健一郎,若林 剛:当科における腹腔鏡補助下胃切除術の導入および標準化への取り組み,一般示説.

19. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 藤澤 健太郎, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛: 当科における SM 癌の検討, 一般示説.
20. 木村 祐輔, 池田 健一郎, 岩谷 岳, 野田 芳範, 木村 聡元, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: c-Stage II/III 食道癌に対する治療戦略, 企画関連口演.
21. 野田 芳範, 西塚 哲, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 木村 聡元, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 世良 耕一郎, 若林 剛: CDDP 投与後食道癌症例における組織内白金濃度の検討, 一般示説.
- * 若林 剛: ランチョンセミナー 8 消化管手術におけるエネルギーソースの選択とピットホール, 司会.
 - * 若林 剛: ビデオシンポジウム 6 腹腔鏡下肝・膵切除, 司会.
 - * 若林 剛: ランチョンセミナー 15 Minimally Invasive 時代の創閉鎖の考え方と実践, 司会.
 - * 佐々木 章: 肝管理・症例 (ポスター), 座長.
 - * 肥田 圭介: GIST2 (ポスター), 座長.

第 61 回北日本小児科学会, 山形市, 2009/9/12.

1. 鳥谷 由貴子, 佐々木 智子, 小野 頼母, 佐々木 慎, 小西 雄, 松本 敦, 葛西 健郎, 千田 勝一, 中野 智, 佐藤 陽子, 高橋 信, 小山 耕太郎, 小泉 淳一, 猪飼 秋夫, 石田 馨, 福澤 太一, 水野 大: 種々の奇形を合併した Goldenher 症候群, 一般口演.

第 45 回日本移植学会, 東京, 2009/9/16~9/18.

1. 及川 裕美, 高橋 朋子, 清野 留理子, 門坂 千代, 柳田 美喜子, 高原 武志, 新田 浩幸, 若林 剛: 腹腔鏡補助下切除術を受ける生体肝移植ドナーのオリエンテーションパンフレット作成と実施, 一般口演.
2. 高原 武志: 生体肝移植後の C 型肝炎治療, ランチョンセミナー.
3. 高原 武志, 新田 浩幸, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 高橋 正浩, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 水野 大, 若林 剛: 血液型不適合肝移植における B cell 寛容～血液型ウラ試験の結果から～, 一般口演.

第 45 回日本胆道学会, 千葉, 2009/9/18~9/19.

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 佐々木 章, 池田 健一郎, 水野 大, 若林 剛: 胆管癌における MDCT の役割～造影パターンからみた切除断端の病理学的検討～, 要望演題.
2. 若林 剛: 胆道癌に対する化学療法 2009 ASCO GI から, ランチョンセミナー.
3. 中嶋 潤, 佐々木 章, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 新田 浩幸, 高原 武志, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛: 重症胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢全摘術の有用性と問題点, 要望演題.
4. 板橋 英教, 新田 浩幸, 若林 剛: 胆道癌の術後補助化学療法～ GEM + S1 併用療法 Phase I study, Feasibility study ～, シンポジウム.
- * 若林 剛: 海外招待講演 1, 司会.
 - * 新田 浩幸: 安全確実な腹腔鏡下胆嚢摘出術の工夫 1, 司会.

第 68 回日本癌学会, 横浜, 2009/10/1~10/3.

1. Nishizuka S, Noda H, Ishida K, Matsuo T, Iwaya T, Wakabayashi G: Protein kinetic analysis of an in vitro chemotherapy-resistant cell population in response to drug exposure, 一般示説.
2. Sugitachi A, Kimura Y, Itabashi T, Noda H, Ishida K, Nishizuka S, Otsuka K, Koeda K, Mizuno M, Sasaki A, Ikeda K, Wakabayashi G: A Novel Approach to Cancer chemotherapy-Chitin/Cisplatin-, 一般口演.
3. Ishida K, Nishizuka S, Noda H, Matsuo T, Shimura T, Iwaya T, Wakabayashi G: Analysis of molecular network kinetics induced by anticancer drugs for the identification of crucial molecular targets, Invited Presentation (International Session).

第 30 回日本肥満学会, 浜松市, 2009/10/9~10/10.

1. 佐々木 章, 大淵 徹, 中嶋 潤, 馬場 誠朗, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐藤 譲, 若林 剛: 重症肥満に対する外科治療: 腹腔鏡下袖状胃切除術の短期成績, シンポジウム.

第 51 回日本消化器病学会 JDDW2009, 京都, 2009/10/14~10/17.

1. 高原 武志: 肝内胆管癌の治療戦略～再発形式からの検討～, パネルディスカッション.

第 13 回日本肝臓学会大会 2009JDDW, 京都, 2009/10/14~10/17.

1. 藤田 倫寛, 前沢 千早, 小谷 康慈, 及川 寛太, 及川 浩樹, 菅野 将史, 板橋 英教, 伊藤 直子, 星川 浩一, 高原 武志, 高橋 正浩, 新田 浩幸, 増田 友之, 若林 剛: ラット活性型肝炎細胞に対する IFN- γ の線維化抑制機構, 一般示説.

第 47 回日本癌治療学会, 横浜, 2009/10/22~10/24.

1. 西塚 哲, 石田 和茂, 野田 宏伸, 松尾 鉄平, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛: ライセートアレイによる蛋白質定量を用いた癌細胞薬剤反応の評価, 講演.
2. 高原 武志, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 高橋 正浩, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛: 肝移植後の肝癌再発に対する集学的治療～Sorafenib の使用も含めて～, シンポジウム.
3. 若林 剛, 佐々木 章, 肥田 圭介, 柏葉 匡寛, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔: 各領域がん治療における内視鏡外科手術の役割, シンポジウム.
4. 若林 剛, 池田 健一郎: 岩手県のがん対策～がん対策基本法施行後の変化, シンポジウム.
5. 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 武田 雄一郎, 小松 英明, 上杉 憲幸, 菅井 有, 三浦 一穂, 熊谷 真澄, 佐藤 誠志, 若林 剛: HER2 可溶性抗原による Trastuzumab 耐性と truncated-HER2(p95-HER2) のモニタリング, 一般口演.

6. 木村 祐輔, 池田 健一郎, 曾根 美雪, 大畑 光彦, 長澤 昌子, 肥田 圭介, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: Co-Medical を対象とした遠隔テレビ会議システムを用いた緩和ケア教育の有用性, ワークショップ.
7. 稲葉 亨, 柏葉 匡寛, 武田 雄一郎, 小松 英明, 瀧山 郁雄, 若林 剛: 当科で経験した乳癌脳転移症例の検討, 一般口演.
8. 石田 和茂, 西塚 哲, 松尾 鉄平, 野田 宏伸, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛: 抗癌剤投与による反応蛋白 kinetics の解析, 一般口演.
9. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛: StageIV 大腸癌に対する腹腔鏡下手術の現状と成績, 一般口演.
10. 肥田 圭介, 高橋 正統, 千葉 丈広, 藤原 久貴, 野田 芳範, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛: 進行・再発胃癌に対する二次以降化学療法としての低容量 CPT-11/CDDP 併用療法の検討, 一般口演.
11. 武田 雄一郎, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 小松 英明, 瀧山 郁雄, 上杉 憲幸, 若林 剛: 術前化学療法が著効したが早期に激症型の再発形式を示した進行乳癌の 1 例, 一般示説.
12. 野田 芳範, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 木村 聡元, 御供 真吾, 高橋 正統, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛: 当科における食道癌術前化学療法による術後感染症の検討, ハイブリットポスター.
- * 若林 剛: シンポジウム 15 生体肝移植後肝癌再発に対する治療戦略, 座長.
 - * 柏葉 匡寛: ランチョンセミナー 44 乳癌臨床検体におけるエストロゲン受容体 (ER) 測定の問題点と最近の進歩, 座長.
 - * 柏葉 匡寛: 乳腺教育セッション, 司会.
 - * 木村 祐輔: 示説 29 食道 2, 座長.

第 58 回日本農村医学会, 横浜, 2009/11/2~11/3.

1. 若林 剛: 地域医療崩壊の現場から再生への提言, シンポジウム.

第 64 回日本大腸肛門病学会, 福岡, 2009/11/6~11/7.

1. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 藤井 大和, 若林 剛: 潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡下大腸全摘術の手技の工夫, ビデオシンポジウム.
2. 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 藤井 大和, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 佐々木 章, 若林 剛: Colitic cancer の 3 例, 一般示説.
3. 木村 聡元, 大塚幸喜, 板橋哲也, 藤澤健太郎, 佐々木章, 池田健一郎, 菅井有, 若林剛: 当科における大腸 SM 癌の検討, 一般口演.

第 31 回日本バイオマテリアル学会, 京都, 2009/11/16~11/17.

1. 杉立 彰夫, 木村 祐輔, 板橋 哲也, 石田 和茂, 松尾 鉄平, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: キトサン/シスプラチン-新剤形による抗癌効果-, 一般口演.

第 71 回日本臨床外科学会, 京都, 2009/11/19~11/21.

1. 伊藤 直子, 新田 浩幸, 高原 武志, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 片桐 弘勝, 星川 浩一, 高橋 正浩, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛: 臨床的膵液瘻と当科におけるドレーン管理の変遷, 一般口演.
2. 岩谷 岳, 中嶋 潤, 板橋 哲也, 川村 英伸, 馬場 誠朗, 野田 芳範, 御供 真吾, 菅野 公徳, 高橋 正統, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛: 当院における鼠径ヘルニア手術の工夫: 局所麻酔下 Kugel 法, サージカルフォーラム.
3. 御供 真吾, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 野田 芳範, 木村 聡元, 肥田 圭介, 高橋 正統, 菅野 公徳, 佐々木 章, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛: 当科における食道癌術後乳糜胸に対する治療方針の検討, 一般口演.
4. 高橋 正統, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛: 当科における高度進行胃食道接合部癌が根治切除可能となった術前化学放射線療法について, サージカルフォーラム.
5. 高原 武志, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 水野 大, 若林 剛: 肝門部胆管癌の術式選択における MDCT の役割～造影パターンからみた切除断端の病理学的検討～, 一般口演.
6. 若林 剛: マスターしておきたい最先端の肝胆膵手術ー低侵襲手術から拡大手術までー, ランチョンセミナー.
7. 若林 剛: 肝実質離断法の進歩と腹腔鏡下肝切除の定型化, 特別企画.
8. 水野 大, 福澤 太一, 池田 健一郎, 佐々木 章, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 若林 剛: 外科手術の教育ー大学病院大外科講座小児外科グループの場合ー, シンポジウム.
9. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 藤井 大和, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛: 腹腔鏡下低位前方切除術の手技とピットフォール, ビデオシンポジウム.
10. 中嶋 潤, 佐々木 章, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 大塚 幸喜, 坂本 隆, 阿部 正, 伊藤 達朗, 遠藤 秀彦, 八島 良幸, 菅野 千治, 若林 剛: テレビ会議システムを利用した遠隔外科医療カンファランス, 一般示説.
11. 藤井 大和, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 新田 浩幸, 西塚 哲, 木村 祐輔, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛: 腹腔鏡下イレウス解除の適応とその手術成績, サージカルフォーラム.
12. 藤田 倫寛, 新田 浩幸, 佐々木 章, 板橋 英教, 伊藤 直子, 星川 浩一, 高原 武志, 高橋 正浩, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛: 標準的腹腔鏡下肝切除, ビデオシンポジウム.
13. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 中嶋 潤, 肥田 圭介, 大淵 徹, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 池田 健一郎, 若林 剛: 術後胃運動機能評価としての cine MRI の有用性と問題点, 一般口演.

14. 梅邑 晃, 郷右近 祐司, 遠藤 義洋, 鈴木 雄, 渋谷 俊介, 梅邑 明子, 谷村 武宏, 北村 道彦: 緩和手術としての胃空腸バイパス手術と人工肛門造設術における QOL と四五因子に関する検討, サージカルフォーラム.
15. 箱崎 将規, 船渡 治, 菅原 俊道, 亀井 真理, 菅野 千治, 若林 剛: ドレーン孔への小腸嵌頓により腸管切除を施行した絞扼性イレウスの一例, 一般示説.
16. 板橋 英教, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 高原 武志, 塩谷 鐘子, 曾根 美雪, 黒坂 大次郎, 江原 茂, 若林 剛: 右眼脈絡膜転移を来した胆管細胞癌の 1 例, 一般示説.
17. 肥田 圭介, 高橋 正統, 藤原 久貴, 千葉 文広, 御供 真吾, 野田 芳範, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛: 腹腔鏡補助下幽門側胃切除術の定型化—各パートにおける術者と助手の役割, 一般ビデオ.
18. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 水野 大, 若林 剛: より安全な腹腔鏡補助下肝切除術を目指して 3D-C Tシミュレーションを用いた術難易度予測, 一般口演.
19. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 星川 浩一, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 池田 健一郎, 若林 剛: 当科における腹腔鏡下肝切除術の肝実質切離に用いる使用機器, 一般ビデオ.
20. 大淵 徹, 佐々木章, 中嶋 潤, 馬場誠朗, 新田浩幸, 大塚幸喜, 西塚 哲, 木村祐輔, 柏葉匡寛, 肥田圭介, 水野 大, 若林 剛: 間膜軸性胃軸捻転を伴った食道裂孔ヘルニアの 2 例, 一般口演.
21. 木村 祐輔, 池田 健一郎, 岩谷 岳, 野田 芳範, 御供 真吾, 肥田 圭介, 高橋 正統, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: T4M0 食道癌に対する治療成績, サージカルフォーラム.
22. 野田 芳範, 西塚 哲, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 木村 聡元, 御供 真吾, 高橋 正統, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 池田 健一郎, 世良 耕一郎, 若林 剛: PIXE を用いた食道癌術前化学療法の効果判定予測の可能性, 一般示説.
23. 遠藤 史隆, 富澤 勇貴, 小笠原 聡, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 武田 雄一郎, 小松 英明, 川岸 涼子, 若林 剛: 未分化転化したオカルト甲状腺乳頭癌の 1 例, 一般口演.
- * 若林 剛: ランチョンセミナー 外科医が難渋する創閉鎖のトラブルシューティング!, 司会.
- * 若林 剛: ビデオセッション 27 腹腔鏡下肝切除術 -2, 司会.
- * 柏葉 匡寛: 一般示説 乳腺— 4, 座長.
- * 肥田 圭介: 一般講演 胃・十二指腸 (悪性) -20, 座長.

第 25 回日本小児がん学会, 浦安市, 2009/11/27~11/29.

1. 福澤 太一, 水野 大, 遠藤 幹也, 有末 篤弘, 白澤 聡子, 菅原 和華, 若林 剛: 初診時多発肺転移を伴った進行 Wilms 腫瘍の治療経験, 一般示説.

第 22 回日本内視鏡外科学会, 東京, 2009/12/2~12/5.

1. 藤井 大和, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 新田 浩幸, 西塚 哲, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛, 大和: イレウスに対する腹腔鏡下手術の適応と成績について, 一般口演.
2. 吉田 雅一, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 板橋 哲也, 藤井 大和, 箱崎 将規, 若林 剛: 腹腔鏡にて診断・治療し得た虫垂憩室炎による膀胱の一例, 一般示説.
3. 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 肥満症に対する腹腔鏡下袖状胃切除術の短期成績と問題点, パネルディスカッション.
4. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 伊藤 直子, 星川 浩一, 高原 武志, 高橋 正浩, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛: 定型化した腹腔鏡 (補助) 下肝切除術, ワークショップ.
5. 水野 大, 福澤 太一, 池田 健一郎, 佐々木 章, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 若林 剛: 重症心身障害児に対する内視鏡手術, 要望演題.
6. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下大腸 (垂) 全摘術に対する EnSeal の使用経験, スポンサーセッションポジウム.
7. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 藤井 大和, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛: 腹腔鏡下低位前方切除術のピットフォールと対処法, 要望演題.
8. 大淵 徹, 佐々木 章, 中嶋 潤, 馬場 誠朗, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 胃 GIST に対する Single Incision Laparoscopic Surgery (SILS), 一般口演.
9. 中嶋 潤, 佐々木 章, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 内視鏡下副腎摘出術: 16 年間の手術成績, パネルディスカッション.
10. 藤田 倫寛, 新田 浩幸, 佐々木 章, 板橋 哲也, 板橋 英教, 星川 浩一, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛: 転移性肝癌に対する腹腔鏡 (補助) 下肝切除術 ～開腹肝切除との比較, 一般口演.
11. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 下沖 収, 阿部 正, 若林 剛: 地域関連病院への内視鏡外科手術の教育・支援, 一般口演.
12. 梅邑 晃, 鈴木 雄, 渋谷 俊介, 北村 道彦: 内視鏡的 EST 困難症例に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術中 Rendezvous technique による術中 EST を施工した 1 例, 一般口演.
13. 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 藤井 大和, 藤澤 健太郎, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 水野 大, 池田 健一郎, 佐々木 章, 若林 剛: 高齢者に対する腹腔鏡下大腸癌手術, 一般口演.

14. 肥田 圭介, 高橋 正統, 千葉 文広, 藤原 久貴, 野田 芳範, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下幽門保存胃切除術 (LAPPG) の手技と成績, 一般口演.
15. 片桐 弘勝, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 菅井 有, 野水 整, 佐々木 章, 若林 剛: 家族性大腸腺腫症に対し腹腔鏡下大腸亜全摘・直腸反転法による肛門管・回腸嚢吻合を施行した 3 例の経験, 一般口演.
16. 木村 聡元, 大塚幸喜, 板橋哲也, 藤澤健太郎, 藤井大和, 箱崎将規, 木村祐輔, 新田浩幸, 肥田圭介, 佐々木章, 池田健一郎, 若林 剛: 開腹手術既往症例に対する腹腔鏡下大腸癌手術の成績, 一般口演.
17. 木村 祐輔, 池田 健一郎, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 野田 芳範, 高橋 正統, 御供 真吾, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 胸部食道癌に対する腹臥位による胸腔鏡下食道切除術の治療経験, 一般ビデオ.
- * 若林 剛: 招請講演 LAPAROSCOPIC MAJOR HEPATECTOMY: AN EVOLUTION OF STANDARD CARE, 司会.
- * 若林 剛: ワークショップ 1: 腹腔鏡肝切除術の標準化に向けて, 司会.
- * 川村 英伸: 一般演題 ヘルニア・腹壁・腹膜 後腹膜腫瘍・その他②, 司会.
- * 大塚 幸喜: 一般演題 大腸・肛門悪性・症例報告⑥, 司会.

第 22 回日本外科感染症学会, 宇都市, 2009/12/10~12/11.

1. 星川 浩一, 佐藤 信博, 八重樫 泰法, 小鹿 雅博, 高橋 学, 若林 剛, 遠藤 重厚: 敗血症における細胞内シグナルタンパク同時多項目定量およびサイトカイン・ケモカイン産生能の検討, ワークショップ.
2. 野田 芳範, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 御供 真吾, 高橋 正統, 菅野 公徳, 肥田 圭介, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛: 当科における食道癌術前化学療法と術後感染症の検討, 一般口演.
- * 若林 剛: 要望演題 06(RS-6-1~7) 鏡視下手術と SSI, 座長.

3-3 研究会・セミナー等

第 70 回大腸癌研究会, 東京, 2009/1/16.

1. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 藤澤 健太郎, 木村 聡元, 秋山 有史, 佐々木 章, 若林 剛: 直腸癌に対する腹腔鏡下拡大視効果による TME/TEME の手技と成績, 一般口演.

第 2 回岩手県がんフォーラム, 盛岡, 2009/1/18.

1. 柏葉 匡寛: 今女性ががんになったら, パネリスト.

第 598 回岩手医学会, 盛岡, 2009/1/19.

1. 野田 芳範, 西塚 哲, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 高橋 正統, 肥田 圭介, 池田 健一郎, 世良 耕一郎, 若林 剛: PIXE 法による食道癌腫瘍内白金濃度の測定及び抗腫瘍効果の検討, 一般口演.

Xeloda Excellence Meeting, 盛岡, 2009/1/23.

- * 若林 剛: 特別講演, 座長.

第 10 回肝移植術後管理検討会, 京都, 2009/1/24.

1. 高原 武志: 当院での生体肝移植 11 例の経験～ドナー腹腔鏡下肝切除の導入とその成績を含めて～, 一般口演.

第 12 回東北家族性腫瘍研究会, 仙台, 2009/1/24.

1. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 藤澤 健太郎, 木村 聡元, 若林 剛: 腹腔鏡下大腸亜全摘・直腸反転法による回腸嚢肛門管吻合術を施行した家族性大腸腺腫症 3 例, 一般口演.

文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」採択プログラム 北東北における総合がん専門医療人の養成 北東北がんプロ FD ワークショップ Vol.3 これからの北東北のがん治療, 秋田, 2009/1/24.

- * 池田 健一郎: 外来化学療法の現状と今後, 座長.

第 28 回岩手県乳腺疾患研究会, 盛岡, 2009/1/31.

1. 武田 雄一郎: 乳癌術前化学療法後の内視鏡補助下乳房温存手術の検討, 一般口演.

第 186 回日本消化器病学会東北支部例会, 仙台, 2009/2/7.

1. 藤田 倫寛, 新田 浩幸, 佐々木 章, 板橋 英教, 大淵 徹, 伊藤 直子, 星川 浩一, 高原 武志, 高橋 正浩, 中嶋 潤, 池田 健一郎, 若林 剛: 肝細胞癌に対する腹腔鏡 (補助) 下肝切除の治療成績, シンポジウム.
2. 藤田 倫寛, 新田 浩幸, 佐々木 章, 板橋 英教, 大淵 徹, 伊藤 直子, 星川 浩一, 高原 武志, 高橋 正浩, 中嶋 潤, 池田 健一郎, 若林 剛: 肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除の治療成績, 一般口演.

第 3 回みちのくウィンターセミナー, 盛岡, 2009/2/7.

- * 新田 浩幸: 特別講演 3, 座長.
- * 大塚 幸喜: 特別講演 4, 座長.
- * 肥田 圭介: 特別講演 2, 座長.
- * 木村 祐輔: 特別講演 1, 座長.

ALI/ARDS Expert Meeting, 盛岡, 2009/2/10.

＊若林 剛：特別講演, 司会.

第 43 回東北膵臓研究会, 仙台, 2009/2/13.

1. 新田 浩幸, 高原 武志, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 大淵 徹, 伊藤 直子, 星川 浩一, 高橋 正浩, 中嶋 潤, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛：当科における IPMN の手術成績, 一般口演.
2. 新田 浩幸, 高原 武志, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 大淵 徹, 星川 浩一, 高橋 正浩, 中嶋 潤, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛：当科における IPMN の手術成績, 一般口演.
3. 川村 英伸, 米澤 仁志：PPPD 後の胃空調吻合部縫合不全に難渋した 1 例, 一般口演.

第 42 回制癌剤適応研究会, 東京, 2009/2/20.

1. 西塚 哲, 石田 和茂, 野田 宏伸, 岩谷 岳, 若林 剛：ライセートアレイによる蛋白質定量を用いた癌細胞薬剤反応の評価, 一般口演.

腹部外科領域における深部静脈血栓症予防学術講演会, 盛岡, 2009/2/20.

＊若林 剛：特別講演, 座長.

第 15 回岩手の消化器臨床栄養懇話会, 盛岡, 2009/2/28.

＊池田 健一郎：特別講演Ⅱ, 座長.

Winter Seminar 2009 in Kiroro, 余市市, 2009/3/3 ～ 2009/3/15.

1. 若林 剛：【エキスパートに学ぶ肝切除鏡視下手術の真実】～ぼくにも出来るか肝切除・鏡視下切除はここまできた～・鏡視下肝切除を導入する際の準備と注意点・実際の術式・術中・術後合併症への対策, 一般口演.

第 3 回岩手肝移植フォーラム, 盛岡, 2009/3/6.

1. 高原 武志：当院における生体肝移植の経験, 一般口演.
- ＊新田 浩幸：一般講演, 座長.

第 6 回日本乳癌学会東北地方会, 仙台, 2009/3/7.

1. 稲葉 亨, 柏葉 匡寛, 武田 雄一郎, 富澤 勇貴, 小松 英明, 滝山 郁雄, 上杉 憲幸, 若林 剛：局所進行乳癌に対する術前化学療法後の乳房温存術についての検討, 一般口演.
2. 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 武田 雄一郎, 小松 英明, 滝山 郁雄, 上杉 憲幸, 若林 剛：Trastuzumab を中心とした HER2 陽性進行再発乳癌に対する治療戦略の検証, 一般口演.
3. 武田 雄一郎, 稲葉 亨, 柏葉 匡寛, 小松 英明, 瀧山 郁雄, 上杉 憲幸, 若林 剛：術前化学療法後に粘液癌が遺残した 3 例の経験, 一般口演.

第 57 回圭稜会院長会総会, 盛岡, 2009/3/9.

1. 若林 剛：外科医療における大学の役割, 特別講演.

第 20 回東北小児肝胆膵消化管研究会, 仙台, 2009/3/13～3/14.

1. 有末 篤弘, 福澤 太一, 水野 大, 若林 剛, 松本 敦, 和田 泰格, 佐々木 智子, 戸津 五月：巨大肝血管腫の外科的切除にて救命し得た新生児 Kasabach-Merritt 症候群の 1 例, 一般口演.

第 31 回東北小児がん研究会, 仙台, 2009/3/14.

1. 福澤 太一, 水野 大, 有末 篤弘, 白澤 聡子, 菅原 和華, 遠藤 幹也, 若林 剛：集学的治療にて治癒しえた進行 Wilms 腫瘍の 1 例, 一般口演.

SIRS・ALI SEMINAR in 岩手 2009, 盛岡, 2009/3/19.

1. 梅邑 晃：全身麻酔手術後人工呼吸管理症例の検討, 一般口演.

第 22 回東北甲状腺談話会, 盛岡市, 2009/3/21.

1. 富澤 勇貴, 小笠原 聡, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 武田 雄一郎, 若林 剛：甲状腺未分化癌患者における白血球数と G-CSF に関する検討, 一般口演.

第 25 回岩手ストーマ研究会, 盛岡, 2009/3/28.

1. 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 藤澤 健太郎, 熊谷 妃小江, 山田 麻紀子, 佐々木 ひろ子, 瀧本 未由紀, 千葉 励子, 高橋 あつ子, 佐々木 章, 若林 剛：当科における人工肛門造設術の変換, 一般口演.

第 20 回内視鏡外科フォーラム東北, 仙台, 2009/4/18.

1. 佐々木 絢子, 中軽米 綾, 七役 留美, 阿部 京子, 新田 浩幸, 若林 剛：手術室スタッフからみた腹腔鏡（補助）下肝切除術の現状, 一般口演.
2. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 大淵 徹, 星川 浩一, 高原 武志, 高橋 正浩, 中嶋 潤, 池田 健一郎, 若林 剛：腹腔鏡（補助）下肝切除術における手技の工夫と今後の展望, シンポジウム.
3. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 藤澤 健太郎, 木村 聡元, 佐々木 章, 若林 剛：直腸癌に対する腹腔鏡下手術の手技と成績, シンポジウム.
4. 新田 浩幸：肝胆膵領域の内視鏡手術の進歩, 座長.

岩手 Neuroendocrine Tumor シンポジウム, 盛岡, 2009/4/25.

- ＊若林 剛：特別講演 2「膵内分泌腫瘍の治療」 飯原 雅季先生, 座長.
- ＊新田 浩幸：一般講演, 司会.

第 8 回日本 PTEG 研究会学術集会, 福岡市, 2009/4/25.

1. 富澤 勇貴, 池田 健一郎, 青木 毅一, 新田 浩幸, 中嶋 潤, 板橋 哲也, 星川 浩一, 藤田 倫寛, 若林 剛：当科における経皮経食道胃管挿入術（PTEG）の合併症の検討, 一般口演.

第 2 回北東北胆道癌セミナー, 盛岡, 2009/5/1.

1. 高原 武志：胆道癌術後補助化学療法について, 一般口演.

第 98 回日本病理学会総会, 京都, 2009/5/1～5/3.

1. 千葉 丈広, 西塚 哲, 上杉 憲幸, 三好 寛明, 菅井 有, 福島 紀雅, 肥田 圭介, 若林 剛, 田村 元：組織マイクロアレイを用いた胃癌術前化学療法後切除例の蛋白発現プロファイル, 一般口演.
2. 村岡 聡介, 角田 加奈子, 宮本 章弘, 菅野 将史, 及川 浩樹, 前沢 千早, 増田 友之, 前田 文彦, 赤坂 俊英：隆起性皮膚線維肉腫との鑑別を要した cellular fibrous histiocytoma の 1 例, 一般示説.

第 12 回岩手内視鏡外科研究会, 盛岡, 2009/5/9.

1. 佐々木 章, 肥田 圭介, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 高橋 正統, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛：胃粘膜下腫瘍に対する SILS(Single Incision Laparoscopic Surgery), 一般口演.
 2. 福澤 太一, 水野 大, 石田 馨, 中嶋 潤, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛：低コストで腹腔鏡下虫垂切除術を施行する工夫, 一般口演.
- ＊若林 剛：特別講演Ⅱ, 座長.

第 63 回手術手技研究会, 札幌, 2009/5/15～5/16.

1. 新田 浩幸, 高原 武志, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 大淵 徹, 星川 浩一, 高橋 正浩, 中嶋 潤, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛：正中切開で行う Double Hanging Technique を用いた前方アプローチによる肝右葉切除術, 一般口演.
2. 藤田 倫寛：定型化した腹腔鏡下肝外側区域切除手術手技と成績, セッション.

第 6 回岩手 GIST 研究会, 盛岡, 2009/5/16.

1. 高橋 正統：当科におけるスーデントの使用経験, 一般口演.
 2. 大淵 徹, 新田 浩幸, 佐々木 章, 肥田 圭介, 高原 武志, 伊藤 直子, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 星川 浩一, 高橋 正浩, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 水野 大, 池田 健一郎, 菅井 有, 若林 剛：Imatinib 投与後に切除を施行した胃 GIST 肝転移の 1 例, 一般口演.
- ＊若林 剛：特別講演, 座長.
- ＊肥田 圭介：一般演題, 座長.

第 3 回 EARLY EXPOSURE SEMINAR, 盛岡, 2009/5/18.

＊若林 剛：特別講演, 司会.

第 30 回癌免疫外科研究会, 久留米市, 2009/5/21～5/22.

＊若林 剛：一般演題 3(O)「肝・胆・膵」, 座長.

第 2 回岩手緩和フォーラム, 盛岡, 2009/5/22.

＊若林 剛：特別講演, 座長.

第 31 回日本癌局所療法研究会, 宇部市, 2009/6/5.

1. 杉立 彰夫, 木村 祐輔, 星川 浩一, 野田 宏伸, 西塚 哲, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛：徐放化シスプラチンの抗癌効果, 一般口演.

岩手県大腸癌病理研究会, 盛岡, 2009/6/13.

＊若林 剛：特別講演Ⅱ, 座長.

第 18 回日本癌病態治療研究会, 福島市, 2009/6/18～6/19.

1. 西塚 哲, 石田 和茂, 野田 宏伸, 岩谷 岳, 若林 剛：ライセートアレイによるストレス反応蛋白理論モデルの実験的検証, シンポジウム.

Chugai Breast Cancer Symposium in Sendai, 仙台, 2009/6/19.

1. 柏葉 匡寛：HER2 陽性乳癌の治療戦略, パネリスト.

第 123 回日本小児科学会岩手地方会, 盛岡市, 2009/6/20.

1. 鳥谷 由貴子, 佐々木 智子, 小野 頼母, 佐々木 慎, 小西 雄, 松本 敦, 葛西 健郎, 千田 勝一, 中野 智, 佐藤 陽子, 高橋 信, 小山 耕太郎, 小泉 淳一, 猪飼 秋夫, 石田 馨, 福澤 太一, 水野 大：種々の奇形を合併した Goldenher 症候群, 一般口演.

第 19 回東北肝臓外科研究会, 仙台, 2009/6/20.

1. 藤田 倫寛：転移性肝癌に対する手術成績, 一般口演.
2. 有末 篤弘, 福澤 太一, 水野 大, 若林 剛, 松本 敦, 和田 泰格, 佐々木 智子, 戸津 五月：外科的切除にて救命し得た Kasabach-Merritt 症候群を呈する巨大肝血管腫の 1 例, 一般口演.

第 1 回いわて肥満症治療セミナー, 盛岡, 2009/6/22.

- ＊若林 剛：講演 1（症例提示）, 座長.
- ＊若林 剛：講演 1, 座長.

第 20 回岩手漢方臨床研究会，盛岡，2009/6/23.

- 1.馬場 誠朗：Cine MRI による胃運動の客観的評価，基調講演．
- * 若林 剛：基調講演，座長．
- * 若林 剛：特別講演，座長．

23 回食道内視鏡研究会，横浜，2009/6/26.

- 1.木村 祐輔：左側臥位による胸腔鏡下食道切除術，一般ビデオ．

第 8 回 国際バイオフォーラム，東京，2009/7/1～7/3.

- 1.西塚 哲：ライセートマイクロアレイを用いた抗癌剤感受性予測，研究成果発表フォーラム．

第 45 回日本肝癌研究会，博多，2009/7/3 ～ 2009/7/4.

- 1.新田 浩幸，藤田 倫寛，高原 武志，板橋 英教，星川 浩一，伊藤 直子，高橋 正浩，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：手術侵襲の軽減を目指した肝切除術，一般ビデオ．
- 2.藤田 倫寛，新田 浩幸，高原 武志，板橋 英教，片桐 弘勝，星川 浩一，伊藤 直子，高橋 正浩，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：肝内胆管癌に対する治療戦略，パネルディスカッション．

第 7 回南部外科研究会，花巻，2009/7/4.

- 1.福澤 太一，水野 大，中嶋 潤，石田 馨，西塚 哲，木村 祐輔，新田 浩幸，大塚 幸喜，柏葉 匡寛，肥田 圭介，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：小児急性虫垂炎に対する SILAS（single incision laparoscopic-assisted surgery），一般口演．
- 2.肥田 圭介：進行胃癌をどう治療するか，シンポジウム．
- * 中嶋 潤：シンポジウム① 腹腔鏡下胆嚢摘出術の開腹以降のタイミング，座長．

第 27 回日本肝移植研究会，三島，2009/7/10～7/11.

- 1.高原 武志，滝川 康裕，藤田 倫寛，伊藤 直子，新田 浩幸，佐々木 章，池田 健一郎，水野 大，鈴木 一幸，若林 剛：生体肝移植後の C 型肝炎再発に対する Mizoribne を用いた治療戦略，シンポジウム．
- 2.新田 浩幸，高原 武志，藤田 倫寛，板橋 英教，星川 浩一，伊藤 直子，高橋 正浩，佐々木 章，水野 大，池田 健一郎，若林 剛：腹腔鏡補助下ドナー肝切除術の手技と成績，一般ビデオ．

第 5 回東北乳癌化学療法セミナー，盛岡，2009/7/11.

- 1.柏葉 匡寛：St. Gallen 2009, ディスカッション．

第 187 回日本消化器病学会 東北支部例会，福島，2009/7/20.

- 1.板橋 哲也，大塚 幸喜，木村 聡元，箱崎 将規，藤井 大和，藤澤 健太郎，西塚 哲，木村 祐輔，新田 浩幸，水野 大，池田 健一郎，佐々木 章，若林 剛：高齢者に対する腹腔鏡下大腸切除術の検討，シンポジウム．

Chugai Breast Cancer Seminar in IWATE, 盛岡，2009/7/24.

- * 若林 剛：特別講演，座長．

「がんを知る月間」公開シンポジウム がんと共に生きる ～がんとの上手な付き合い方～，盛岡，2009/7/25.

- 1.若林 剛：第二部 公開シンポジウム，コーディネーター．
- 2.池田 健一郎：第二部 公開シンポジウム，パネリスト．

第 9 回岩手甲状腺研究会，盛岡，2009/7/25.

- 1.遠藤 史隆：未分化転化したオカルト甲状腺乳頭癌の 1 例，一般口演．
- * 若林 剛：Ⅱ -2 特別講演，座長．
- * 富澤 勇貴：一般演題，座長．

いわて遠隔外科医療カンファレンス特別講演，盛岡，2009/7/29.

- * 若林 剛：特別講演，司会．

岩手癌治療研究会，盛岡，2009/7/31.

- * 若林 剛：特別講演，座長．

宮城大腸癌セミナー，仙台市，2009/8/1.

- * 若林 剛：講演Ⅲ，座長．

第 3 回名古屋癌シンポジウム，名古屋，2009/8/8.

- 1.若林 剛：腹腔鏡下脾切除（体尾部切除、脾温存体尾部切除），ビデオセッション．

第 23 回キチン・キトサンシンポジウム，佐賀市，2009/8/20～8/21.

- 1.杉立 彰夫，木村 祐輔，板橋 哲也，野田 宏伸，石田 和茂，西塚 哲，大塚 幸喜，新田 浩幸，柏葉 匡寛，肥田 圭介，水野 大，佐々木 章，池田 健一郎，高森 吉守，若林 剛：キトサンを担体としたシスプラチン DDS，一般口演．

岩手大腸癌化学療法フォーラム，盛岡，2009/8/21.

- * 若林 剛：特別演題，座長．
- * 大塚 幸喜：大腸癌化学療法の最新情報について，司会．
- * 大塚 幸喜：討論会，司会．

第 5 回岩手緩和ケアセミナー，盛岡，2009/8/22.

- * 池田 健一郎：特別演題，座長．
- * 木村 祐輔：緩和医療における診療連携を考える，座長．

AstraZeneca Breast Cancer Academia, 大阪，2009/8/29～8/30.

- * 柏葉 匡寛：乳癌の遺伝子 Profiling, 司会．

第 3 回岩手外科教育セミナー，盛岡，2009/9/4.

- * 若林 剛：講演 2, 座長．
- * 柏葉 匡寛：講演 1, 座長．

第 397 回ハ戸外科集談会，ハ戸市，2009/9/9.

- 1.有末 篤弘：当科における直腸癌の手術成績，一般口演．

第 35 回東北小児外科研究会，福島，2009/9/11.

- 1.福澤 太一，水野 大，遠藤 史隆，中嶋 潤，西塚 哲，木村 祐輔，新田 浩幸，大塚 幸喜，柏葉 匡寛，肥田 圭介，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：小児直腸脱に対する腹腔鏡下 Wells 変法直腸固定術，一般口演．

第 77 回日本小児外科学会東北地方会，福島，2009/9/12.

- 1.遠藤 史隆，水野 大，福澤 太一，西塚 哲，木村 祐輔，新田 浩幸，大塚 幸喜，柏葉 匡寛，肥田 圭介，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：内腔への出血にて発症した嚢胞型重複腸管の 1 例，一般口演．
- * 水野 大：小児外科 1, 座長．

第 4 回肝癌治療シミュレーション研究会，神戸，2009/9/19.

- 1.鎌田 雅義，佐藤 裕一，嶽間澤 博，曾根 美雪，加藤 健一，江原 茂，高原 武志，新田 浩幸，若林 剛：肝臓 volumetry：ワークステーションによる差異についての検討，一般口演．
- 2.片桐 弘勝，新田 浩幸，高原 武志，板橋 英教，藤田 倫寛，伊藤 直子，木村 祐輔，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章，池田 健一郎，水野 大，若林 剛：3D-CT による腹腔鏡補助下ドナー肝切除術の術難易度予測，一般口演．

第 4 回北東北 LAC 情報交換会，盛岡，2009/10/3.

- * 若林 剛：特別講演，座長．

平成 21 年度日本臨床細胞学会福島県支部学術大会，郡山，2009/10/4.

- 1.柏葉 匡寛：HER2 陽性乳癌の治療の現状と未来，ランチョンセミナー．

第 3 回肝移植症例検討会，盛岡，2009/10/7.

- * 若林 剛：ミニレクチャー，座長．
- * 若林 剛：症例検討，座長．

第 5 回いわて肝移植適応委員会，盛岡，2009/10/9.

- * 若林 剛：特別講演Ⅱ，座長．

学術講演会－食道癌治療に対する perspective を考える－，盛岡，2009/10/10.

- * 池田 健一郎：特別講演，座長．

北東北 4 大学がんプロフェッショナル養成プラン 北東北がん医療コンソーシアム「2009 がんを知る月間」，盛岡市，2009/10/11.

- * 木村 祐輔：地域で支える緩和ケア，座長．

第 42 回日本甲状腺外科学会，名古屋，2009/10/15～10/16.

- 1.富澤 勇貴，小笠原 聡，柏葉 匡寛，稲葉 亨，武田 雄一郎，小松 英明，遠藤 史隆，川岸 涼子，米山 幸宏，若林 剛：G-CSF 産生甲状腺未分化がんの検討，一般示説．

岩手県大腸癌フロンティア，盛岡，2009/10/17.

- * 若林 剛：特別講演 2, 座長．

第 41 回癌とリンパ節研究会，横浜，2009/10/24.

- 1.柏葉 匡寛，稲葉 亨，武田 雄一郎，小松 英明，川岸 涼子，上杉 憲幸，若林 剛：腋窩リンパ節転移陽性乳癌に対する術前化学療法後 99m-Tc-Phytate による Sentinel node biopsy (SNB) の妥当性の検討，一般口演．
- 2.木村 聡元，大塚 幸喜，板橋 哲也，藤澤 健太郎，木村 祐輔，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：大腸癌遠隔および主リンパ節再発に対し摘出術を施行した 5 例，一般口演．

3.野田 芳範,西塚 哲,木村 祐輔,岩谷 岳,高橋 正統,木村 聡元,御供 真吾,肥田 圭介,佐々木 章,世良 耕一郎,若林 剛：CDDP 投与後食道癌症例における組織内白金濃度と抗腫瘍効果との関連性,一般口演.

岩手外科緩和医療検討会,盛岡,2009/10/29.

＊ 若林 剛：特別講演,座長.

第 29 回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会,鹿児島,2009/10/29～10/30.

1.福澤 太一,水野 大,遠藤史隆,中嶋 潤,西塚 哲,木村 祐輔,新田 浩幸,大塚 幸喜,柏葉 匡寛,肥田 圭介,佐々木 章,池田 健一郎,若林 剛：小児直腸脱に対する腹腔鏡下 Wells 変法直腸固定術,一般口演.

第 39 回胃外科・術後障害研究会,仙台,2009/10/29～10/30.

1.肥田 圭介,高橋 正統,馬場 誠明,御供 真吾,野田 芳範,中島 潤,岩谷 岳,木村 祐輔,佐々木 章,若林 剛：腹腔鏡下幽門保存胃切除術 (LAPPG) の現状と cine-MRI による機能評価,一般口演.

＊ 肥田 圭介：一般演題,座長.

Pfizer Oncology Symposium Breast Cancer,東京,2009/10/31.

1.柏葉 匡寛：ホルモン感受性乳癌に対する化学療法の有効性,パネリスト.

第 22 回東北膵・胆道癌研究会,仙台,2009/10/31.

1.板橋 英教,高原 武志,藤田 倫寛,伊藤 直子,新田 浩幸,若林 剛：肝門部胆管癌の術式選択における MDCT の役割～造影パターンからみた切除断端の病理学的検討～,一般口演.

東北膵胆道癌研究会,仙台,2009/10/31.

＊ 新田 浩幸：一般講演,座長.

第 13 回いわての肝胆膵フォーラム,盛岡,2009/11/7.

＊ 若林 剛：講演Ⅲ,座長.

＊ 新田 浩幸：症例検討,司会.

第 3 回手術手技セミナー,盛岡,2009/11/12.

＊ 若林 剛：特別講演,座長.

第 11 回日本消化器病学会東北支部教育講演会,盛岡,2009/11/15.

1.若林 剛：生体肝移植－最近の話題,ランチョンセミナー.

第 13 回東北緩和医療研究会,福島市,2009/11/17.

1.木村 祐輔：遠隔テレビ会議システムを用いた緩和ケア教育の有用性,一般口演.

第 19 回外科漢方研究会（第 71 回日本臨床外科学会総会合同シンポジウム）,京都,2009/11/19.

＊ 若林 剛：ワークショップⅠ,司会.

第 2 回ラバローム技術検討会,東京,2009/11/24.

1.若林 剛：装置イメージ提案についてのディスカッション,ディスカッション.

第 5 回肝移植周術期フォーラム,盛岡,2009/11/25.

＊ 若林 剛：教育講演,座長.

第 2 回東北ヘルニア研究会,仙台,2009/11/28.

1.岩谷 岳：鼠径ヘルニア術後慢性疼痛に関する検討,一般口演.
2.中嶋 潤,岩谷 岳,川村 英伸,大淵 徹,梅邑 晃,板橋 哲也,野田 芳範,西塚 哲,佐々木 章,若林 剛：鼠径・大腿ヘルニア嵌頓例に対する局所麻酔下 Kugel 法の検討,一般口演.

第 4 回東北消化器外科周術期研究会,仙台,2009/11/28.

1.高原 武志：生体肝移植後の肝静脈狭窄に対して再生術を施行した 1 例,一般口演.

東北静脈経腸栄養研究会,青森,2009/11/28.

1.富澤 勇貴,池田 健一郎,若林 剛：頭頸部癌患者に対する PTEG を用いた長期栄養管理の有用性,一般口演.

第 3 回肝臓内視鏡外科研究会,東京,2009/12/2.

1.新田 浩幸：アンケート報告,一般口演.
2.藤田 倫寛,新田 浩幸,板橋 英教,星川 浩一,伊藤 直子,高原 武志,高橋 正浩,西塚 哲,木村 祐輔,大塚 幸喜,柏葉 匡寛,肥田 圭介,佐々木 章,水野 大,若林 剛：腹腔鏡（補助）下肝切除術の手法と Pitfall,パネルディスカッション.

第 3 回内視鏡下肥満外科治療研究会,東京,2009/12/2.

1.佐々木 章,中嶋 潤,大淵 徹,馬場 誠朗,西塚 哲,木村 祐輔,新田 浩幸,大塚 幸喜,肥田 圭介,水野 大,若林 剛：腹腔鏡下袖状胃切除術のコツとピットフォール,シンポジウム.

第 12 回東北移植研究会,仙台,2009/12/5.

1.片桐 弘勝,新田 浩幸,高原 武志,板橋 英教,藤田 倫寛,伊藤 直子,木村 祐輔,大塚 幸喜,肥田 圭介,佐々木 章,池田 健一郎,若林 剛：3D-CT による腹腔鏡補助下ドナー肝切除術の術難易度予測,一般口演.

第 16 回外科侵襲とサイトカイン研究会,東京,2009/12/19.

1.星川 浩一,佐藤 信博,八重樫 泰法,小鹿 雅博,高橋 学,若林 剛,遠藤 重厚：敗血症における細胞内シグナルタンパク同時多項目定量およびサイトカイン・ケモカイン産生能の検討,一般口演.
2.箱崎 将規,西塚 哲,若林 剛,小鹿 雅博,鈴木 泰,高橋 学,遠藤 重厚,前沢 千早：敗血症における血中サイトカイン・ケモカイン多項目同時定量,一般口演.

第 4 回肝移植症例検討会,盛岡,2009/12/22.

1.高原 武志：C 型肝炎症例の術後,一般口演.

＊ 若林 剛：Lecture,座長.

＊ 若林 剛：case study,座長.

第 158 回東北外科集談会,福島,2009/9/12.

1.石田 馨,肥田 圭介,高橋 正統,御供 真吾,野田 芳範,岩谷 岳,木村 祐輔,佐々木 章,水野 大,池田 健一郎,若林 剛：Docetaxel+TS-1 療法が肝転移巣に奏効した進行胃癌の 1 例,一般口演.

4. 講演会

一関医師会学術講演会,一関,2009/1/15.

1.柏葉 匡寛：骨転移管理から考える乳癌診療の進歩,講演.

日本静脈経腸栄養学会認定 教育セミナープログラム,鹿児島,2009/1/30～1/31.

1.池田 健一郎：栄養障害の病態生理,講演.

第 28 回岩手県乳癌疾患研究会,盛岡,2009/1/31.

1.柏葉 匡寛：岩手県乳癌検診結果,講演.

「新世代プロテオミクス：ゲノムワイドな抗体のみる夢」シンポジウム,東京,2009/2/3.

1.西塚 哲：細胞ライセートアレイによるタンパク発現解析と臨床応用 Cell lysate microarrays for protein expression analysis and clinical application.招待講演.

消化器外科セミナー,札幌,2009/2/6.

1.若林 剛：腹腔鏡（補助）下肝切除術の標準化を目指して,特別講演.

第 6 回みんなで学ぼうチームオンコロジー,大阪,2009/2/14～2/15.

1.柏葉 匡寛：EBM とは?,講演.

第 6 回日本乳癌学会東北地方会,仙台,2009/3/7.

1.柏葉 匡寛,稲葉 亨,武田 雄一郎,小松 英明,滝山 郁雄,上杉 憲幸,若林 剛：教育セミナー「治療」,講演.

科学談話会平成 21 年 3 月例会,盛岡,2009/3/13.

1.池田 健一郎：がんに関わった人も、まだ関わっていない人も知っておくべき“がん”の知識,講演.

南陽市東置賜郡医師会学術講演会,山形県川西町,2009/3/18.

1.池田 健一郎：栄養療法の考え方と外来患者に対する栄養投与,特別講演.

第 17 回クリニカル・ビデオフォーラム（CVF）,東京,2009/3/21.

1.若林 剛：腹腔鏡補助下ドナー肝切除の意義と手技,招待講演.

九州乳癌化学療法学術講演会,博多,2009/4/11.

1.柏葉 匡寛：Non-Anthracycline 補助療法の展望,講演.

秋田県消化器がん検診検討会,秋田市,2009/4/18.

1.肥田 圭介：早期胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術,講演.

第 393 回八戸外科集談会,八戸市,2009/4/22.

1.木村 祐輔：岩手医科大学附属病院における緩和ケアチームの現状 立ち上げからこれまでの歩み,講演.

第 57 回山口県肝癌治療研究会,山口,2009/5/8.

1.若林 剛：肝癌に対する腹腔鏡下肝切除,特別講演.

資材撮影・研修，盛岡，2009/5/20.

1. 柏葉 匡寛：岩手医科大学における TC 療法の実際，講演．

平成 21 年 Professional Education Seminar Lap-Colon II，須賀川，2009/5/22～5/23.

1. 大塚 幸喜：腹腔鏡下低位前方切除術の「手技」と「ピットフォール」，講演．

第 1 回 東北腹腔鏡下手術手技セミナー，郡山，2009/5/23 ～ 5/24.

1. 大塚 幸喜：Echelon 60 を使った機能的端々吻合，講演．

第 360 回岩手胃腸研究会，盛岡市，2009/5/29.

1. 肥田 圭介：早期胃癌に対する腹腔鏡下手術，講演．

第 2 回 Setouchi Surgical Seminar，郡山，2009/5/30 ～ 5/31.

1. 大塚 幸喜：直腸癌に対する腹腔鏡下低位前方切除，講演．

第 5 回広島 Breast Cancer Academia，広島，2009/5/30.

1. 柏葉 匡寛：乳がん術前化学療法，講演．

横浜 246 乳癌懇話会，横浜，2009/6/5.

1. 柏葉 匡寛：乳癌術後療法の個別化に向けて，講演．

白寿会総会，盛岡市，2009/6/6.

1. 池田 健一郎：今、知っておくべき“がん”の基礎知識，講演．

BMKK 乳癌治療セミナー，横浜，2009/6/12.

1. 柏葉 匡寛：乳癌術後化学療法におけるタキサン製剤の役割，講演．

第 14 回神奈川消化器内視鏡外科研究会，郡山，2009/6/12 ～ 6/13.

1. 大塚 幸喜："安全な腹腔鏡下大腸手術 一技術認定医取得のための手技とピットフォールー，講演．

第 29 回栃木県乳腺研究会，宇都宮，2009/6/13.

1. 柏葉 匡寛：乳癌チーム医療のもたらすもの，講演．

第 1 回いわて肥満症治療セミナー，盛岡，2009/6/22.

1. 佐々木 章：重症肥満に対する腹腔鏡下袖状胃切除の成績，講演．

第 20 回岩手漢方臨床研究会，盛岡，2009/6/23.

1. 馬場 誠朗：Cine MRI による胃運動の客観的評価，基調講演．

エルブラット外科腫瘍フォーラム in Sendai，仙台，2009/6/26.

1. 大塚 幸喜：大腸癌の補助化学療法の施行意義 ～ FOLFOX は施行する価値があるのか～，講演．

Chugai Breast Cancer Seminar in IWATE，盛岡，2009/7/24.

1. 柏葉 匡寛：anti-HER2 の治療戦略，講演．

第 53 回徳島乳腺研究会，徳島，2009/7/25.

1. 柏葉 匡寛：乳癌の個別化治療に向けて，講演．

岩手癌治療研究会，盛岡，2009/7/31.

1. 大塚 幸喜：ICOG についての状況報告・ディスカッション，講演．
2. 大塚 幸喜：安全な腹腔鏡下大腸癌手術の標準化をめざして，特別講演．

Breast Cancer Meeting in Kagoshima，鹿児島，2009/7/31.

1. 柏葉 匡寛：ビスフォスフォネート製剤の臨床試験と将来展望，講演．

市民公開講座「からだに優しい手術を知っていますか？ー最先端の内視鏡外科手術ー」，盛岡市，2009/8/1.

1. 若林 剛：講演 1「肝移植における腹腔鏡下手術の導入」，講演．
2. 佐々木 章：講演 2「肥満患者への新しい減量手術」「最小な 1 つの傷で治す内視鏡外科手術」，講演．
3. 新田 浩幸：講演 3「肝がんに対する高度医療：腹腔鏡補助下肝切除」，講演．

平成 21 年度「がんプロフェッショナル養成プラン」事業 北東北がん医療コンソーシアム総会，盛岡市，2009/8/1.

1. 池田 健一郎：岩手県のがん診療連携協議会の取組の現状と今後，講演．

平成 21 年度第 2 回 NST 勉強会，盛岡，2009/8/21.

1. 木村 祐輔：緩和ケアと栄養管理，講演．

がんプロフェッショナル講演会，盛岡，2009/9/5.

1. 柏葉 匡寛：ここまで解った！乳がんの多様性と治療の関わり，講演．

第 27 回 Microwave Surgery 研究会，横浜，2009/9/5 ～ 9/6.

1. 若林 剛：ランチョンセミナー 腹腔鏡下肝切除の最前線，講演．

8th Team Building Seminar - Essential for endoscopic surgery -, 福島，2009/9/5 ～ 9/6.

1. 佐々木 章：腹腔鏡下手術におけるチーム医療の推進，招待講演．

能代市市民公開講座，能代，2009/9/6.

1. 柏葉 匡寛：今、増えている！乳がんと前立腺がんのお話し 乳がんのお話し，講演．

三陸外科集談会，釜石，2009/9/11.

1. 柏葉 匡寛：乳癌の多様性と治療コンセンサスの関わり，講演．

平成 21 年度日本外科学会 第 17 回生涯教育セミナー，福島，2009/9/12.

1. 柏葉 匡寛：手術 v s 非手術 最近のエビデンスから「乳癌」，講演．

病院薬剤師会福島支部研修会，福島市，2009/9/16.

1. 池田 健一郎：周術期の栄養管理，講演．

第 1 回埼玉乳癌勉強会，さいたま，2009/9/18.

1. 柏葉 匡寛：乳癌化学療法 最近のトピックス，講演．

AstraZeneca Breast Cancer Seminar，名古屋，2009/9/19.

1. 柏葉 匡寛：Molecular — target Therapy の展望，講演．

第 13 回県南乳腺診断フォーラム，八戸，2009/9/26.

1. 柏葉 匡寛：乳腺画像診断と Intrinsic Subtype の関連，講演．

第 9 回沖縄乳腺疾患懇話会，沖縄，2009/10/2.

1. 柏葉 匡寛：抗 HER2 治療の展望，講演．

第 25 回長崎肝胆道隣外科研究会，長崎市，2009/10/3.

1. 新田 浩幸：肝胆膵領域の腹腔鏡下手術～岩手医科大学の手術手技～，特別講演．

第 4 回北東北 LAC 情報交換会，盛岡，2009/10/3.

1. 板橋 哲也：技術認定医取得ビデオの供覧，講演．
2. 大塚 幸喜：腹腔鏡下低位前方切除のコツとピットフォール，講演．

広島臓器移植セミナー，広島市，2009/10/7.

1. 西塚 哲：ライセートアレイを用いた細胞内シグナル伝達の定量解析，特別講演．

第 3 回肝移植症例検討会，盛岡，2009/10/7.

1. 新田 浩幸：腹腔鏡補助下ドナー肝切除の手技と実績，講演．
2. 高原 武志：拡大右葉グラフトにおける肝静脈再建，講演．

愛知乳癌治療懇話会，名古屋，2009/10/15.

1. 柏葉 匡寛：Intrinsic Subtype からみる薬剤感受性，講演．

Professional Education Seminar Lap-Colon III，郡山，2009/10/16～10/17.

1. 大塚 幸喜：ー Pre-Recording Seminar ー 腹腔鏡下 S 状結腸切除，講演．

Chugai Breast Cancer Symposium in Osaka，大阪，2009/10/28.

1. 柏葉 匡寛：HER2 陽性乳癌の治療戦略，講演．

大阪乳癌勉強会，大阪，2009/10/28.

1. 柏葉 匡寛：HER シグナルに対する新規標的治療の動向，講演．

第 8 回宮崎内視鏡外科研究会 2009，宮崎，2009/10/30.

1. 若林 剛：定型化された腹腔鏡下肝切除の手技，特別講演．

第 12 回北海道乳腺疾患研究会，札幌，2009/10/30.

1. 柏葉 匡寛：再発乳癌治療個別化に向けた取り組み，講演．

第 12 回多摩外科がんフォーラム，東京，2009/10/31.

1. 若林 剛：腹腔鏡下肝切除の定型化された手技，特別講演．

第 1 回肝胆膵シンポジウム，栃木，2009/10/31.

1. 若林 剛：腹腔鏡下手術，特別講演．

研究業績

岩手医科大学共通教育セミナー 平成21年度医・歯・薬学部合同特別講義,盛岡,2009/11/13.

- 1.西塚 哲：プロフェッショナルとしての役割,特別講演.

第11回北九州肝癌治療研究会,小倉,2009/11/14.

- 1.若林 剛：完全腹腔鏡下肝切除からハイブリット肝切除まで,特別講演.

第2回 The Next Hemotologists Forum,金沢,2009/11/14.

- 1.西塚 哲：ライセートアレイを用いた細胞内シグナル伝達の定量解析の癌治療への応用,特別講演.

乳癌チーム医療講演会,新潟,2009/11/14.

- 1.柏葉 匡寛：医師の目線から見た乳癌チーム医療,講演.

第1191回千葉医学会例会 臓器制御外科学教室談話会,千葉,2009/11/22.

- 1.若林 剛：腹腔鏡下肝切除を定型化する,特別講演.

社会保険指導者講習伝達会,盛岡,2009/11/29.

- 1.新田 浩幸：肝がん治療のupdate 膵がん治療のupdate,講演.

岩手県病院薬剤師会 第三回がんセミナー,盛岡市,2009/12/12.

- 1.木村 祐輔：終末期がん患者の病態と緩和的治療 ー疼痛以外の諸症状にどう向き合うかー,講演.

第17回消化器勉強会,大阪,2009/12/18.

- 1.大塚 幸喜：下部消化器疾患に対する最近こだわっている腹腔鏡下手術手技,講演.

第13回乳腺腫瘍科セミナー,さいたま,2009/12/18.

- 1.柏葉 匡寛：チーム医療によるTC療法の個別化,講演.

BMKK 大阪乳がんセミナー,大阪,2009/12/19.

- 1.柏葉 匡寛：術前・術後化学療法における個別化治療の方向性,講演.

編集後記

編集後記

「教室年報」の編集を任されて今回で4回目の発行になりますが、まだまだ至らぬ点が数多くありご迷惑をおかけしております。発行を予定しておりました6月の同門回総会に間に合わせることができず、お忙しい中早急に原稿をいただいた先生方に対し心からお詫び申し上げます。

本誌の「関連病院だより」は、毎年のことでもあり日常診療で大変お忙しい先生方には本当にご苦勞をおかけしておりますが、岩手を離れた同門の先生方から毎年のように好評をいただいております。また他大学の教室年報を拝見させていただいておりますが、「関連病院だより」のコーナーは他にはない本誌の大きな特徴であり、大学と関連病院が一致団結したチームワークの良さを全国にアピールできていると自負しております。関連病院の先生方には、この場を借りて心より感謝申し上げるとともに今後ともよろしく願いいたします。

来年こそ期限どおりの発行をめざし、さらに質の高い年報を作って参りたいと思いますので、本誌に対する厳しいご意見（編集者を交代させろ！など）やご感想をいただけると幸いです。

最後にご執筆いただきました関連病院の先生方、編集に協力していただいた教室員、教室秘書さん、毎年写真撮影や画像を提供してくださっている画像情報センターの大村直樹さん、そして本誌制作を担当してくださっているヤマダプランニングの八重畑さんに深謝を申し上げるとともに、巖刀会の先生方の益々のご健勝を心からお祈り申し上げます。

平成22年5月

大塚 幸喜

編集後記

「教室年報」の編集を任されて今回で4回目の発行になりますが、まだまだ至らぬ点が数多くありご迷惑をおかけしております。発行を予定しておりました6月の同門回総会に間に合わせることができず、お忙しい中早急に原稿をいただいた先生方に対し心からお詫び申し上げます。

本誌の「関連病院だより」は、毎年のごことでもあり日常診療で大変お忙しい先生方には本当にご苦勞をおかけしておりますが、岩手を離れた同門の先生方から毎年のように好評をいただいております。また他大学の教室年報を拝見させていただいておりますが、「関連病院だより」のコーナーは他にはない本誌の大きな特徴であり、大学と関連病院が一致団結したチームワークの良さを全国にアピールできていると自負しております。関連病院の先生方には、この場を借りて心より感謝申し上げるとともに今後ともよろしく願いいたします。

来年こそ期限どおりの発行をめざし、さらに質の高い年報を作って参りたいと思いますので、本誌に対する厳しいご意見（編集者を交代させろ！など）やご感想をいただけると幸いです。

最後にご執筆いただきました関連病院の先生方、編集に協力していただいた教室員、教室秘書さん、毎年写真撮影や画像を提供してくださっている画像情報センターの大村直樹さん、そして本誌制作を担当してくださっているヤマダプランニングの八重畑さんに深謝を申し上げるとともに、巖刀会の先生方の益々のご健勝を心からお祈り申し上げます。

平成22年5月

大塚 幸喜



表紙説明

撮影：2009.6.13

チャグチャグ馬コ／毎年 6 月の第 2 土曜日に行われ、滝沢村の鬼越蒼前神社から盛岡市の盛岡八幡宮まで、華やかな装束で着飾った 100 頭ほどの馬を連れて行進するお祭りです。たくさんの鈴を身につけ、歩くたびにチャグチャグと鳴る鈴の音が初夏の訪れを感じさせます。昭和 53 年に国の無形民俗文化財に選定され、その鈴の音は、平成 8 年に環境省の「残したい“日本の音風景 100 選”」に認定されています。

巖刀会（がんとうかい：岩手山別称（巖鷲山）から1字とり、岩手の外科医の象徴の意）